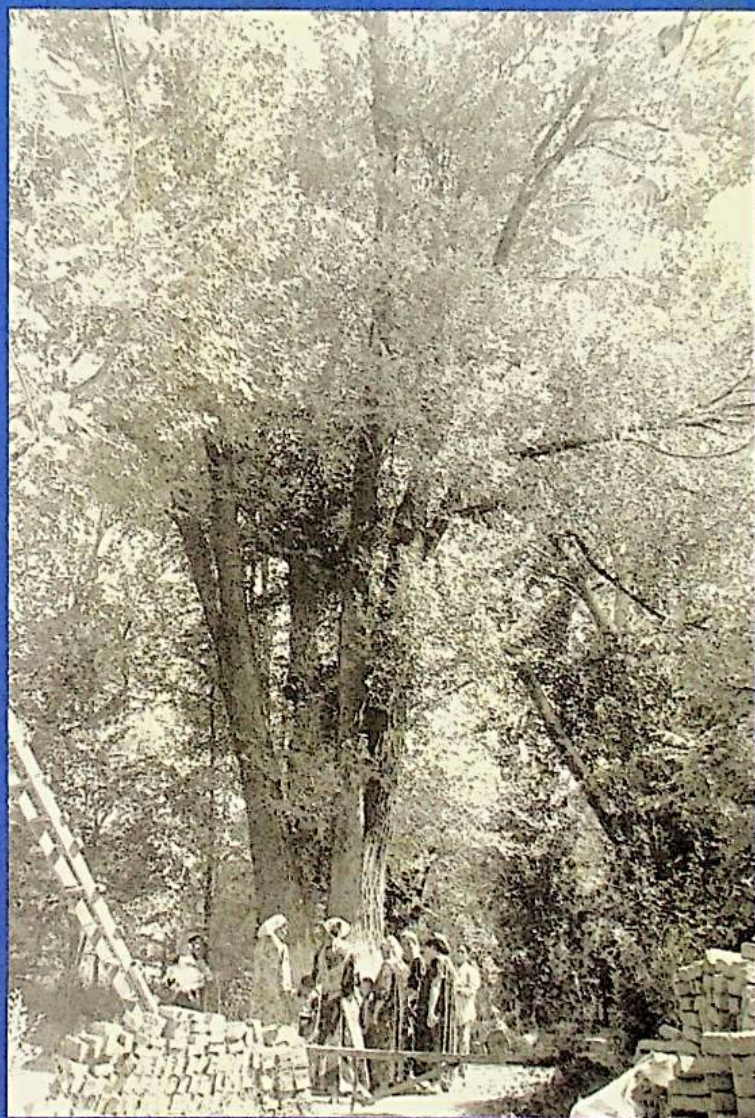


新疆およびフェルガナのマザール文書 (影印)

# Mazar Documents

from Xinjiang and Ferghana  
(F A C S I M I L E)

# 1.



菅原純  
河原弥生 (編)

Edited by

SUGAWARA Jun  
KAWAHARA Yayoi



Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa  
Tokyo University of Foreign Studies 2006



新疆およびフェルガナのマザール文書

(影 印)

Mazar Documents from Xinjiang and Ferghana

(Facsimile)

Синьцзян ва Фарғонада топилган мазор ҳужжатлари

(Факсимиле)

شىنجاڭ ۋە پەرغاندا تېپىلغان مازار ھۆججەتلىرى

(فاكسىمىل)

- 1 -

菅原純 河原弥生 (編)

Edited by SUGAWARA Jun KAWAHARA Yayoi

Тузувчилар: СУГАВАРА Жун КАВАХАРА Яёи

تۈزگۈچلەر: سۇگاۋارا جۇن كاۋاخارا يايوئى

東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所  
Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies  
Токио чет тиллари университети, Осиё-Африка тил-маданияти тадқиқот институти  
Токио چەت ئەل تىللىرى ئۇنىۋېرسىتېتى ئاسىيا-ئافرىقا تىل-مەدەنىيىتى تەتقىقات ئىنستىتۇتى

Cover photo by Sawada Minoru  
Qutayba ibn Muslim Mazar, Uzbekistan 2004.

*STUDIA CULTURAE ISLAMICAE 83.*

***Mazar Documents from Xinjiang and Ferghana (Facsimile) 1.***

Edited by SUGAWARA Jun KAWAHARA Yayoi

Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies  
December 2006

*Ислом маданияти тадқиқот мажмуаси 83.*

***Синьцзян ва Ферғонада топилган мазор ҳужжатлари (Факсимиле) 1.***

Тузувчилар: СУГАВАРА Жун КАВАХАРА Яёи

Токио чет тиллари университети, Осиё-Африка тил-маданияти тадқиқот институти  
декабрь 2006

ئىسلام مەدەنىيىتى تەتقىقات مەجمۇئەسى-83.

**شىنجاڭ ۋە پەرغاندا تېپىلغان مازار ھۆججەتلىرى (فاكسىمىل) 1.**

تۈزگۈچلەر: سۇگاۋارا جۇن كاۋاخارا يايونى

توكيو چەت ئەل تىللىرى ئۈنۋېرسىتېتى ئاسىيا-ئافرىقا تىل-مەدەنىيىتى تەتقىقات ئىنستىتۇتى

دىكابىر 2006

ISBN 4-87297-949-4

---

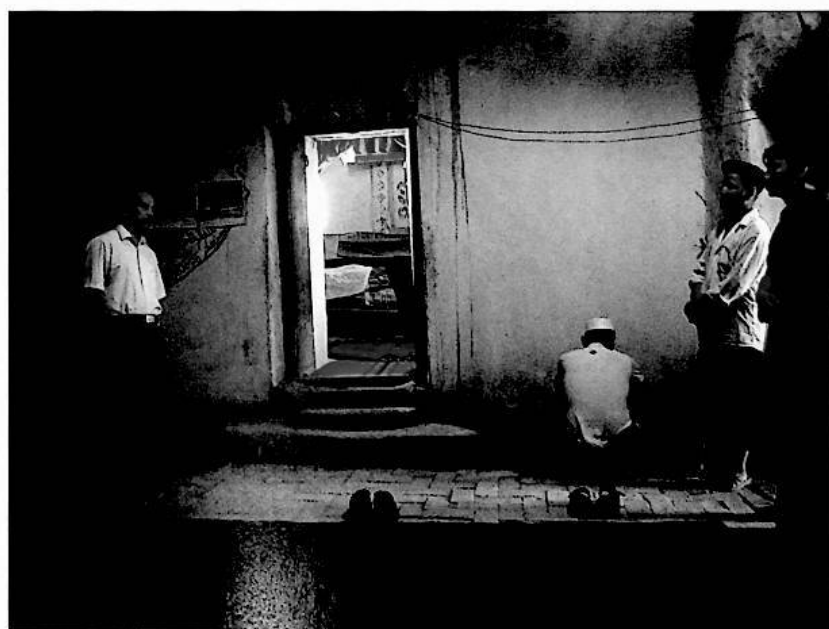
Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa

Tokyo University of Foreign Studies

3-11-1 Asahi-cho, Fuchu-shi, Tokyo 183-8534 JAPAN

<http://www.aa.tufs.ac.jp>

[editcom@aa.tufs.ac.jp](mailto:editcom@aa.tufs.ac.jp)

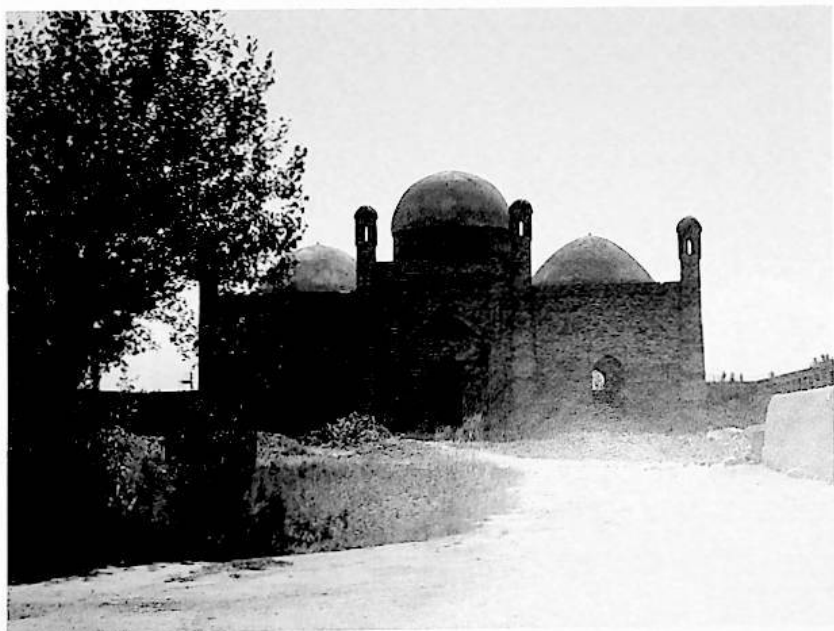


Āzizim Aghacham Mazar, Qumul, Xinjiang (Photo by J. Sugawara)





Qutayba ibn Muslim Mazar (Photo by Y.Shinmen)



Qarayazi Baba Mazar (Photo by Y.Shinmen)

## 謝 辞

本書の編集に当たっては多くの方々のお世話になった。まずアブリズ・オルホン氏とナーディルベク・アブドゥアハトフ氏には本書のウイグル語ならびにウズベク語部分の訳出にご協力いただいた。また、新免康氏と菅原睦氏には本書の原稿を一通り校閲いただき、貴重なご意見を賜った。感謝申し上げる。以上の方々はみなトヨタ財団の助成による「マザール文書」研究プロジェクトのメンバーである。「マザール文書」研究に理解を示し、こうした方々と協業の機会を与えてくれたトヨタ財団にも感謝したい。

最後に、AA 研の『イスラム文化叢書』83 号として本書の出版が可能となったのは、ひとえに羽田亨一先生のご尽力によるものである。ここに記して深甚の感謝を申し述べたい。

編 者

## Acknowledgement

On the behalf of editing this book, we were given warm help by many colleagues. Firstly, we are grateful to Abliz ORXUN and Nadirbek ABDUHAHATOV, for supporting translation into Modern Uyghur and Uzbek. SHINMEN Yasushi and SUGAHARA Mutsumi had kindly accepted our request to review the drafts. All the fellows above-mentioned are members of our research project on "Mazar Documents" funded by Toyota Foundation. We would like to express our gratitude to Toyota Foundation which have shown understandings on "Mazar Document" studies, and given opportunity to work with these colleagues together.

Lastly, we deeply thanks to Professor HANEDA Ko'ichi's commitment for publishing this book as the 83<sup>rd</sup> issue of ILCAA's book-series *Studia Culturae Islamicae*.

Editors

## Ташаккурнома

Кўлингиздаги бу китобни тузуш жараёнида куйидаги кишиларнинг кўмагига эриштик. Олди билан Аблиз Орхун ва Нодирбек Абдурахатов ўртоклар китобнинг уйгурча ва ўзбекча қисимларининг таржимасига куч сарф қилди. Айниқса Шинмен Ясуши ва Сугахара Муцумилар китоб оригиналларини бир кур кўздан кечириб чкиб қимматли фикрларни берди. Бу ўртокларга алоҳида миннатдорлигимизни билдирамыз. Уларнинг ҳаммаси Тойота фонди хомийлик қилган «Мозор ҳужжатлари» талқикот планининг аъзоларидир. Тойота фондининг «Мозор ҳужжатлари» талқикотининг муҳим аҳамиятини тушиниб этиб, бизга юқоридаги кишилар билан ҳамкорлашиш фурсати яратиб берганига ташаккур билдирамыз.

Сўнггида шуни айтмоқчимизки, бу китобнинг Осиё-Африка тил-маданияти талқикот институтини томонидан чоп этилаётган «Ислам маданияти мажмуаси»нинг 83-номери сифатида нашр этилиши профессор Ханеда Коичи устозининг шарофатидан бўлди. Бу кишига ҳам катта ташаккур изҳор этамыз.

-тузувчилардан

## تەشەككۈر نامە

بۇ كىتابنى تۈزۈش جەريانىدا، نۆۋەدىكى كىشىلەرنىڭ ياردىمىگە ئېرىشتۇق. ئالدى بىلەن ئابلىز ئورخۇن ۋە نادىر بەك ئابدۇنەھەتوفلار كىتابنىڭ ئۇيغۇرچە ۋە ئۆزبېكچە قىسىملىرىنىڭ تەرجىمىسىگە كۈچ چىقاردى. يەنە شىنمەن ياسۇشى ۋە سۇگاھارا مۇتسۇمىلار بۇ كىتابتىكى ئورنىگىنالىرىنى بىر قۇر كۆزدىن كەچۈرۈپ چىقىپ، قىممەتلىك پىكىرلەرنى بەردى. ئالاھىدە رەھىمىتىمىزنى بىلدۈرمىز. يۇقىرىدا تىلغا ئېلىنغان كىشىلەر، تويوتا فوندى ياردەم قىلغان «مازار ھۆججەتلىرى» تەتقىقات پىلانىنىڭ ئەزالىرىدۇر. تويوتا فوندىنىڭ «مازار ھۆججەتلىرى» تەتقىقاتىنىڭ مۇھىملىقىنى چۈشىنىپ يېتىپ، بىزگە يۇقىرىدىكى كىشىلەر بىلەن ھەمكارلىشىش پۇرسىتى يارىتىپ بەرگەنلىكىگە تەشەككۈر ئېيتىمىز. ئاخىرىدا، بۇ كىتابنىڭ ئاسىيا-ئافرىقا تىل-مەدەنىيىتى تەتقىقات ئىنستىتۇتىدىن تەرىپىدىن چىقىرىلىۋاتقان «ئىسلام مەدەنىيىتى مەجمۇئەسى» نىڭ 83- سانى بولۇپ نەشر قىلىنىشى، پروفېسسور خانېدا كوئىچى ئۇستازنىڭ دۆلىتىدۇر. بۇ يەردە ئۇ كىشىگە چىن قەلبىمىزدىن ئالى رەھىمىتىمىزنى بىلدۈرمىز.

—تۈزۈمچىلەردىن



## 目次 Contents Мундарижа مۇندەرىجە

序論 マザール文書の研究へ向けて.....	1
新疆のマザール文書.....	5
フェルガナ盆地のマザール文書.....	7
Introduction: Towards a Study of Mazar Documents.....	13
Documents discovered in Xinjiang.....	19
Documents discovered in Ferghana Valley.....	21
Мозор ҳужжатлари тадқиқотига кириш.....	27
Синьцзянда топилган ҳужжатлар.....	33
Фарғона водийсида топилган ҳужжатлар.....	35
58.....	مازار ھۆججەتلەرى تەتقىقاتىغا كىرىش
50.....	شىنجاڭدا تېپىلغان ھۆججەتلەر
46.....	پەرغانە ۋادىسىدا تېپىلغان ھۆججەتلەر
影印 Facsimile Факсимиле فاكسىمىل ..... 60-154	

## 序論 マザール文書の研究へ向けて

菅原 純

### 1. 「マザール文書」とは何か

マザール(イスラーム聖者廟)は、イスラーム聖者を崇拜の対象とするイスラーム信仰的要素と、病気治癒や子授けなど、現世利益の追求を軸とする民衆信仰的要素とを併せ持つ複合的な性格を有する施設として、ながく地域住民の精神的拠り所として機能してきた。同時にマザールは、巡礼や参詣の対象として、狭いコミュニティを越えた広域的な人的交流の結節点として、社会的にも重要な役割を果たしてきた<sup>1</sup>。

本書で紹介する「マザール文書」とは、そのマザールの由来やマザールの維持・運営・儀礼の執行等に深く関わる人々が代々受け継ぎ、保持してきた文書群に対し、編者たちがここで便宜的に用いる呼称である。これら文書はマザールがその地域において果たしてきた役割を反映して、各マザールに直接関わる人々、地域共同体によって、今日まで保持されてきた。その規模、内容や保管状況は地域によってさまざまであり、特に本書が対象とした2つの地域すなわちフェルガナと新疆とではお互いに相当の隔りがある。これらの文書には、(埋葬されている聖者の子孫を称する)マザールの管理人としての正統性に関するものや、マザールの建物や敷地に関するもの、マザールに対する寄付等に関するもの、マザールの由来を伝えるものなどが含まれる。稀に17-18世紀の文書も発見されるが、19-20世紀に作成されたものが圧倒的多数を占める。それぞれの文書は時代によってペルシア語やテュルク語で書かれており、時には部分的にアラビア語を含むこともある。また、後世のものにはロシア語や漢文が併記されていることも多い。

内容から見たマザール文書の内訳は主として以下の通りである：

- (1)系譜書(シャジャラ、ナサブナーマ、ジョロンカイ) 預言者ムハンマドから所有者に至る血統上の繋がりを示す系譜書。埋葬されている聖者たちは、たとえそれがイスラーム化以前の時代に由来する人物であれ、ほとんどの場合は預言者ムハンマドの子孫とみなされている。そしてマザールの管理人は被埋葬者の子孫である場合が多く、彼らの管理人としての正統性を示すためには系譜書の保持は必須であった。樹木形状の系図である場合と、テキスト状のものに分けられる。巻物状であることが多く、長いものでは10メートル以上に達するものもある。
- (2)聖者伝(タズキラ) 埋葬されている聖者やその先祖及び子孫の聖者たちにまつわる伝記・伝説。主人公の奇跡を含む宗教的活躍を強調することによって、マザールやその管理者たる当該聖者の子孫たちの地域社会における宗教的権威を高める意義をもつ。
- (3)叙任状 管理人等の任命書。フェルガナでは多くの場合、マザールの管理人等はときの政権によって任

<sup>1</sup> マザールの社会的機能、歴史に果たしてきた役割については真田安、王建新、新免康『新疆ウイグルのバザールとマザール』(イスラム文化叢書第70号)、東京:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、1992年; Rahilä Dawut, *Uyghur mazarliri*. Ürümchi: Shinjang Khäq Nāshriyati, 2003.など参照。



命されていた。

(4)特権保証状 免税等の特権の保証書。フェルガナで聖者の子孫たちは、諸税を免れるなど、政権によって特別な地位を与えられていた。叙任状と並んで、マザールの政治的な位置づけを窺わせる材料である。

(5)寄進文書(ワクフナーマ) 墓廟やそれに附属するモスク、マドラサ(イスラーム高等教育学院)等の施設に対してなされた寄進(ワクフ)の証書。地域社会の住民とマザールの経済面をはじめとする具体的なかわりを知る上で重要な史料である。

(6)裁判関連文書 管理人の任命等をめぐって起こる係争に関する申し立て(ダワー)、法的意見(ファトワー)、判決(フクム)等からなる文書。マザールの社会的権益にかかる具体的状況を窺わせる史料となる。

(7)聖蹟案内書 参詣に用いることを目的として作成されたと考えられる著作物。マザールの名称、被葬者、所在地などの基本情報に加え、各マザールにまつわる伝説やマザール参詣の意義、参詣の心得などが書かれていることがある。

上記文書のほかに、マザールと密接な関係を有する隣接地域社会で取り交わされた一般契約文書類(売買、賃貸借、贈与、相続、委任ほか)も広義の「マザール文書」と看做しうる場合がある。これら文書は地域社会において精神的、社会的機能を有するマザールの権威を補強する「生きた文書」であり、その存在自体が地域社会にとり今日的意義を有しているのみならず、学術的にもマザールの由来や歴史、地域社会に果たしてきた役割を明らかにする情報を数多く含んでいるのである。

## 2. マザール文書の危機的状況

アライ山脈を隔てて隣接する新疆・フェルガナ両地域にはマザールが多数存在し、当地住民の間では、現在に至るまで、それぞれの地域の、あるいは地域を越えたマザールに対する信仰が脈々と生き続けている。同時に、両地域においてマザール文書は、前述のようにマザールに関わる価値あるものとして一定の社会的認知を受け、今日まで民間所蔵の文書として保持され続けてきた。しかしながらその将来は必ずしも楽観できる状況には無い。20世紀末に発生した2つの事象、すなわち、ソ連の解体による中央アジア民族国家の独立、そして中国における文化大革命の終結と改革・開放政策の始動によって、両地域は伝統文化を復活させ、相互交通を回復する方向に動いている。しかしその反面で、程度の差こそあれ、対外開放の裏返しとして「世俗化」が急速に進みつつあり、それがそれぞれの地域で伝統文書のおかれた状況に危機的な変化をもたらしつつある。

フェルガナ地域においては、ソ連が崩壊して中央アジアに5つの独立国が成立した現在、国を挙げて自らの伝統文化・歴史の再認識の必要性が叫ばれているにもかかわらず、歴史史料に対する関心は必ずしも高くはない。同様に近年のイスラーム信仰への回帰により、マザール参詣が以前に比べて活発になってきているのに対し、その風潮と文書類への人々の態度との間には大きなギャップがあり、一般に若い世代の住民においてこれらマザール文書に対する価値認識は極めて低い。

新疆は昨今の中国の国家プロジェクト「西部大開発」の影響で、漢族人口が急激に増加し、劇的な社会文化基盤の変化の波にさらされており、伝統的なウイグル社会は、解体しつつあると言っても過言ではない。そのような中、同地域に多数存在するマザールなどの宗教施設にも、次第に衰退の兆しが見えている。たとえば近年の動きとして、対外開放政策のコンテキストから打ち出されたツーリズム振興策によるマザールの観光地化があげられる。外来の旅行者からマザールの施設、人々の巡礼・参詣行為はいまや観光の対象として注

目されており、それに対応する形でマザールの管理は伝統的な管理者・地域共同体から各地域政府の文化担当部門の手に移りつつある。こうした世俗化傾向が目下新疆全域で進行しつつある。

要するにフェルガナ、新疆両地域は、一方が独立による伝統文化の再認識、もう一方がドミナントな中国文化の浸透・漢族人口の流入による伝統社会の解体という一見背反する趨勢の只中にありながら、「世俗化」によってマザール文書が喪失の危機に直面しているという点においてはともに同じ問題をかかえている。こうした状況にあってマザール文書の保存と集成をおこなうことは、両地域の伝統文化保護ならびに伝統地域社会像の解明のため喫緊の課題であるといえる。

### 3. 乏しいマザール文書の書誌情報とコレクション

写本、あるいは一般的な契約文書(カーディ文書)などの文字史料がかつて両地域でソ連、中国の学術機関等によって組織的に収集され、結果それら史料類が今日両国の文書館等に一定数収められているのに対し、マザール文書の所在情報、そして公的機関に収められたコレクションは極めて乏しい。従ってその所在情報、書誌情報も詳らかではない。このことは、マザール文書が前述の通り「生きた文書」として、地域社会で価値あるものとの共通の認知を受けていたため、従前の組織的収集活動の中での購入対象とはなりえなかったことに起因している。

従って、現在民間に所蔵されるマザール文書は、その類例さえもが公的所蔵機関では見出すことが出来ない極めてユニークな史料であり、現下の危機的状況に照らすならば、今こそがマザール文書の書誌情報を記録し、かつ研究に供しうる環境を整備する最後のチャンスであるといえる。

### 4. 「マザール文書」の集成に向けて

上述の問題意識に立ち、編者はじめその問題意識を共有する研究者たちは、マザール文書に直接関係する地域社会との連携の下、これらマザール文書の所在を調査し、集成し、研究する取り組みに着手した。それが「マザール文書プロジェクト」である。当プロジェクトはフェルガナ・新疆両地域でマザール文書の保存体制を確立し、地域のマザールを軸とする伝統的な風俗・習慣の保持・継承に貢献することを目的とする。あわせて両地域を横断するマザール文書研究を通じて、マザールをめぐる地域史の再構築ならびに両地域共通の文化基盤の解明とを試みるものである。

当プロジェクトの組織にあたっては、これまでマザールならびに「マザール文書」研究に関連した、いくつかの組織的取り組みと個人の調査研究活動とがあり、それらの蓄積を前提としていることをまずここでお断りしておく必要がある。以下に組織的取り組みのあらましを示す:

- (1)1996年 中国・新疆カシュガル、トルファン地区マザール調査(新免康、真田安、王建新:科学研究費補助金(科研)「イスラム圏における異文化接触のメカニズム—人間動態と情報に関する総合的研究」(研究代表者:家島彦一)による)<sup>2</sup>。
- (2)1998年 中国・新疆カシュガル地区マザール調査(堀直、澤田稔:各個人研究費による)<sup>3</sup>。

<sup>2</sup> 新免康、真田安、王建新『新疆ウイグルのバザールとマザール』(イスラム文化叢書第70号)、東京:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、1992年参照。

<sup>3</sup> 澤田稔「オルダム・パーディシャー聖域について」『内陸アジア史研究』第14号、pp.91-109; 同「タリム盆地周縁部イスラム史跡調査報告」『帝塚山学院大学・人間文化学部研究年報』増刊号、pp.49-70 参照。



(3)2000年 中国・新疆ホタン地区マザール調査 (澤田稔、菅原純: 科研「中央アジアにおける共属意識とイスラムに関する歴史的研究」(研究代表者新免康)による)。

(4)2005年 中国・新疆ハミ地区マザール調査 (菅原純: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 GICAS サブプロジェクト「内陸アジア・オンライン・リソースの構築」(研究代表者中見立夫)による)。

(5)2004-5年 ウズベキスタンフェルガナ州・新疆カシュガル地区マザール調査 (澤田稔、新免康、菅原純、河原弥生、アシルベク・ムミノフ、ナーディルベク・アブドゥアハトフ: (財)なら・シルクロード博記念国際交流財団・シルクロード学研究センター課題研究「中央アジアのイスラーム聖地の研究 —フェルガナ盆地を中心に」(研究代表者澤田稔)による)。

とくに最後にあげたならシルクロード研究財団助成になる研究活動は参加者の顔ぶれからも、また調査研究対象からも当プロジェクトの雛形とも言えるべきものであり、「マザール文書」研究への道を拓く成果を収めえた取り組みであった。

上記のようなさまざまな取り組みを背景として組織された当プロジェクトは、本書の編者のひとり菅原純(東京外国語大学 AA 研産学官連携研究員)がプロジェクト・リーダーをつとめ、研究メンバーとしてもうひとりの編者河原弥生(日本学術振興会特別研究員)はじめ、澤田稔(富山大学教授)、新免康(中央大学教授)、菅原陸(東京外国語大学助教授)、アシルベク・ムミノフ(カザフスタン共和国教育科学省東洋学研究所副所長)、ナーディルベク・アブドゥアハトフ(フェルガナ博物館副館長)、アブリズ・オルホン(新疆ウイグル自治区地方志編纂委員会研究員)、アルスラン・アブドゥッラ(新疆大学人文学院院长、教授)、ラヒラ・ダウト(新疆大学人文学院教授)、アサド・スレイマン(新疆大学人文学院教授)、現地協力者としてアリーシェール・タシクロフ(『フェルガナ州文化新聞』副編集長)、イスマーイールハーン・マフムードフ(ウズベキスタン、ウチェクブリンク郡カッタ・カナガス村モスク・イマーム)、ソフラ・タリブ(新疆ハミ地区民族語言文字古籍弁公室主任)が参加している。当プロジェクトは「新疆・フェルガナ両地域におけるマザール文書の調査・集成・研究」と言う研究課題名で 2005 年度のトヨタ財団の助成研究プログラム(特定課題「アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題」)に採択された。本書の刊行に先立って開催された国際学術会議「フェルガナおよび新疆におけるマザール」(2005年11月26-27日、東京水道橋小倉ビルディング会議場で開催)は当プロジェクトが取り組んだ最初の活動であったが、その一部をトヨタ財団の資助に負っている。

## 5. 本書および本書掲載文書について

本書は「マザール文書プロジェクト」の活動の根幹を為す、文書「集成」の最初の試みである。当プロジェクトでは実地調査によって消滅の危機に瀕する「マザール文書」を発掘し、ファクシミリ形で出版することで複写の形で当該文書たちにある程度の永続性を付与することを第一のミッションにしており、可能な限り多くの文書を影印のかたちでリリースしていく予定である。今回掲載した「マザール文書」は、詳細は以下の各章の文書解題で詳述されるが、いずれも編者たちによって実地調査の中で見出されたものである。

<sup>4</sup> 澤田稔「タクラマカン砂漠南辺の聖墓」『帝塚山学院大学・人間文化学部研究年報』第2号、pp.160-182; 菅原純「殉教者の国ホタン」『アジア・アフリカ言語文化研究所 通信』第101号、pp.10-17 参照。

<sup>5</sup> 澤田稔編『中央アジアのイスラーム聖地の研究 —フェルガナ盆地とカシュガル地方—』(シルクロード学研究紀要 28)、奈良: (財)なら・シルクロード博記念国際交流財団・シルクロード学研究センター、2007年(刊行予定)。

## 新疆のマザール文書

菅原 純

本書で紹介する新疆由来のドキュメントは以下の2種からなる。すなわち(1)コムル市アズィズィム・アガチャム廟文書(4点:EA01-04)、(2)コムルのマザール案内書(1点/19葉:QM01)である。なお、括弧内の番号は利用の便宜のために付した各文書、史料の整理番号である。

これらの文書ならびに写本史料は、これまで比較的研究されることが少なかったコムルのマザールにつき、まとまった情報を提供する新史料である。当史料は筆者(菅原)が2003年に新疆・コムル地区でおこなった東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の特別推進研究 GICAS 派遣の現地調査で初めて見出し、所有者の了承のもと撮影し、その後トヨタ財団助成による当「マザール文書」プロジェクトの調査でさらなる聞き取り調査、史料記載のマザール踏査等を実施したものである。

### (1) コムル市アズィズィム・アガチャム廟文書(4点:EA01-04)

アズィズィム・アガチャム・マザール(Äzizim Aghichäm mazar)はコムル回城の外側にあたるシャフル・エトラビ・イエザのアズィズィム・マハツラ(shähr äträpi yeza, äzizim mahällisi)に位置するマザールである。被葬者はアラブ人の女性聖者“Bibi Rabiya Ädwiya Wäliyullah”であると伝えられ、毎年クルバン祭の前夜には女性が参拝する習慣があるという<sup>1</sup>。

ラビヤ・アドウィーヤ(d. 801)は、歴史上、数多い女性のスーフィーたちの中でも「もっとも著名な」聖者であるとされ<sup>2</sup>、中央アジア地域で広く流布していた聖者伝であるアッタール(Farid al-Din Muḥammad ‘Attār)の『聖者伝 (*Tadhkirat al-awliya*)』にも女性聖者としてはただ一人登場する人物でもある<sup>3</sup>。この著名な聖者は西暦801年にバスラに没したとされ<sup>4</sup>、墓も同地に存すると考えられることから、このコムルのマザールがその著名な聖者の墓であるとは考えにくい。このように本来は無関係ながら著名な聖者の名前を冠したマザールの例は新疆、フェルガナにおいては一般的に見られることであり、当マザールは本来別の女性の聖者を祀ったものが、長い時間の中で著名な女性聖者の名を持って呼ばれるようになったものであろう。

ここで紹介する文書4点は、当マザールの管理者であるシャイフの系図と、当マザールに関連する契約文書2点である。所有者は2002年の時点で当マザールのシャイフを勤めていたユスブジャン・カースィムシャー

<sup>1</sup> Ayshäm Ähmät, *Qumul. Ürümchi: Shinjang Khäliq Näshriyati*, 1993, pp.244-245.

<sup>2</sup> Trimmingham, J.S., *The Sufi Orders in Islam*. New York & Oxford: Oxford University Press, 1998, p.18.

<sup>3</sup> ファリド・ウッドィーン・ムハンマド・アッタール著、藤井守男訳『イスラーム神秘主義聖者列伝』東京:国書刊行会、1998年、49-84頁。なお、コムルではアズィズィム廟の聖者伝と伝えられる写本が民間に存在している。筆者はそれを当プロジェクト調査の中で実見する機会を得たが、内容は『聖者伝』の該当部分の記述に極めて似通っている。

<sup>4</sup> Smith, Margaret, *Rābi'a Basri: The Mystic and Her Fellow-Saints in Islam*. New Delhi: Kitab Bhavan, 2005, p.45.

(Yüsüpjan Qasimshah)氏(2003年死亡)であり、文書にはそのユスブジャン・シャイフの父、祖父の名前が見えるものがあり、シャイフ一家に関連した文書であることがそのことから知られる。系図は当マザールがコムル地域社会において数世代もの長きに渡り一定の宗教権威を有して地域社会の中に存在していたことをうかがわせる材料として重要であると考えられる。また契約文書は20世紀初頭の時点での当マザールをめぐる社会・経済状況の一端を提示する史料として注目され、また同時に同時期のコムルの文書書式を理解するうえでも重要な研究意義を有している。

EA01 系図(成立年代不明)44cm×47cm。

・Qul 'Ali Shāh Shaykhを筆頭とする8世代にわたる、総数60名の系譜。文書所有者ユスブジャン・シャイフの父であるQasim Shah、祖父Niyāz Shāh Shaykhの名が系図の第八代、七代目にそれぞれ記されている。

EA02 系図(成立年代不明)11cm×23cm。

・Qul 'Ali Shāh Shaykhとその次世代総数8名の系譜。EA03とは人名が重複しない。

EA03 不動産贈与文書(AH1318年Hazuna年ドゥア一月7日/1900.10.31)。31cm×21.5cm。

・陳述者Qārni Chong Ilyāsが自己の所有するInchike ariqの河床所在の播種面積4斗の土地をShamshiye Tarkanに贈与(*bakhshande*)することを約した文書。印章3点。

EA04 不動産売却文書(AH1343年ラマザン月12日/1925.4.6)。36cm×30cm。

・陳述者Tūlak Shākirが自己の所有するInchike ariq所在の播種面積2斗の土地をNiyāz Shāh Shaykhに対し約50サルで売却することを約した文書。印章2点。なお、当文書の受取人であるNiyāz Shāh Shaykhは文書所有者のユスブジャン・シャイフの祖父である。

## (2) コムルのマザール案内書(1点/17葉:QM01)16.5cm×11cm

「コムル市内、および(コムル)所属(地域)内におけるすべてのズルグワル・ホジャムたちの聖なる名前は以下の通りである(*Qomūl shahr ichidaki wa tabe' laridaki bārlīq buzurugwār-khojamlarning isim-i shariflari bu turur.*)」という文言から始まる、17葉からなる散文の史料である。このうち前半の8葉が約35ヶ所からなるコムル地区のマザールの名前と所在地、若干の伝承の紹介で、それ以降はマザール参詣の必要と方法、唱えるべき聖句(*āyat*)、そしてアフアーク等ホージャに至る中央アジアの著名なスーフィへの賛辞などが記されている<sup>5</sup>。

このテキストの成立年代は、その第4葉裏に1945年の出来事であるケイス・ホジャム墓の星星峽からの改葬について言及されていることから、比較的新しいものであることは確実である<sup>6</sup>。とはいえ近年の現地出版物以外で本書のような形でコムルのマザールを詳述した史料は類例が知られておらず、本書はコムルのマザールを研究するうえで一定の価値を有しているといえる。

<sup>5</sup> この写本で紹介されたマザールの多くは、トヨタ財団助成による現地調査(2005年3月、2006年8月実施)によって現存が確認されており、その情報の精度はかなり高いものと考えられる。

<sup>6</sup> 1945年7月4日に行われたケイス・ホジャム墓の改葬については、哈密地区地方志編纂委員会編『哈密地区志』(烏魯木齊:新疆大学出版社、1997年)、1306頁参照。



## フェルガナ盆地のマザール文書

河原弥生

ここでは、フェルガナ盆地において発見され、撮影された 7 点の文書を紹介する。7 点のうち 4 点はクタイバ・イブン・ムスリム廟に、3 点はカラ・ヤズィ・バーバー廟に関連する文書群である。なお、これらの文書群は、(財)なら・シルクロード博記念国際交流財団シルクロード学研究中心研究助成「中央アジアのイスラーム聖地の研究—フェルガナ盆地を中心に—」の、2004 年度におけるフェルガナ盆地のマザール調査の際に発見され、トヨタ財団研究助成「新疆・フェルガナ両地域におけるマザール文書の調査・集成・研究」において継続調査が行われた。

### 1. クタイバ・イブン・ムスリム廟のマザール文書<sup>1</sup>

#### A. クタイバ・イブン・ムスリム廟

場所:ウズベキスタン共和国アンディジャン州ジャラ・クドゥク郡スービー村クリチ(旧名グルンチ)墓地

由来:8世紀の初頭に中央アジアを征服したアラブ軍の司令官クタイバ・イブン・ムスリムと、その3人の息子たちの墓とされる。クタイバはこの地方で異教徒(インフォーマントによると「ヒタイ」)の王グルンチ/クリチ Gulunch/Kulich の娘、スルターン・エナと結婚して、3人の息子に恵まれ、自らの軍隊の兵士によって殺されるまで7年間ここに住んだと言われる<sup>2</sup>。

現在の状況:クタイバ・イブン・ムスリムの墓廟を中心とし、クタイバの3人の息子の墓、二人の聖者の墓、「聖水」の出る木がある。マザールの付近はクタイバの子孫を自称する「ホジャ」たちが住み、それは30家族にのぼる。また、墓地の周辺には、ホジャ・マザール、クルグズ・マザール、ウズベク・マザール、カシュガル・マザール、カラカルパク・マザール、ムンドゥズ・マザールなどと呼ばれる墓地がある。

<sup>1</sup> 筆者はすでにクタイバ・イブン・ムスリム廟と所蔵文書について報告を行っている。Kawahara Y., Tazkira of Qutayba ibn Muslim and his Mazar in the Ferghana Valley, International Conference "Mazars" in Ferghana and Xinjiang, November 26-27 2005, Conference room, 4th floor Ogura building, Suidobashi, Tokyo; 河原弥生「クタイバ・イブン・ムスリム廟—口承伝説と所蔵文書の検討—」澤田稔編『中央アジアのイスラーム聖地の研究—フェルガナ盆地とカシュガル地方—』(シルクロード学研究紀要28)、奈良:(財)なら・シルクロード博記念国際交流財団・シルクロード学研究中心、2007年、49-65頁(刊行予定)。

<sup>2</sup> インフォーマント:アブドゥルハミード・マフスーム・ハージー・スィラージディノフ氏(1922年生、同村在住)。

一方で、近辺の村々には、クタイバに関連するマザールが点在する。まず、同村には、シャヒード・マザール（別名グルンチ・マザールあるいはマザール・ブヴァ）がある。本名は不明だが、クタイバの兵士の一人と言われる。かつてここには城塞があったとされる。また、同郡コンド村には、クタイバの妻と言われるスルターン・エナ・マザールがある。彼女は改宗してムスリムになり、クタイバが殺された後、岩の間に「お隠れ」になったといわれる。また、同郡チャシュマ村にあるチャシュマ・ブヴァ・マザール、およびホジャアーバード郡ヤール村にあるカンバル・アタ・マザールは、殉教したクタイバの部下のものとの言い伝えがある。

歴史史料にみるマザール：10世紀の歴史家ナルシャヒーは、「Kakh 村の Rabat-i Sarhang という場所にクタイバ・イブン・ムスリムの墓がある」と述べている<sup>3</sup>。一方 14 世紀初頭のジャマール・アッディーン・カルシーの『辞書スラーフへの補遺』では「Kulich 村にある」と述べている<sup>4</sup>。バルトリドは、上記二人の歴史家の記述について検討し、ナルシャヒーにおける Kakh という綴りが、Kulich という語の写し間違いであろうと指摘している<sup>5</sup>。ソ連の建築学者ピサルチクは、1946 年に当マザールの調査をして報告している<sup>6</sup>。

## B. 文書

収集文書の持ち主は、ナスルッラーハーン・ハサノフ氏（1938 年生、アフンババエフ郡在住）である。ハサノフ氏の祖先は、代々このマザールでシャイフ職にあったといい、マザールに関係する文書は代々氏の一族に伝わってきたものである。氏によると、祖先はナクシュバンディー教団のシャイフであったという。このため、このマザールは、以前はナクシュバンディー教団の成員たちが活動する場だった可能性もある。

WT-QM-01: 238.5 x 27.5cm

以下の 2 点の文書から成る巻き物である。

- クタイバ・イブン・ムスリムの伝記。冒頭部分が欠落。
- 1271 年<sup>7</sup>ラジャブ月 / 1855 年 3~4 月に作成されたサイド性を証明する系譜書。シャー・クタイバを筆頭とし、28 世代にわたる、総勢 45 名が連なる。右横にコーカンド・ハーン、マッラ・ハーン（在位 1858~1862 年）の印章 1 点、下にカーディーらの印章 38 点。

WT-QM-02: 750.4 x 31.5cm

以下の 6 点の文書から成る巻き物である。

<sup>3</sup> *Description topographique et historique de Boukhara par Mohammed Nerchakhy suivie de textes relatifs à la Transoxanie*, texte persan publié par Charles Schefer, Reprint of the Edition Paris 1892, Frankfurt am Main, 1993, p.57; Rabat-i Sarhang の地名は、『パーブル・ナーマ』にも見える。間野英二『パーブル・ナーマの研究』松香堂、1995年、108、110頁。

<sup>4</sup> Абу-л-Фадл ибн Мухаммад Джамал ад-Дин Карши, Мулхакат ас-сурах, (пере. с персидского Р.Ш. Шарафутдиновой), *Материалы по истории Средней и Центральной Азии X-XIX вв.*, Ташкент, 1988, стр.122.

<sup>5</sup> Barthold, W.-(Spuler, B.), *Farghāna*, E12.

<sup>6</sup> Писарчик, А.К., Некоторые данные по исторической топографии городов Ферганы, *Сборник статей посвященных искусству таджикского народа*, Сталинабад, 1956, стр.171-174.

<sup>7</sup> ただし、1261 と書かれた数字を 1271 に書き直したか、あるいはその逆を行った形跡がある。他のカーディーらの印章の中に 1270 年や 1271 年と刻まれたものが見られることや、マッラ・ハーンの統治時期にも近いことから、1271 年が正しい可能性が高いと判断した。

- a. クタイバ・イブン・ムスリムの伝記。WT-QM-01-aと同文。
- b. 1274年ラビー・アルアッワル月 / 1857年10～11月に作成されたサイド性を証明する系譜書。シャー・クタイバを筆頭とし、27世代にわたる、総勢32名が連なる。印章9点。
- c. ファトワー1。クタイバの子孫たちは系譜書が認証されているため、免税とすべきであるとの法的意見。印章13点。
- d. ファトワー2(写し)。サイドたちは尊敬すべきであるとの法的意見。
- e. ファトワー3。サイドであるクタイバの子孫たちは他者よりも優れているとの法的意見。印章1点。
- f. ファトワー4。マザールに住むクタイバの子孫たちはサイドであり、マザールでなされた寄進物を彼らから取り上げてはならないとの法的意見。印章7点。

WT-QM-03: 587 x 26cm

以下の4点の文書から成る巻き物である。

- a. 1293年ラビー・アルアッワル月 / 1876年5～6月に書かれた系譜をもとに、1312年ジュマダー・アルウーラー月 / 1894年10～11月に作成されたサイド性を証明する系譜書。シャー・クタイバの子孫のうち、4世代にわたる、総勢10名が連なる。印章4点。
- b. ファトワー1。WT-QM-02-cと同文。印章9点。
- c. ファトワー2(写し)。WT-QM-02-dと同文。
- d. ファトワー3。マザールに住むクタイバの子孫、サリムサク・ホージャ・イーシャーン、イスマーイール・ホージャ・イーシャーン、及びその他のハール・ホージャ、ハーン・ホージャ、イスマーイール・ホージャの子孫たちは、マザールでなされた寄進物を受領する権利があるとする法的意見。印章2点。

WT-QM-04: 35.6 x 21.9cm

1283年ラマザーン月 / 1867年1～2月に、マザールの管理人である、イスマーイール・ホージャ・イーシャーン、ハーン・ホージャ・イーシャーン、ユヌス・ホージャ・イーシャーン、およびサリムサク・ホージャ・イーシャーンに対して、コーカンド・ハーン国の君主、フダーヤール・ハーン(在位 1845～1858、1862～1863、1865～1875年)によって発行された免税証書。

## 2. カラ・ヤズィ・バーバー廟における収集文書

### A. カラ・ヤズィ・バーバー廟

場所:ウズベキスタン共和国フェルガナ州オズベキスタン郡ベシュカバ村

由来:カラ・ヤズィ・バーバーとは、本名をアサド・アッラーといい、サイド・バッタール・ガーズィーの息子とされる。彼らについて詳しいことは歴史史料からも、現地でのインタビューからもほとんど明らかになってはいないが、1859年に作成されたWT-QB-01に記載された系譜では、カラ・ヤズィ・バーバーの28世代子孫にあた



る人物について書かれていることから、マザールに埋葬されている人物として、イスラーム誕生からかなり初期に生きた人物が想定されていると考えることができる。

ところで、トルコから中央アジアにかけての広い地域で、「サイド・バッタール・ガズイー」という聖者が広く知られていた。伝説によると、彼は機知によってビザンツ皇帝からコンスタンチノープル(現在のイスタンブル)の半分を奪ったとされる。トルコのエスキシェヒルにはサイド・バッタール・ガズイーが埋葬されているとされる同名のマザールも存在し、20世紀に入っても中央アジアからの巡礼者が絶えなかったというから<sup>8</sup>、あるいはカラ・ヤズィ・バーバーの父とは、このサイド・バッタール・ガズイーのことを指している可能性もある。

現在の状況:マザールの中に「ムーイ・ムバーラク(神聖なる鬚髪)」と呼ばれる預言者ムハンマドの鬚髪が入っているとされる箱がある<sup>9</sup>。墓石は長く大きなもので、長さは9mほどもある。マザールの敷地内には池がある。カラ・ヤズィとは、「黒い石の荒野 qara tashli dasht」に由来するとされる。代々カラ・ヤズィ・バーバーの子孫がシャイフをつとめてきた。

周辺の村々にはカラ・ヤズィ・バーバーの兄弟のものとされるいくつかのマザールが存在する。まず、同郡アク・ヤズィ村には、アク(白)・ヤズィ・ブヴァ・マザールがあり、また、同郡ダシュト・マハツラ村には、サル(黄)・ヤズィ・ブヴァ・マザールがあり、同郡ダシュト村イーシャーン・ブヴァ墓地には、ペーシュターク<sup>10</sup>・ブヴァ・マザールがあり、そのすべてがサイド・バッタール・ガズイーの息子であった、すなわちカラ・ヤズィ・バーバーの兄弟であったと言われている。

歴史史料にみるマザール:いくつかの史料によると、コーカンド・ハーン国の君主、アーリム・ハーン(在位1799~1810年)の息子のアタリク・ベクが、1843年の政変で殺害された場所である<sup>11</sup>。

## B. 文書

ここに紹介した3点の文書は、母方で当マザールのシャイフの子孫にあたる、ハリーマハーン・マアルーフホジャエヴァ氏(1948年生、同村在住)が所蔵している。マアルーフホジャエヴァ氏はこれらの文書を母親から譲り受けたといい、母はその父親から受け継いだという。一方、マアルーフホジャエヴァ氏は、父方からは、ナクシュバンディー教団の16世紀の著名な指導者、ルトフフ・アッラー・チュステイー(1571年没)の子孫であるという。ならば、カラ・ヤズィ・バーバー・マザールのシャイフたちは、チュステイー系のシャイフたちと関係があったと考えることもできるが、現在のところ、それを裏付けるのは難しい。

<sup>8</sup> Снесарев, Г.П., *Хорезмские легенды как источник по истории религиозных культов Средней Азии*, Москва, 1983, стр.178-180.

<sup>9</sup> フェルガナ盆地内には、「ムーイ・ムバーラク」とされるものが他にもいくつか存在する。例えば、フェルガナ州オズベキスタン郡アウチ村にはムーイ・ムバーラク・マザールがあり、マルギラン市ホジャ・マギズ・マハツラにもハステイ・マアーズ・マザールの敷地内にムーイ・ムバーラクと呼ばれるマザールがある。

<sup>10</sup> 「ペーシュターク」とは、建物の入り口の上部に装飾の施された部分を指すが、渾名の由来は明らかではない。

<sup>11</sup> Mīrzā 'Ālim Mushrif, *Ansāb al-salātin wa tawārikh al-khawāqin*, Institute of Oriental Studies of the Academy of Science of the Republic of Uzbekistan, Inv.No. 1314, 61b; 'Awaz Muḥammad, *Tuhfat al-tawārikh-i khānī*, St.Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences, Inv.No. S440, 248b.

WT-QB-01: 49.5 x 31.5cm

1275年ジュマダー・アルアヒラ月 / 1859年1~2月に、アサド・アッラー(カラ・ヤズィ・アタ)の子孫である、ムハンマド・アミン・ハーン、ダーニヤール・ハーンに対して、サイドであることが認証された系譜書。アサド・アッラーの子孫である、28世代、総勢42名が連なる。印章32点。

WT-QB-02: 34.5 x 43.5cm

ファトワー。アサド・アッラー・ハーン(カラ・ヤズィ・アタ)の子孫たち、アサマト・アッラー・ホージャ、ハイダルアリー・ホージャ、ガーズィー・ホージャ、アタ・ホージャ、ハムザ・ホージャ、サイド・ホージャ、ワリー・ホージャ、バーバー・ホージャ、シャラーファト・バーヌー、アブド・アッラー・ホージャらは、マザールでなされる寄進を受け取る権利があるとする法的意見。

作成年は記載されていないが、押された印章の中には、WT-QB-01に押されたのと同じものも存在する一方で、1289年、1290年、1293年、1294年(西暦1874~1878年に相当)などの年号が読み取れるものもある。従って、WT-QB-01よりもおよそ15年程度後のロシア帝国期に作成されたと考えられることができる。ただし、このファトワーに記載されている人名は、WT-QB-01に記載されている人名とどれも合致しない。このため、WT-QB-01にあらわれる子孫のうちのいずれかの人物の子供にあたる考えられるものの、それが誰であるかは不明である。印章28点。

WT-QB-03: 181 x 16cm

作成年不明。部族単位の名簿。マザールのシャイフによって、他の関連文書とともに所蔵されてきたことから、この名簿はスーフィー教団の導師が収入を得るための、弟子の名簿であったと考えられる。スーハレワによると、毎年秋の収穫が終わる頃、教団の導師たちは自分の弟子の住んでいる村に出掛けて行き、穀物や果物を受け取り、家畜を連れ帰って収入源としたという。また導師たちはそのための名簿(daftar)を持っており、このような彼らの行動は「狩り」と表現された<sup>12</sup>。本文書もそのような名簿の一つであったことは間違いなからう。

記載された部族名と人数の内訳は以下の通りであるが、正確な読み方の不明な名称も多く、またどれが上位あるいは下位集団に当たるのかも明らかにすることができなかった。ユースフ・アリのタルトゥグリ・ジャライル72人、クディシュ・アルチン36人、ファンジガル・アルチン35人、ヤラング・アス77人、ファンジガル・ミング13人、カングリ・カユシukanル20人、ジャムキドウルマン・コシュタムガル11人、アイトウー・コシュタムガル32人、アイトウー・ジュブラチ20人、ジュブラチ16人、シャードマンと戦ったバルガル・ジャライル22人。

ところで、このリストの中の、クディシュ・アルチンとファンジガル・アルチンの名簿については、「イーシャーン・クーチャク・ハーン・ホージャ・イブン・ニヤーズ・ハーン・ホージャの弟子たち」との添え書きがある。イーシャーン・クーチャク・ハーン・ホージャという名は、WT-QB-01の系譜中に見られるが、その父親はアズィーズ・ハーンという人物であるから、これは別人である。一方、ニヤーズ・ハーン・ホージャという名もWT-QB-01の系譜中に見られる。系譜には彼の息子としてナウルーズ・ハーンの名が挙がっているが、他にもクーチャク・ハーンという息子がいた可能性は考えられる。いずれにせよ、カラ・ヤズィ・バーバー・マザールを本拠地とした、クーチャク・ハーンらカラ・ヤズィ・バーバーの子孫を自称し、同時にスーフィー教団の導師であった何人かが、これら部族民に多くの弟子を有していたと考えて大過あるまい。

<sup>12</sup> Сухарева, О. А., *Ислам в Узбекистане*, Ташкент, 1960, стр.64.





## INTRODUCTION

# Towards a Study of Mazar Documents

SUGAWARA Jun

### 1. What are the "mazar documents"?

Mazars (Islamic Mausoleums) have long been functioning as the central source of spiritual strength and guidance for the local communities. An institution of complex nature, mazar combines religious elements of Islam—by being ideologically based on worshipping Muslim saints—and elements rooted in popular beliefs with their orientation on pursuing "this-world-benefits", such as related to curing or fertility. On the other hand, serving as objects of pilgrimage, mazars have also played an important social role of major hubs of wide-area human exchange—which extends their significance far beyond the narrow boundaries of local communities<sup>1</sup>.

The term "mazar documents", introduced here, is used for convenience in reference to the diverse array of documents that have been handed down through generations in the families deeply connected to the history of a mazar or involved in its maintenance and administration, as well as performing religious rites. The fact that such documents have been carefully preserved till nowadays by the people directly connected to the related mazar or by the local community reflects their awareness of the significance the mazar had for the region. The volume, content, and preservation conditions of the documents vary greatly from region to region; and the differences seen between the two regions presented here, Ferghana and Xinjiang, are particularly considerable. Mazar documents include manuscripts of various sorts, such as the following: documents verifying the legitimacy of mazar custodians (who usually claim to be descendants of the saint buried in the mazar); documents pertaining to the buildings and premises of a mazar; documents related to the endowments and offerings made at a mazar; documents related to the origins and history of a mazar, etc. With the exception of rare cases when 17th-18th century documents are found, most of the discovered documents date to the 19th or 20th century. Depending on when the document was written, usually it is in Persian or Turkic, sometimes including insertions in Arabic. In addition, later documents often tend to include parallel texts in Russian or Chinese as well.

By their content, all mazar documents can be classified into the following groups:

---

<sup>1</sup> On the social functions of mazars and the role they played in the history, see: Shinmen Yasushi, Sanada Yasushi, Wang Jianxin, *The Bazaars and Mazars of the Xinjiang Uighur*. (Studia Culturae Islamicae No.70), Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, 1992; Rahila Dawut, *Uyghur mazarliri*. Ürümqi: Shinjang Khāḷq Nāshriyati, 2003.

**(1) Genealogies (*shajara, neseb-name, jorongqai*)**

These genealogical records were drawn up with the purpose of linking their holder's lineage directly to Prophet Muhammad. Thus, in nearly all the cases the saints buried in mazars, even if they had lived in the pre-Islamic times, are considered descendants of the Prophet. Moreover, the presence of such genealogical records was indispensable for establishing the legitimacy of the mazar custodians, most of whom were or at least claimed to be descendants of the saint buried in the mazar. The genealogical records can be divided into the following two types: graphical tree charts and textual pedigrees. Most of the documents are in the form of scrolls, the longest exceeding 10 m in length.

**(2) Hagiographies (*tazkira*)**

This group of documents materials contains biographies and legends related to the saint buried in the mazar, along with other saints among his or her ancestors and descendants. Emphasizing religious activities of the main character, with description of the miracles the saint produced, apparently was intended to bolster religious authority of the mazar custodians—who claimed to be descendants of the described saint—within the local community.

**(3) Appointment or designation certificates**

These are documents certifying nomination of custodians and other appointments. In Ferghana, in many cases mazar custodians were nominated or approved by the government of the time.

**(4) Privilege certificates**

These are documents certifying tax exemption rights or other privileges of the holder. In Ferghana, descendants of saints received tax exemption and other privileges from the government. These documents, together with the designation certificates mentioned above, imply that mazars had a certain political status guaranteed by the authorities.

**(5) Endowment certificates (*waqf-name*)**

This group of documents certifies endowments made in favor of a mausoleum or a mosque, a madrasa, and other facilities or institutions appertaining to the mazar. These important historical materials shed light on the economic and other relationships between members of the local society and mazars.

**(6) Judicial documents**

This group of documents consists of petitions (*dawa*), legal opinions (*fatwa*), and legal rulings (*hukm*). These documents allow researchers to discover the real picture of mazar social interests and benefits.

**(7) Guides to holy places**

These manuscripts are believed to be written with the purpose to be used by pilgrims as guides to the holy places. In addition to basic information such as the name of a mazar, its origins and location, the saint buried there, they also often include descriptions of legends and beliefs associated with the mazar, statements of the necessity and significance of the pilgrimage, as well as a brief guidance with basic rules for the pilgrims.

Besides the above mentioned materials, there are also general contractual documents (such as related to purchase deals, loans, donations, inheritance, entrustment, etc.) pertaining to the adjacent local communities closely connected to the mazars—which, in some cases, can also be regarded as a part of “mazar documents”

in a broader sense. These documents are the “living texts” that support the mazars’ authority of institutions performing certain spiritual and social functions within the local communities. Not only such documents have retained their major significance for the local society up to the present day, they also carry a remarkable volume of information of academic interest that can help researchers better understand origins and history of mazars as well as reveal the role mazars have been playing in the local society.

## ***2. Endangered mazar documents***

In both neighboring regions, Xinjiang and Ferghana, separated only by the Alai Range, there are numerous mazars inspiring devoted faith which has been carried over through generations and still lives among the local inhabitants. At the same time, as was already mentioned above, in both regions, mazar documents—which gained a certain social recognition of their value in relation to mazars—also have been carefully preserved in private ownership up to the present time. Nevertheless, the current situation with the documents preservation rather does not inspire optimism for their future. The two major upheavals of the late 20th century—the emergence of independent states in Central Asia after the dismantling of the Soviet Union, and the conclusion of the Cultural Revolution and launching of reforms and open-door policy in China—both have contributed to the revival of traditional cultures in the regions and restoring the interregional communication. However, on the other hand, as a reverse side of the outside openness, this is more or less accompanied with rapid secularization and popularization which in turn adversely affect the situation with preservation of traditional documents in both regions.

Though today all the five independent states that emerged in Ferghana after the collapse of the Soviet Union widely proclaim the necessity of reclamation and reconceiving traditional values and national history, it is not necessarily develop into growing interest towards historical materials. Likewise, though with the recent re-emergence of Islam, the popularity of pilgrimage to mazars has greatly increased, there is a big gap between this tendency and the attitude people show to the related historical documents; and the awareness of the mazar documents value among local people of younger generations remains extremely low.

As an effect of the currently promoted national project for West China development, Xinjiang is exposed to the turbulent waves of change in the very foundation of the society and culture caused by rapid growth of the Han Chinese population here. It is no exaggeration to say that traditional Uighur society is experiencing slow disintegration. Under such conditions, mazars and other sacred and religious places that numerously exist in the region also begin showing signs of gradual decline. As an example of recent trend, there can be mentioned transformation of mazars from holy places of religious worship into tourist objects due to tourism development within the context of the open-door policy. Now, the mazar premises as well as pilgrimage and other mazar-related religious activities are attracting foreign travellers as objects of tourist interest, and, in correspondence with this trend, mazar management is being transferred from the traditional custodians or local communities to the local government departments in charge of culture and tourism. This secularization process is currently going on apace in the whole Xinjiang region.

In short, Ferghana and Xinjiang, while finding themselves in the middle of ostensibly contradictory processes—the reconceiving of traditional culture values after emergence of independent states in the former region and the dismantling of traditional society due to the rapid inflow of the dominant Han Chinese culture and growth of the Han Chinese population in the latter—both are facing the same threat of irreparable loss of mazar documents due to advance of secularization. That is why continued efforts to collect and preserve mazar documents are indispensable for protecting traditional culture in both regions and promoting further



study of traditional local communities.

### **3. Scantiness of bibliographic information and collections of mazar documents**

Unlike manuscripts, general contractual and legal documents (*qadi* documents), or textual historical materials of other sorts, which were systematically collected in both regions by scientific institutions of the USSR and China resulting in rich collections kept in archives and libraries in both countries, the number of mazar documents presented in public collections as well as the information on the documents location or ownership is scarce. Therefore, the location information and bibliographic data available to researchers is rather scanty. The reason is that, being commonly recognized within local society as valuable "living documents", mazar documents could not previously be regarded as objects for purchase during the systematic document collecting or other organized research activities.

Therefore, privately held mazar documents constitute a unique type of historical resource, with no analogies in public collections; and taking into consideration the current critical situation with their preservation, it seems that now we have the last opportunity to gather and record the bibliographic data of mazar documents paving the way for their future study.

### **4. Towards collecting mazar documents**

Based on the above stated understanding of the problem, researchers (including the editors of this publication) who share this stance, in close cooperation with the local communities directly connected to the mazar documents, have initiated their efforts for locating, collecting, and studying mazar documents. This is the so called "Mazar Documents Research Project". Intending to establish systematic preservation framework, this project is aimed to contribute to preservation and continuation of cultural traditions and customs centered on the local mazar. At the same time, through carrying out a cross-regional research on mazar documents, this project presents an attempt to reconstruct the local history that is closely connected to mazars and reveal the common cultural foundations shared by the two regions.

It must be noted that this research project is based on the accumulated results of a number of previously conducted organized projects and private research activities in studying mazars and mazar documents. Below is a short summary of the organized research activities:

(1) 1996: Mazar research in Turfan district, Kashghar, Xinjiang, China (Shinmen Yasushi, Sanada Yasushi, Wang Jianxin: Grants-in-Aid for Scientific Research (*Kakenhi*). "From The Mechanism of Contacts between Cultures in the Islamic Sphere – A Comprehensive Study on Human Movement and Information" (Representative: Yajima Hiko'ichi))<sup>2</sup>.

(2) 1998: Mazar research in Kashgar district, Xinjiang, China (Hori Sunao, Sawada Minoru: funded privately from individual research allowance)<sup>3</sup>.

<sup>2</sup> Shinmen Yasushi, Sanada Yasushi, Wang Jianxin, *The Bazaars and Mazaars of the Xinjiang Uighur*. (Studia Culturae Islamicae No.70), Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, 1992, in Japanese.

<sup>3</sup> Sawada Minoru, "Information of Ordam-padishah System", *Inner Asian Studies*, no.14, pp.91-109; do. "Fieldwork at

(3) 2000: Mazar research in Khotan district, Xinjiang, China (Sawada Minoru, Sugawara Jun: Kakenhi. "A Historical Study on Awareness of Togetherness and Islam (Ethnic Identity and Islam) in Central Asia" (Representative: Shinmen Yasushi))<sup>4</sup>.

(4) 2005: Mazar research in Qumul district, Xinjiang, China (Sugawara Jun: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, the Sub-project of GICAS "Online Resource on Inner Asian Studies (ORIAS)" (Representative: Nakami Tatsuo)).

(5) 2004-2005: Mazar research in Kashghar district, Xinjiang, China; Ferghana district, Uzbekistan (Sawada Minoru, Shinmen Yasushi, Sugawara Jun, Kawahara Yayoi, Ashirbek Muminov, Nodirbek Abdulhatov: Research Center for Silk Roadology, The Nara International Foundation "A Study of Islamic Sacred Places in Central Asia: With a Focus on the Ferghana Valley" (Representative: Sawada Minoru))<sup>5</sup>.

It should be noticed that the last mentioned research funded by The Nara International Foundation, in respect of the participants and the object of study, was the direct predecessor to the current project; moreover, it has yielded impressive results opening the way to studying the mazar documents.

The "Mazar Documents Research Project" incorporates results of all above mentioned research activities. It is coordinated by Sugawara Jun (IAGC Research fellow, ILCAA), one of the editors of this compilation acting as the project leader. The participants include the following research members: Kawahara Yayoi (JSPS Research fellow) – another editor of this compilation, Sawada Minoru (Professor, University of Toyama), Shinmen Yasushi (Professor, Chuo University), Sugahara Mutsumi (Associate Professor, Tokyo University of Foreign Studies), Ashirbek Muminov (Vice-President, Institute of Oriental Studies of the Ministry of Science and Education, Kazakhstan), Nadirbek Abdulhatov (Curator, Ferghana Regional Museum), Abliz Orkhun (Research fellow, Committee of Local Records Work, Xinjiang Uyghur Autonomous Region), Arslan Abdulla (Professor, Xinjiang University), Rahile Dawut (Professor, Xinjiang University), Asad Sulayman (Professor, Xinjiang University); and the following local cooperators: Alisher Tashkulov (Vice Editor-in-Chief, "The Fergana Culture Newspaper"), Ismailkhan Mahmudov (Imam, Mosque in the village of Katta Kanagas, Uchkoplik district, Uzbekistan), Zohra Talip (Director, Office for Minority Languages, Scripts and Antiquarian books, Qumul District, Xinjiang). This project has been included in the Toyota Foundation's 2005 Research Grant Program (Preservation, Compilation, and Annotation of Indigenous Documents in Peripheral Regions of Asia (Special Subject)) under the title "Preservation, Compilation, and Annotation of Mazar Documents in Xinjiang and Ferghana". In advance of this publication, preliminary research results have been presented at an international conference "Mazars in Ferghana and Xinjiang" (held November 26-27, 2005 at the Ogura Building, Suidobashi, Tokyo), which became the first such event organized within the project framework; the conference was partially funded by the Toyota Foundation.

---

Islamic Historical Sites mainly in the Western Tarim Basin" *Annual Report, Department of Human and Cultural Studies*, (Tezukayama-Gakuin University, Osaka), vol.1(1999), pp.49-70, in Japanese.

<sup>4</sup> Sawada Minoru, "Mausoleums in the Southern Periphery of the Taklamakan Desert" *Annual Report, Department of Human and Cultural Studies* (Tezukayama-Gakuin University, Osaka), vol.2(2000), pp.160-182, in Japanese; Sugawara Jun "Khotan, a Land of Matyr" *Tsushin* (ILCAA), no.101(2001), pp.10-17, in Japanese.

<sup>5</sup> Sawada Minoru (ed.) *Islamic Sacred Places in Central Asia: The Ferghana Valley and Kashghar Region* (Silk Roadology 28, Bulletin of the Research Center for Silk Roadology), Nara: Research Center for Silk Roadology, The Nara International Foundation, 2007, in Japanese (forthcoming).

## ***5. About this publication and the presented documents***

This publication, being the core achievement of the research efforts under the "Mazar Documents Research Project", constitutes the first attempt of compilation and annotation of the mazar documents. The project's mission is to discover through conducting on-site researches the mazar documents, which are currently in imminent peril of being lost, and publish them, thereby assuring their preservation and durability, in facsimile form. Therefore, the researchers participating in the project are committed to releasing in such reproduced form as many documents as possible. All the mazar documents included in the current compilation have been discovered by the editors during fieldwork. The details on each document are provided in the annotation to the corresponding section.

## Documents discovered in Xinjiang

SUGAWARA Jun

The current compilation includes the following 2 groups of documents discovered in the Xinjiang region: (1) Āzizim Aghichām mazar documents from Qumul city (4 items: EA01-04) and (2) a guide to the Qumul mazar (1 item/19 leaves: QM01). The numbers given in brackets above are the reference numbers of the related documents provided here for convenience of use.

These texts as well as the reproduced copies of the sources are part of newly discovered historical materials that provide comprehensive information on the Qumul mazars, which have been studied rather scarcely. These documents were first discovered and, with the consent of the respective owners, photographed by the author (Sugawara) in 2003, during his fieldwork in Qumul district, Xinjiang under GIGAS Research Special Promotion Project of the Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa; the further study of the documents, related interviewing and on-site mazar research work as well as other fieldwork were carried out under the "Mazar Documents Research Project" sponsored by the Toyota Foundation.

### 1. Āzizim Aghichām mazar documents in Qumul city (4 items: EA01-04)

The Āzizim Aghichām mazar is located in Āzizim mähällisi of Shähär äträpi yeza, outside the Muslim City (*Hui cheng*) of Qumul. The mazar is believed to be a burial place of an Arabian female saint, Bibi Rabiya Ādwiya Wäliyullah; women traditionally come to worship at the mazar the night before the Qurban festival<sup>1</sup>.

Rabi'a Adwiya (d. 801) is said to be the most popular saint even among other numerous female Sufis in history<sup>2</sup>; moreover, she is the only female saint to appear in the famous hagiography by Attar (Farid al-Din Muḥammad 'Aṭṭār, "*Legend of Saints (Tadhkirat al-awliyā)*") widely known in Central Asia<sup>3</sup>. However, this prominent saint is reported to die in 801 A.D. in Basra<sup>4</sup> and is believed to be buried there as well; therefore, it is hardly likely that the mazar at Qumul could be her burial place. Cases when mazars receive names of originally unrelated to the mazar but famous saints are quite common in both Xinjiang and Ferghana; this mazar as well might have been originally devoted to a different female saint, but in the course of long history was finally bestowed the name of a more famous one.

The 4 items presented here are the pedigree of the shaykhs who acted as custodians of the mazar and 2 contractual documents related to the mazar. As of 2002, the owner of the documents, Mr. Yusupjan Qasimshah (d. 2003), was shaykh of this mazar. The fact that the documents mention Yusupjan Shaykh's father and grandfather's names reveals that the documents relate to the family lineage of shaykhs. This genealogical record is a valuable historical source demonstrating the historical continuation of the mazar that has been retaining its religious authority in the local society of Qumul over generations. The contractual documents draw scholars'

<sup>1</sup> Ayshām Ähmät, *Qumul. Ürümchi: Shinjang Khalq Nashriyati*, 1993, pp. 244-245

<sup>2</sup> Trimmingham, J.S., *The Sufi Orders in Islam*. New York & Oxford: Oxford University Press, 1998, p. 18.

<sup>3</sup> Farid al-Din Muḥammad 'Aṭṭār, *Tadhkirat al-awliyā*, a translation in Japanese by. Fuji'i Mori'o, Tokyo: Kokusho-Kankokai, 1998, pp. 49-84. Moreover, there exists a privately held manuscript that is reported to be the hagiography related to the Āzizim Aghichām mazar in Qumul. Having an opportunity to examine the manuscript, the author has confirmed that it matches or closely resembles in content the corresponding parts of the *Legend of Saints*.

<sup>4</sup> Smith, Margaret, *Rābi'a Basri: The Mystic and Her Fellow-Saints in Islam*. New Delhi: Kitab Bhavan, 2005, p. 45.

attention as a valuable historical resource on socio-economic situation related to the mazar at the beginning of 20th century.

**EA01: Genealogical Chart** (Date unknown) 44cm × 47cm.

This genealogical record contains in total 60 names through 8 generations beginning with Qul 'Alī Shāh Shaykh. The names of the father, Qasim Shah, and the grand-father, Niyāz Shāh Shaykh, of the owner of the document, Yusupjan Shaykh, appear respectively in the 8th and 7th generation of the lineage.

**EA02: Genealogical Chart** (Date unknown) 11cm × 23cm.

This genealogical record contains names of Qul 'Alī Shāh Shaykh and his children—8 names in total. The personal names do not coincide with any mentioned in EA03.

**EA03: Document verifying donation of real property** (Day of Du'a ay 7, Month of Hazuna, A.H.1318 / October 31, 1900) 31cm × 21.5cm.

This document states that the compiler of the document, named Qārnī Chong Ilyās, promises to donate (*bakhshande*) sowing land, 4 du in total area, which he owns and which is located along the Inchike ariq, to Shamshiyē Tarkan. The document bears 3 seals.

**EA04: Document verifying purchase of real property** (Day 12 of the Month of Ramadan, A.H. 1343 / April 6, 1925). 36cm × 30cm.

This document states that the compiler of the document, Tūlak Shākir, promises to sell the sowing land, 2 du in total area, which he owns and which is located along the Inchike ariq, to Niyāz Shāh Shaykh at the price of 50 sar. The document bears 2 seals. It must be noted that the stated recipient of this document, Niyāz Shāh Shaykh, is the grandfather of the document owner, Yusupjan Shaykh.

**(2) Guide to the Qumul mazar** (1 item/17 folios: QM01) 16.5cm × 11cm.

This prosaic historical document is comprised of 17 leaves; it begins with the following sentence: "The holy names of all buzurgwar-khojam in the city of Qumul and its (Qumul's) environs are as follows (*Qumul shahr ichidaki wa tābe'laridaki bārlīq buzurugwār-khōjamlarning isim-i sharīflari bu turur*)" First half of the overall volume, 8 leaves in total, introduces names and locations of 35 mazars in the Qumul area, and a number of legends relating to them; the rest of the document is devoted to explaining of the necessity of pilgrimage to mazars, its ways and rules, introducing the āyat (sacred verses of Qur'ān) that should be recited at the mazar, and praising of prominent sufi from Central Asia up to Afaqiyya Khojas<sup>5</sup>.

Concerning the dating of the document, judging from the fact that on the back of the 4th leaf it mentions reinterment at the Qeys Khojam Mazar from Xingxingxia—an event that took place in 1945—it is unmistakably a comparatively recent one<sup>6</sup>. However, except for the locally published materials, this work doesn't have neither an example nor an analogy in respect to the provided detailed information on the Qumul mazars, which make it a highly valuable resource for studying the Qumul mazars.

<sup>5</sup> Many of the mazars mentioned here have been confirmed extant during the on-site researches sponsored by the Toyota Foundation (conducted in March 2005 and August 2006) to be in existence, which proves the high level of accuracy of the information provided by the document.

<sup>6</sup> On the reinterment at the Qeys Khojam Mazar that took place on July 4, 1945, see: 哈密地区地方志编纂委员会编《哈密地区志》(乌鲁木齐:新疆大学出版社, 1997), p. 1306.



# Documents discovered in Ferghana Valley

KAWAHARA Yayoi

This summary provides an overview of 7 documents that have been discovered and photographed by the author in the Ferghana valley. 4 of these 7 items are related to the Mazar of Qutayba ibn Muslim and 3—to the Mazar of Qarayazi Baba. This group of documents was discovered during a research of the mazars in the Ferghana valley held in 2004 under the project “A Study of Islamic Sacred Places in Central Asia: With a Focus on the Ferghana Valley” funded by the Research Center for Silk Roadology at the Nara International Foundation Commemorating the Silk Road Exposition; the subsequent study and annotation of the documents was conducted under the research project “Preservation, Compilation, and Annotation of Mazar Documents in Ferghana and Xinjiang” funded by the Toyota Foundation Research Grant Program.

## 1. Documents related to the Mazar of Qutayba ibn Muslim<sup>1</sup>

### A. The Mazar of Qutayba ibn Muslim

**Location:** Republic of Uzbekistan, Andijan province, Jala quduq district, Sopi village, The Kulich (old name Gulunch) Cemetery

**Origins and Historical Background:** This mazar is believed to be the grave of Qutayba ibn Muslim, a commander of the Arab army that conquered Central Asia in the early eighth century, and his three sons. In this land, Qutayba married Sultan Ena, a daughter of the king Gulunch/Kulich of the local infidels (the people reported as “Khitay”, according to the informant), and had 3 sons with her. He continued to live there for seven years until he met his death from the hands of his own soldiers.<sup>2</sup>

**Current Condition and Surroundings:** With the mausoleum of Qutayba ibn Muslim in the center, there are graves of his three sons, graves of two Muslim saints and a tree with the springing water believed to be

---

<sup>1</sup> The author has already reported on the Mazar of Qutayba ibn Muslim and the collected documents, see: Kawahara Y., *Tazkira of Qutayba ibn Muslim and his Mazar in the Ferghana Valley*, International Conference “Mazars” in Ferghana and Xinjiang, November 26-27 2005, Conference room, 4th floor Ogura building, Suidobashi, Tokyo; Kawahara Y., *The Mazar of Qutayba ibn Muslim: A Study of the Oral Tradition and Historical Documents*, Sawada Minoru (ed.) *Islamic Sacred Places in Central Asia: The Ferghana Valley and Kashghar Region* (Silk Roadology 28, Bulletin of the Research Center for Silk Roadology), Nara: Research Center for Silk Roadology, The Nara International Foundation, 2007, pp.49-65, (in Japanese, forthcoming).

<sup>2</sup> The informant: Mr. Abdulhamid Makhsom Hajji Sirajiddinov (born 1922, currently resides in the same village).

sacred. In the area surrounding Mazar, there live approximately 30 families of "Khoja" who claim to be the descendants of Qutayba. In the vicinity there are also situated other numerous cemeteries, such as: Khoja Mazar, Qirghiz Mazar, Uzbek Mazar, Kashgar Mazars, Qaraqalpak Mazar, Munduz Mazar, etc.

On the other hand, in the adjacent villages there are many mazars that are believed to be related to Qutayba. First of all, there is the Shahid Mazar (also known as Gulunch Mazar or Mazar Buva) located in the same village. It is said to be the grave of one of Qutayba's soldiers, his real name unknown. It is also reported that there used to be a fortress standing here. Also, in the Qond village in the same district, there is a mausoleum called Sultan Ena Mazar, believed to be the grave of Qutayba's wife. The legend says that she converted to Islam, and after Qutayba was killed she "discreetly hid herself" among the rocks. In addition, the Chashma Buva Mazar, which is located in the Chashma village in the same district, and Qanbar Ata Mazar, situated in the Yar village in the Khojaabad district, are both believed to be tombs of Qutayba's subordinates who met a martyr's death.

**Related Historical Sources:** The 10th century historian Narshakhi mentions that "In a place called Rabat-i Sarhang, in the village of "Kākh", there is the tomb of Qutayba ibn Muslim"<sup>3</sup>. On the other hand, in the early 14th century, Jamal al-din Qarshi in his *Mulhaqāt al-ṣurāḥ* states that the mazar is located in the village of "Kulīch"<sup>4</sup>. V.V. Barthold after close examination of the both above reports pointed out that "Kākh" might also be a scribal error of the word "Kulīch", a simple mistake made by Narshakhi when transcribing the name of the place<sup>5</sup>. There is also a detailed report published by the Soviet ethnographer A.K. Pisarchik after conducting a research of this mazar in 1946<sup>6</sup>.

## B. The documents

The owner of the presented documents is Mr. Nasrullakhan Hasanov (born 1938, currently resides in the Akhunbabaev district). Mr. Hasanov's ancestors through generations occupied the position of "shaykh" of the mazar; therefore, the mazar-related documents have been inherited in the family to the present day. According to Mr. Hasanov, his ancestors were shaykhs of the Naqshbandi order. There is high probability that in the past the members of the Naqshbandi order used this mazar as the base of their activities.

<sup>3</sup> *Description topographique et historique de Boukhara par Mohammed Nerchakhy suivie de textes relatifs à la Transoxanie*, texte persan publié par Charles Schefer, Reprint of the Edition Paris 1892, Frankfurt am Main, 1993, p.57; The toponym of Rabat-i Sarhang is also encountered in the Babur-Nama. Zahir al-Din Muhammad Babur, *Babur-Nama (Vaqayi')*, ed. by Eiji Mano, Kyoto, 1995, pp. 108, 110.

<sup>4</sup> Абу-л-Фадл ибн Мухаммад Джамал ад-Дин Карши, *Мулхакат ас-сурах*, (пере. с персидского Р. Ш. Шарафутдиновой), *Материалы по истории Средней и Центральной Азии X-XIX вв.*, Ташкент, 1988, стр. 122.

<sup>5</sup> Barthold, W.-[Spuler, B.], *Farghāna*, E12.

<sup>6</sup> Писарчик, А.К., Некоторые данные по исторической топографии городов Ферганы, *Сборник статей посвященных искусству таджикского народа*, Сталинабад, 1956, стр. 171-174.

**WT-QM-01:** 238.5 cm x 27.5 cm

This scroll consists of the following 2 documents:

- a. Qutayba ibn Muslim's biography; the beginning part is missing.
- b. Genealogy attesting the belonging to the sayyid family; written in the month of Rajab of the year 1271<sup>7</sup>/ March-April, 1855. It contains in total 45 names through 28 generations beginning with the name of Shah Qutayba. There is a seal of Malla Khan (reigned 1858-1862), the ruler of Khoqand khanate, on the right and 38 seals of qadis below the record.

**WT-QM-02:** 750.4 cm x 31.5 cm

This scroll consists of the following 6 documents:

- a. Qutayba ibn Muslim's biography; the text is identical to WT-QM-01-a.
- b. Genealogy attesting the belonging to the sayyid family; written in the month of the Rabi al-awwal of the year 1274 / October-November, 1857. It contains in total 32 names through 27 generations beginning with the name of Shah Qutayba. The document bears 9 seals.
- c. Fatwa 1. This is a legal opinion suggesting that because the origin of Qutayba's descendants is proved by the genealogical record they should receive tax exemption. The document bears 13 seals.
- d. Fatwa 2 (copy). This is a legal opinion suggesting that the members of the sayyid family should be highly esteemed.
- e. Fatwa 3. This is a legal opinion claiming that Qutayba's descendants who belong to the sayyid family are superior and have excellence over others. The document bears 1 seal.
- f. Fatwa 4. This is a legal opinion confirming that Qutayba's descendants who live at the mazar belong to the sayyid family and that the offerings made at the mazar should not be taken from them. The document bears 7 seals.

**WT-QM-03:** 587 cm x 26 cm

This scroll consists of the following 4 documents:

- a. Genealogy attesting the belonging to the sayyid family; written in the month of the Jumada al-ula of the year 1312 / October-November, 1894 based on the genealogy written in the month of Rabi al-awwal of the year 1293 / October-November, 1876. It contains in total 10 names of Shah Qutayba's descendants through 4 generations. The document bears 4 seals.
- b. Fatwa 1. The text is identical to WT-QM-02-c. The document bears 9 seals.
- c. Fatwa 2 (copy). The text is identical to WT-QM-02-d.
- d. Fatwa 3. This is a legal opinion suggesting that Qutayba's descendants, namely Sarimsaq Khoja Ishan, Isma'il Khoja Ishan, as well as the descendants of Khal Khoja, Khan Khoja, and Isma'il Khoja—all of them

---

<sup>7</sup> There are signs of correction of 1261 to 1271, or vice-versa. Considering the fact that the document also bears qadi seals engraved with 1270 or 1271 year, which is closer to the time of rule of Malla Khan, it is more likely that the year of 1271 is the correct one.

living at the mazar—have the right to receive offerings at the mazar. The document bears 2 seals.

**WT-QM-04:** 35.6 cm x 21.9 cm

Tax exemption certificate issued by Khudayar Khan, the ruler of the Khoqand khanate (reigned 1845-1858, 1862-1863, 1865-1875) in the month of Ramadan of the year 1283 / January-February 1867 to the custodians of the mazar, namely Isma'il Khoja Ishan, Khan Khoja Ishan, Yunus Khoja Ishan, and Sarimsaq Khoja Ishan.

## 2. Documents related to the Mazar of Qarayazi Baba

### A. The Mazar of Qarayazi Baba

**Location:** Republic of Uzbekistan, Ferghana province, Uzbekistan district, Beshqapa village

**Origins and Historical Background:** Qarayazi Baba is believed to be the son of Sayyid Battal Ghazi, whose real name was Asad Allah. Though neither historical resources nor field interviews have revealed detailed information about these two figures, based on the fact that the genealogy presented in document WT-QB-01, which is dated to 1859, mentions a descendant of Qarayazi Baba in the 28th generation, it can be assumed that the person buried in the mazar is considered to have lived in the very early times, just after Islam had made its appearance.

Incidentally, it is interesting to note that the saint with the name of "Sayyid Battal Ghazi" is widely known throughout the vast area extending from Turkey to Central Asia. According to a legend, he inventively managed to snatch half of Constantinople (today's Istanbul) from the Byzantine emperor. In Eskishehir, Turkey, there exists a mazar which is believed to be the burial place of Sayyid Battal Ghazi, and which is said to have continually attracted crowds of pilgrims even as late as the beginning of 20th century<sup>8</sup>. Apparently, this Sayyid Battal Ghazi was believed to be the father of Qarayazi Baba.

**Current Condition and Surroundings:** In the mazar, there is a box containing a relic called "Muy-i mubarak (sacred beard)" which is believed to be the Prophet Muhammad's beard<sup>9</sup>. The tombstone is of a rather big size, having length of about 9m. There is also a pond on the premises of the mazar. The name of Qarayazi is said to derive from the words "desert of black stones (qara tashli dasht)". Through generations the descendants of Qarayazi Baba acted as shaykhs.

---

<sup>8</sup> Снесарев, Г. П., *Хорезмские легенды как источник по истории религиозных культов Средней Азии*, Москва, 1983, стр. 178-180.

<sup>9</sup> In the Ferghana valley, there are several other places where the Muy-i Mubarak is claimed to be stored. For example, there can be noted the Muy-i Mubarak mazar in the village of Avchi, Uzbekistan district, the Province of Ferghana, and the mazar with the same name on the territory of Hasti Ma'az mazar in Khoja Magiz Mahalla, Marghilans.

In addition, in the adjacent villages within the same district, there are several mazars believed to be those of the brothers of Qarayazi Baba: the Aq("white")yazi Buva Mazar in the village of Aqyaz; the Sari("yellow")yazi Buva Mazar in the village of Dasht Mahalla; and the Peshtaq<sup>10</sup> Buva Mazar on the Ishan Buva Cemetery in the village of Dasht. All the three mazars are believed to be the burial places of the sons of Sayyid Battal Ghazi, or the brothers of Qarayazi Baba.

**Related Historical Sources:** According to several historical sources, this is the place where Ataliq bek, the son of Alim Khan who was the ruler of Khoqand khanate (reigned 1799-1810), was killed during the coup in 1843<sup>11</sup>.

## B. The documents

The originals of the three items presented here are owned by Ms. Khalimakhan Ma'rufkhojaeva, who is a descendant of the shaykhs of this mazar on her mother's side. Ms. Ma'rufkhojaeva received these documents from her mother; who, in her turn, is said to have inherited them from her father. At the same time, on her father's side, Ms. Ma'rufkhojaeva descends from Lutf Allah Chusti (died 1571), a prominent leader of the Naqshbandi order of the 16th century. Based on this fact of kinship between the two lines, it is quite possible that shaykhs of the Qarayazi Baba Mazar had close connections with shaykhs of the Chusti lineage, though there is still no persuasive evidence to back up this assumption.

**WT-QB-01:** 49.5 cm x 31.5 cm

This genealogy written in the Month of Jumada al-akhira of the year 1275 / January-February, 1859 attests that Muhammad Amin Khan and Daniyal Khan, who are descendants of Asad Allah (Qarayazi Ata), belong to the sayyid family. It contains in total 42 names of Asad Allah's descendants through 28 generations. The document bears 32 seals.

**WT-QB-02:** 34.5 cm x 43.5 cm

Fatwa . This legal opinion suggests that, being descendants of Asad Allah Khan (Qarayazi Ata), Asamat Allah Khoja, Haydarali Khoja, Ghazi Khoja, Ata Khoja, Hamza Khoja, Sayyid Khoja, Wali Khoja, Baba Khoja, Sharafat Banu, and Abd Allah Khoja are entitled to receive offerings made at the mazar.

There is no date on the document. While it bears the same seal as found on document WT-QB-01, some other seals on the document suggest dating it to 1289, 1290, 1293, or 1294 (which accordingly correspond to the

---

<sup>10</sup> The word "peshtaq" conventionally means the upper decorated part of a building entrance. The origin of the mazar's name is not clear.

<sup>11</sup> Mirzā 'Ālim Mushrif, *Ansāb al-salāfīn wa tavārīkh al-khavāqīn*, Institute of Oriental Studies of the Academy of Science of the Republic of Uzbekistan, Inv.No. 1314, l. 61b; 'Awaz Muḥammad, *Tuhfat al-tavārīkh-i khānī*, St.Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences, Inv.No. S440, l. 248b.



years between 1874 and 1878 in Western tradition). Therefore, it can be presumed that this fatwa was written about 15 years later than document WT-QB-01, after the region was occupied by the Russian Empire. Moreover, none of the names mentioned in the fatwa coincide with the names contained in WT-QB-01; and though it is possible that some of the names appearing in the fatwa belong to the offsprings of the descendants mentioned in WT-QB-01, even then it is not clear which of them are the related ones. The document bears 28 seals.

**WT-QB-03:** 181 cm x 16 cm

The date is unknown. This document presents a list of names by tribe. From the fact that this manuscript has been held by the mazar's shaykhs together with other related documents, it can be assumed that this document presents a list of disciples which was used by religious leaders of the Sufi order for collecting offerings. According to O.A. Sukhareva, every year in autumn, after the harvest was over, the order leaders went round the villages where their disciples lived bringing back offerings in crops, fruits, cattle and livestock; in fact, such offerings constituted the main source of their income. For this purpose they compiled name lists (*daftar*); such process of collecting offerings was known as "hunting"<sup>12</sup>. Apparently, the document in question presents one of such name lists.

The tribe names mentioned in the document and the number of listed names for each tribe are given below. However, it must be noticed that the correct reading of many names as well as their hierarchial relationship could not be clarified. The document provides the following data: Yusuf Ali's Tartughli Jalayir—72 names; Qudish Alchin—36; Fanjighali Alchin—35; Yalang As—77; Fanjighali Ming—13; Qangli Qayushqanli—20; Jamki Durman-Qosh Tamghali—11; Aytu-Qoshtamghali—32; Aytu-Jublachi—20; Jublachi—16; Balgali Jalayir who fought against Shadman—22 names.

In reference to the names for Qudish Alchin and Fanjighali Alchin, this list contains the following note: "disciples of Ishan Kuchak Khan Khoja ibn Niyaz Khan Khoja". The name of Ishan Kuchak Khan Khoja also appears in the genealogical record of WT-QB-01, but as the genealogy states his father as a certain Aziz Khan, it may be assumed that these two are different persons. On the other hand the genealogy of WT-QB-01 also mentions the names of Niyaz Khan Khoja and of his son, Nawruz Khan; however, it is possible that Niyaz Khan Khoja had yet another son, named Kuchak Khan as well. In any case, it can be concluded with high probability that religious leaders of the Sufi order whose activities were concentrated around the Qarayazi Baba Mazar and who claimed to be descendants of Kuchak Khan, thus tracing their lineage back to Qarayazi Baba, had many followers among the local tribes.

---

<sup>12</sup> Сухарева, О. А., *Ислам в Узбекистане*, Ташкент, 1960, стр. 64.

# Мозор ҳужжатлари тадқиқотига кириш

СУТАВАРА Жун

## 1. Мозор ҳужжатлари

Мозор (исломнинг мукаддас жойлари) ислом валийларининг эътиқоди нишон қилинган исломий эътиқод ва касал даволаш, бола тилаш қаторлик реал манфаатни асос қилган оммавий эътиқодни ўзида ифода этган зиёратгоҳлар бўлиб, узок тарихий жараёнларда маънавий озуқа вазифасини бажариб келган. Шунинг билан бирга мозорлар йирик-яқиндан зиёрат қилиш учун келган кам аъзоли жамоа билан кенг доирадаги жамоа гуруҳини учрашиш ҳамда маданият алмаштириш нуктаси бўлиб, жамиятда жуда муҳим рол ўйнаб келган.

Ушбу китобда тузувчилар томонидан ишлатилган “мозор ҳужжатлари” деган бу атама кишилар авлоддан авлодга сақлаб келган мозорнинг келиб чиқиш тарихи, мозорларнинг муҳофаза этилиш аҳволи, бошқарилиши, диний маросимларнинг ўтказилиши муносабатлик ҳужжатларни кўрсатадиган атамидир. Мозорлар жамиятда алоҳида рол ўйнаб келганлиги учун бу ҳужжатлар шу мозорларга бевосита алоқадор кишиларнинг қўлида то ҳозиргача сақланиб келган. Ҳужжатларнинг сони, сақланиш аҳволи, мазмунлари ҳам ҳар қайси жойларда ўхшамайди. Айниқса ушбу китобда таништирилмоқчи бўлган Синьцзян ва Фарғонада топилган ҳужжатлар ўртасидаги фарқ жуда катта. Мозор ҳужжатлари мозорларни сақлаб келган шайхларнинг ҳақиқийлигини (мозорларда ётган валийларнинг бевосита қариндоши ёки муридлари) исботлайдиган ҳужжатлар; мозор қурилиши, қўлаи ҳақида маълумот берилган ҳужжатлар; мозор вақфига оид ёки мозорнинг келиб чиқиш тарихига доир маълумотларни ўз ичига олади. Бу ҳужжатларнинг баъзиларининг XVII-XVIII асрларда ёзилганлигини ҳисобга олмаганда, қолганларнинг аксарияти XIX-XX асрларда ёзилган.

Ҳужжатлар ҳар қайси даврларда форсий ва туркий тилларда ёзилган бўлсада, лекин баъзида арабча жумлалар аралаш ҳужжатлар ҳам учрайди. Кейинги даврларда русча ва хитойча ёзилган ҳужжатлар ҳам учрайди.

Мозор ҳужжатларининг мазмунидан қараганда ҳужжатларнинг турлари қуйидагича:

### **(1) Насабнома, шажара ёки “жўрунқай”**

Хужжатлар орасида Муҳаммад пайгамбар билан хужжатнинг эгаси ўртасидаги кариндошлик муносабатни билдирадиган насабномалар бор. Гарчи мазорларда ётган бир қисм валийлар исломиятдан илгариги кишилар бўлсада, аммо уларнинг насаби Муҳаммад пайгамбарга боғлаб қўйилган насабномалар ҳам бор.

Насабномалар шакл жиҳатда дарахт шаклида шохлатиб ва илдиз тортигилиб баён қилиш усули ва оддий баён қилиш усулидан иборат икки хил шаклга эга. Насабномалар асосан ўрама шаклда бўлиб, баъзиларининг узунлиги 10 метрдан ошади.

### **(2) Тазкиралар**

Дафн қилинган валийларнинг ўзи ва уларнинг ота-боболарига оид афсона-ривоятларни ўз ичига олади. Тазкираларда мазорда ётган асослик шахснинг кароматлари, диний фаолиятлари атрофлича таништирилади, тазкираларнинг яна мазорни сакловчи шахслар ва уларнинг авлодларининг жамиятдаги диний имтиёзини юқори кўтариш вазифаси бор<sup>1</sup>.

### **(3) Шайхликга тайинланганлик хатлари**

Фарғона шайхларининг кўпинчаси шу даврдаги ҳокимиятлар томонидан белгиланган.

### **(4) Алоҳида имтиёз берилганлик хатлари**

Бу хатлар Фарғонадаги валий авлодларига шу чоғдаги ҳокимиятлар тарафдан берилган бождан кечирим қилинганлик сингари алоҳида имтиёзлар берилган хатларни ўз ичига олади. Юқоридаги 3-тур ва мана шу 4-турдан мазорларнинг жамиятдаги сиёсий ўрнини аниқласа бўлади.

### **(5) Вақфномалар**

Вақфномалар мазор ва мазорга қарашли масжид, мадрасаларга қилинган вақфларга оид гувоҳлик хатларини ўз ичига олади. Булар ерлик халқ билан мазор ўртасидаги иктисодий муносабатлар ва бошқа аниқ муносабатларни тушунишдаги муҳим материал ҳисобланади.

### **(6) Арз даъво-дастур ҳужжатлари**

Булар шайх тайинлаш масаласига оид арз, фатво, ҳукмларни ўз ичига олган ҳужжатлар бўлиб, мазорнинг жамиятга келтирадиган фойида-зиёнини тафсилий билишдаги муҳим материал.

Юқоридагилардан бошқа мазор атрофидаги мазорларга яқин алоқада бўлган тўхтама хатлари, ер сотиш, сотиб олиш, ижара хати, ўтиниб бериш хати, мерос, вакиллик хати кабиларни ҳам кенг маънодан айтганда мазор ҳужжатлари деб ҳисоблашга бўлади. Бу ҳужжатлар мазорларнинг шу жамиятдаги моддий ва маънавий вазифасини юқори кўтаришда муҳим рол ўйнайдиган жонли материал ҳисобланади. Бу хил ҳужжатлар ҳозирги реал аҳамиятидан илмий жиҳатдан айтганда яна мазорларнинг келиб чиқиш тарихи, жамиятда ўйнаб келган роли каби қатор маълумотларни ўз ичига олади.

---

<sup>1</sup> Мазорнинг жамиятда ўйнаган роли ҳақида қаранг: Шинмен Ясуши, Санада Ясуши, Ванг Жяншин (туз.), *Синьцзян уйғурларининг бозор ва мазорлари*, Ислам маданияти мажмуаси 70, Токио чет тиллари университети Осиё-Африка тил-маданияти тадқиқот институти 2002 (япон тилида); Раҳила Довуд, Уйғур мазорлари, *Урумчи: Синьцзян халқ нашриёти*, 2002.

## **2. Мозор ҳужжатларининг ҳозирги ташвишлик аҳволи**

Олай тоғларининг икки томонига жойлашган Синьцзян ва Фарғона ўлкасида мозорлар кўп бўлиб, халқнинг мозорларга чўкиниш одағлари хали ҳам мавжуд. Ҳар икки ўлкадаги мозор ҳужжатлари юқорида айтгандек кишилар тарафидан кадрланиб келгани учун бугунгача сақланиб келган. Бирок бу мозор ҳужжатларининг келгуси истикболидан сўз очиш кийин. XX асрда юз берган икки катта ўзгариш яъни Совет Иттифоқининг парчаланиши билан Ўрта Осиёда мустақил миллий давлатларнинг ташкил топиши; Хитойдаги “маданият зўр инқилоби”нинг охирилашиши билан борликка келган ислохот, эшикни сиртга очиши ҳаракатидан кейин, ҳар икки ўлкадаги анъанавий маданият қайта жонланишга ва икки ўлка ўртасидаги маданият алоқаси аслига келишга юзланмоқда. Бирок, яна бир тарафдан қараганда, юқориги аҳволларнинг даражаси ўхшаш бўлмасада, диндан йироқлашиш аҳволи ниҳоят тез бўлмоқда. Бу хил аҳвол анъанавий ҳужжатларга хатарлик оқибат олиб келмоқда.

Синьцзянда, Хитойнинг яқинги мазгиллардаги давлат плани бўлган “ғарбий районни кенг қўламда очиш” планининг таъсири билан аҳолининг сунъий кўпайиши ҳаддидан зиёда тезлашиб ижтимоий маданиятда моҳиятлик ўзгариш тўлкини пайдо бўлиб, анъанавий уйғур маданияти емирилмоқда десак ҳам ортик кетмайди. Ана шундай аҳволда бу районда кўп учрайдиган диний қурилишларнинг кундан кунга вайрон бўлишга қараб юзланаётганлигини кўришга бўлади. Масалан: яқинги аҳволни жумладан эшикни сиртга очишти, саёҳатчиликни тараққий қилдириш мақсадида мозорларни саёҳат ўрни қилиб бекитиш аҳволини бунга мисол қилиб кўрсатишга бўлади. Мозор қурулиши, халқнинг мозор зиёрат қилиш фаолиятлари ҳозирги саёҳатчиларнинг зиёрат объекти бўлиб қолмоқда. Шунинг билан ерлик жамиятнинг мозорларни анъанавий бошқариш усули ҳукумат тарафнинг бошқариш усулига қараб ўзгармоқда. Ана шундай диндан ётлашиш юзланиши бутун Синьцзянга умумлашмоқда.

Фарғона водийсида бўлса, Совет Иттифоқи парчаланиб беш мустақил давлат ташкил топган ҳозирги шароитда, бутун мамлакат бўйича анъанавий маданият ва тарихни қайта танишнинг муҳимлиги таъкидланаётган бўлсада, лекин тарихий материалларга кўнгил бўлиш тоза яхши эмас. Ана шунга ўхшаш, яқинги замондаги ислом диний эътиқоди қайта жонланиб, мозорларга қизиқиш кун сари ортиб бораётган бўлсада, лекин халқнинг мозор ҳужжатларига нисбатан муносабати жуда фарқли бўлиб, ёшларнинг мозор ҳужжатларига бўлган тушунчаси ниҳоятда паст.

Демак, Синьцзян ва Фарғонадан иборат икки ҳудудда анъанавий маданиятга бири мустақил давлат майдонида туруб муомила қилаётган, Синьцзянда кучлик Хитой маданиятининг сингиб кириши ва оқма аҳолининг тўхтовсиз оқиб кириши билан анъанавий маданият емирилаётган қарма қарши вазиятда ҳам мозор ҳужжатлари янада йўқолиш хавфига дуч келмоқда. Ана шу нуктадан қараганда ҳар икки ўлкада мозор ҳужжатларининг тақдири ўхшаш. Шундай вазиятда мозор ҳужжатларини йиғиб сақлаш икки ўлка анъанавий маданиятини сақлашда муҳим аҳамият касб этади.

## **3. Мозор ҳужжатларидаги етарсиз морфологиялик маълумот ва озгина йиғинда**

Қўлёзма ёки тўхтамнома қаторлик ёзма материаллар илгари Совет Иттифоқи билан Хитойнинг илмий тадқиқот муассасалари тарафидан мунтазам йиғиб олинмиш натижасида ҳар қайси архивхоналарда

маълум микдорда сақланмоқда. Лекин, мазор ҳужжатларига муносабатлик маълумотлар ва жамият ўринларида сақланаётган ҳужжатлар жуда оз. Мазор ҳужжатларининг сақланишига оид маълумот ҳамда мазор ҳужжатларининг мазмунига муносабатлик маълумот характерлик материаллар жуда ҳам оз.

Бунинг сабабига келсак, халққа жиддий кераклик бўлмаган материалларнинг илмий ташкилотлар тарафидан йиғиб олиниб, халқ қадрлаб сақлаб келаётган мазор ҳужжатларининг бу йиғиш режасининг ортида қолганлигидан бўлса керак.

Демак, ҳозир жамиятда сақланаётган мазор ҳужжатлари жамият ўринларида ҳам кўргали бўлмайдиган қимматли материаллардир. Ҳозирги аҳволга қараганда, мазор ҳужжатларига оид хабарларни хотиралаб тадқиқотга фойдаланиш муҳитини яратишнинг ўзи энг охириги фурсат бўлиб қолгусидир.

#### **4. Мазор ҳужжатлари тадқиқот плани**

Бу китобнинг тузувчилари бошчилигидаги юқоригидек ўрток тушунчага эга бўлган тадқиқотчилар мазор ҳужжатларига бевосита алоқадор ерлик халқ билан ҳамкорлашиб, мазор ҳужжатлари бор ўринни текшириб тадқиқ қилиш иши бўлган мазор ҳужжатлари тадқиқот режасини қўлга олдик. Бу режа Синьцзян ва Фарғонадан иборат икки ўлкада мазор ҳужжатларнинг сақланиш системасини куруб, шу ҳудудлардаги мазорлар марказ қилинган урф-одатларни сақлаб давомлаштиришга хисса қўшишни мақсад қилади. Яна ҳар икки ўлкадаги мазор ҳужжатларини тадқиқ қилиб, мазорлар марказ қилинган тарихни барпо қилиш ҳамда икки ҳудуд ўрток маданият қатламини ёритишга уриниб кўришдан иборат.

Бу тадқиқот планининг борлиққа келиши, бир қанча тадқиқот группаси ва шахсларнинг ҳозирга қадар мазор ва мазор ҳужжатлари борасида юргизган тадқиқот ва текширишлари ҳамда уларнинг бу ҳақда қўлга киритган натижаларини бу ерда қайд қилиб ўтишга тўғри келади. Тадқиқот группаларининг фаолиятларининг асослик мазмуни қуйидагича:

(1) 1996-йили Хитой Синьцзяннинг Қашгар, Турпон вилоятларида юргизилган мазор текшириши. Шинмен Ясуши, Санада Ясуши, Ванг Жяншин (Япония ижтимоий фанлар академиясининг илмий тадқиқот харажати билан): Ислоҳ дунёсининг бошқа маданиятлар билан учрашиш механизми - Инсониятнинг ҳозирги ҳолати ва унга оид маълумотлар ҳақида умумий тадқиқот. Бошлиғи: Яжима Хикоичи билан биргаликда<sup>2</sup>.

(2) 1988-йили Хитой Синьцзяннинг Қашгар вилоятида олиб борилган мазор текшириши. Савада Минору, Ҳори Сунао (шахсий тадқиқот харажати билан)<sup>3</sup>.

<sup>2</sup> Шинмен Ясуши, Санада Ясуши, Ванг Жяншин (туз.): *Синьцзян уйғурларининг бозор ва мазорлари*, Ислоҳ маданияти мажмуаси 70, Токио чет тиллари университети Осиё-Африка тил-маданияти тадқиқот институти, 2002 (япон тилида).

<sup>3</sup> Қаранг: Савада Минору, Урдом подшоҳнинг муқаддас доираси, *Ички Осиё тадқиқоти*, 14, 91-109б. (япон тилида); Савада Минору, Торим водиси атрофидаги Ислоҳга оид тарихий ёдгорликларни текшириш доклади, *Тезукаяма гакуин университети инсоният маданияти факультетининг йиллик илмий журнали*, Қўшимча номери, 49-70б. (япон тилида).



(3) 2000-йили Хитойнинг Синьцзян Хутан вилоятида олиб борилган мазор текшириши. Савада Минору, Сугавара Жун (Япония ижтимоий фанлар академиясининг илмий тадқиқот харажати билан); Ўрта Осиёдаги маданият ўртоклиги ва Ислом тарихи ҳақида тадқиқот. Бошлиғи: Шинмен Ясуши.

(4) 2005-йили Хитой Синьцзяннинг Қўмул вилоятида олиб борилган мазор текшириши. Сугавара Жун (Токио чет тиллари университети, Осиё-Африка тил-маданияти тадқиқот институти GICAS қурулишининг харажати билан), Ички Осиёга оид маълумот манбаларини барпо этиш, Бошлиғи: Наками Тацуо<sup>4</sup>.

(5) 2005-йили Ўзбекистоннинг Фарғона водийси ва Хитой Синьцзяннинг Қашғар вилоятида олиб борилган мазор текшириши. Савада Минору, Шинмен Ясуши, Сугавара Жун, Кавахара Яёи, Аширбек Мўминов, Нодирбек Абдулахатов (Нара ипак йўли тадқиқот маркази, Ўрта Осиёдаги Исломга оид муқаддас жойларни тадқиқ қилиш - Фарғона водийси мисолида)лар билан биргаликда<sup>5</sup>.

Айниқса, энг охирида кўрсатилган Нара ипак йўли тадқиқот марказининг ҳомийлиги билан амалга оширилган тадқиқот фаолиятини катнашган аъзоларнинг кўплиги ҳамда текшириш объекти нуктасидан айтганда ҳам мазор ҳужжатлари тадқиқотида аҳамиятли натижалар қўлга киритилган ҳақиқий мазор ҳужжатлари тадқиқоти деб айтиш мумкин.

Бу тадқиқот группаси бу китобнинг тузувчиларидан бири ҳамда мазкур тадқиқот планининг бошлиғи бўлган Сугавара Жун (Токио чет тиллари университети Осиё-Африка тил-маданияти институти); Яна бир тузувчиси Кавахара Яёи (Япония илмий тараққиёт жамияти); Савада Минору (Тояма университети); Шинмен Ясуши (Чуо университети); Сугахара Муцуми (Токио чет тиллари университети); Аширбек Мўминов (Қозогистон шарқшунослик институти); Нодирбек Абдулахатов (Фарғона вилояти ўлкашунослик музейи); Аблиз Ўрхун (Синьцзян Уйғур Афтоном Районлик тазкира комитети); Арслон Абдулло (Синьцзян университети филология институти); Раҳила Довуд (Синьцзян университети филология институти); Асад Сулаймон (Синьцзян университети филология институти); ва ерликдан ҳамкорлашувчи, Алишер Тошқулов (Фарғона вилояти маданият газетаси); Исмоилхон Махмудов (Фарғона вилояти Учкўприк тумани Катта Кенағас масжиди); Зухро Толиб (Қўмул вилоятлик қадимги асарлар, тил-ёзув ишхонаси)лардан таркиб топган. Бу план “Синьцзян ва Фарғонадаги мазор ҳужжатларини текшириш, йиғиш ва тадқиқ қилиш” деган тадқиқот номи билан Тойота фондининг 2005 йиллик алоҳида тадқиқот темаси бўлган “Осиёнинг чегара районларидаги анъанавий ҳужжатларни сақлаш, йиғиш, тадқиқот қилиш” планига олинган. Китобни нашр қилишдан илгари ўтказилган халқора илмий муҳокама йиғини “Синьцзян ва Фарғонадаги мазорлар” (2005 йили Ноябрь ойида Токио Суидобашада ўтказилган) бу тадқиқот группаси ўтказган 1-навбатлик илмий фаолият бўлиб, бу фаолият

<sup>4</sup> Қаранг: Савада Минору, Таклимоқоннинг жанубий четидаги муқаддас қабригоҳлар, *Тезукаяма гакуин университети инсоният маданияти факултетининг йиллик илмий журнали*, 2, 160-182б; Сугавара Жун, Шаҳидона Хутан, *Токио чет тиллари университети Осиё-Африка тил-маданияти тадқиқот институти хабарлари*, 101, 10-17б. (япон тилида).

<sup>5</sup> Савада Минору (туз.), *Ўрта Осиёдаги исломга оид муқаддас жойларни тадқиқ қилиш: Фарғона водийси ва Қашғар*, Ипак йўлишунослик тадқиқот тўплами, 28, Нара, Нара ипак йўли кўрғазмасини хотиралаш халқаро алмаштириш фонди, Ипак йўлишунослик тадқиқот маркази, 2007 (япон тилида).

кисман Тойота фондининг хомийлиги билан ўтказилган.

## **5. Бу китобда таништирилган ҳужжатлар тўғрисида**

Мазкур китоб мазор ҳужжатлари тадқиқот планининг асоси бўлган ҳужжат йиғишининг тўғри мевасидир. Келгуси планимизда дала текшириш орқали, йўқолиш олдида турган мазор ҳужжатларини йиғиб, факсимил шаклида нашр қилиб, мазкур ҳужжатларни янада зўр ҳаётини кучга эга қилишни бош вазифа деб қараб, қурбимиз етганича янада кўп ҳужжатларни нашр қилишдир. Бу китобда таништирилган мазор ҳужжатларининг тафсиллий мазмунлари қуйидаги махсус темаларда таништирилади. Буларнинг ҳаммаси тузувчилар тарафидан дала текшириш жараёнида йиғиб олинган.

## Синьцзянда топилган ҳужжатлар

СУГАВАРА ЖУН

Биз бу китобда қуйидагидек тўрт турли ҳужжатни таништирамиз. 1. Қумул шаҳри ичидаги Азизим Оғоча мазорига алоқадор ҳужжатлар (4 та: EA01-04); 2. Қумулдаги мазорлар таништирилган асар (19 варак: QM01); кавс ичидаги рақам муаллиф томонидан қўйилган.

1-ва 2-хил материал 2003-йили Сугавара Жун масъуллигида ишланган Токио чет тиллари университети Осиё-Африка тил-маданияти тадқиқот институти GICASнинг плони жараёнида кашф этилиб, материал эгасининг рухсати билан расмга олинган ва кейинчалик Тойота Фондининг ҳомийлиги билан қайтадан текшириши утказилган материаллардир. Бу ҳужжатлар ҳозирга қадар кўп тадқиқ этилмаган. Қумулдаги мазорлар ҳақида анча маълумот берадиган янги материаллар жумласидандир.

### 1. Қумул шаҳри ичидаги Азизим Оғоча мазорига алоқадор ҳужжатлар (4 та: EA01-04)

Азизим Оғоча мазори Қумул эски шаҳрининг шаҳар атрофи қишлоғига қарашли Азизим маҳалласида жойлашган бўлиб, мазорга Арабистонлик Биби Робия Адавийя номи бир хотун киши дафн қилинган экан. Бу ерга ҳар йили ид қурбон арафаси окшоми аёллар келиб зиёрат қиладиган анъанавий одат бор<sup>1</sup>. Робия Адавийя (?-801) тарихдаги аёл сўфилар ичида энг машҳур сўфиларнинг бири ҳисобланади<sup>2</sup>. Ўрта Осиёда тарқалган машҳур асар Фариддин Муҳаммад Атторнинг “Тазкиратул авлиё” номи асарида ҳам бу шахс биттагина аёл сўфи сифатида зикр этилган<sup>3</sup>. Мазкур донгдор сўфи милодий 801-йили Басрада вафот этган<sup>4</sup>, қабри ҳам шу жойда бўлгани учун Қумулдаги мазорни бу кишининг қабри деб айтиш қийин. Мантқан ҳеч бир боғланиши бўлмаган қабрга машҳур сўфиларнинг номларини бериб улуглаш аҳволи Ўрта Осиёда кўп учрайдиган бир ҳолдир. Азизим Оғоча мазори ҳам аслида бошқа бир аёл кишининг мазори бўлиб, кейинги узок тарихий тараққиёт жараёнида ўзгариб юқоридаги машҳур аёл сўфининг номи билан аталиб кетган бўлиши ҳам эҳтимолдан йироқ эмас.

Ушбу китобда таништирмакчи бўлган 4 та ҳужжат ушбу мазорга боғлиқ 2 та ер хати билан мазор шайхининг 2 та шажарасидан иборат. Ўша хатларнинг эгаси 2002-йили мазкур мазорнинг шайхи бўлган Юсуфжон Қосимшоҳ (2003-йилда вафот этган) бўлиб, ҳужжатда бу кишининг отаси бобосининг исми билан бирга учрашади. Бунингга бу ҳужжатларни мазкур мазор шайхининг оиласига муносабатли материал деб айтсак бўлади. Ер хатлари XX-аср бошларидаги мазор атрофидаги жамиятнинг маълум

<sup>1</sup> Ойшам Ахмат, *Қумул*. Урумчи: Синьцзян халқ нашриёти, 1993, 244-245б.

<sup>2</sup> Trimmingham, J.S., *The Sufi Orders in Islam*. New York & Oxford: Oxford University Press, 1998, p.18.

<sup>3</sup> Фариддин Муҳаммад Аттор «Тазкиратул авлиё» (Fuji'i Mori'o Японча таржимаси) Токуо: Kokusho Kanko-kai, 1998, pp.49-84. Қумулда ҳали ҳам Азизим Оғочанинг тазкираси деб аталувчи бир қўлёзма сақланмоқда. Биз дала тадқиқот жараёнида бу қўлёзmani кўриш бахтига муяссар бўлдик. Бироқ унинг мазмуни «Тазкиратул авлиё»нинг мазмунига жуда ўхшаб кетади.

<sup>4</sup> Smith, Margaret, *Rābi'a Basri: The Mystic and Her Fellow-Saints in Islam*, New Delhi: Kitab Bhavan, 2005, p.45.

иктисодий аҳволини тушиниш ҳам Қумулдан топилган ҳужжатларнинг услубини тушинишда ҳам муҳим тадқиқот қимматига эга. Шажараларни мазкур мазор ва мазор шайхларининг Қумулнинг маҳаллий жамиятида анча вақтга қадар муҳим диний рол ўйнаганлигини акс эттирувчи муҳим материал деб ҳисобласа бўлади.

**ЕА01 Шажара** (битилган вақти номаълум) 44×47см.

Қул Али Шох шайхдан бошланган саккиз авлод шайх(бола-чақалари бўлиб жамъи 60 та киши)нинг шажараси. Ҳужжат эгаси Юсуфжон шайхнинг отаси Қосимшоҳ, бобоси Ниёзшоҳ шайхларнинг исмлари бу шажарада 7-, 8-авлод шайх сифатида тилга олинади.

**ЕА02 Шажара** (битилган вақти номаълум) 11×23см.

Қул Али Шох шайх ва унинг болалари бўлиб жамъи саккиз шайхнинг шажараси. Киши исмлари ЕА03дагига ўхшамайди.

**ЕА03 Ер сотиш ҳужжати** (ҳижри 1318-йили ҳамдуна йили дуо ойининг 7-куни / 1900/10/31) 31×21.5см.

Қорни Чўнг Илёснинг ўзининг ингичка ариқ ёқасидаги тўрт чораклик ерини Шамсия Тарканга бахшида қилгани ҳақидаги хат. 3 та муҳр босилган.

**ЕА04 Ер сотиш ҳужжати** (ҳижри1343-йили рамазон ойининг 12-куни / 1925/04/06) 36×30см.

Тўлак Шоқир ўзининг ингичка ариққа жойлашган икки чораклик ерини Ниёзшоҳ шайхга 50сар пулга сотгани ҳақидаги хат. 2 та муҳр босилган. Ниёзшоҳ шайх эса ҳужжат эгаси Юсуфжон шайхнинг бобоси бўлади.

## **2. Қумулдаги мазорлар таништирилган асар (17 варақ: QM01)**

“Қумул шаҳри ичидаги ва тобиалардаги борлик бузруквор хўжамларнинг исми-шарифлари бу турур” деган жумладан бошланган 17 варақли материал. Бошдаги саккиз варақда Қумул вилоятидаги 35 ўриндан иборат мазорнинг номлари, мазорнинг ўрни, баъзиларининг озгина хикоятлари билан таништирилган. Қолган варақларда мазор зиёратининг зарурлиги, зиёрат қилиш усуллари, ўқиладиган оятлар, Ўрта Осиёда ўтган Офок Хўжага қадар бўлган машҳур сўфиларга ўқилган ҳамду-санолар ёзилган<sup>5</sup>. Асарнинг ёзилган вақти ҳақида 4-бетда Қайс Хўжам қабрининг Шингшингшодан Қумул шаҳрига кўчириб келингани деган маълумот бор, шунга қараганда бу асарнинг 1940-йилдан кейин ёзилганида шубҳа йўқ<sup>6</sup>. Хуллас, бу асарни кўҳна асар деб айтиш тўғри бўлмасда Қумулдаги мазорларга оид бундан яхшироқ бошқа қўлёзма топмаганимиз учун, бу асарни Қумулдаги мазорлар тадқиқотида анча муҳим аҳамият касб этади деб айтсак бўлади.

<sup>5</sup> Бу асарда таништирилган мазорларнинг қўп қисми Тойота Фондининг хомийлиги билан ўтказилган дала тадқиқотида ҳақиқатан мавжۇтлиги таҳқиқ этилгани учун, бу асардаги маълумотларнинг аниқлик даражасини юқори деб айтишга лойиқ.

<sup>6</sup> 1945-йил 7-ойнинг 4-кундаги Қайс Хўжам мазорининг кўчириб келиниши ҳақида қаранг: 哈密地区地方志编纂会编《哈密地区志》乌鲁木齐: 新疆大学出版社, 1997, 1306 б.

# Фарғона водийсида топилган ҳужжатлар

КАВАХАРА Яёи

Ушбу китобда “Нара ипак йўли тадқиқот маркази”нинг ҳомийлиги туфайли “Ўрта Осиёдаги исломий муқаддас жойларни ўрганиш (Фарғона водийси мисолида)” номидаги илмий лойиҳа бўйича 2004 йилнинг ёз ойларида олиб борилган дала тадқиқотлари натижасида Фарғона водийсида топилиб, суратга туширилган 7 та нодир ҳужжатлар ҳақида маълумотлар келтириб ўтамиз. Мазкур ҳужжатларнинг 4 таси Қутайба ибн Муслим мазорига ва қолган 3 таси Қораёзи бобо мазорига онд ҳужжатлар бўлиб, 2006 йилдаги Тойота фонди томонидан ҳомийлик қилинаётган “Синьцзян ва Фарғонадаги мазор ҳужжатларини топиш, йиғиш ва ўрганиш” мавзудаги лойиҳага асосан нашрга тайёрланди.

## 1. Қутайба ибн Муслим мазорига топилган ҳужжатлар<sup>1</sup>

### А. Қутайба ибн Муслим мазори

**Манзили:** Ўзбекистон Республикаси Андижон вилояти Жалақудук тумани Сўпи кишлоғи Килич (эски номи: Гурунч) қабристонига жойлашган.

**Келиб чиқиши:** Маҳаллий аҳолининг айтишича, ушбу мазорга VIII асрнинг бошида Ўрта Осиёни босиб олган араб қўшинларининг лашкарбошиси Қутайба ибн Муслим ва унинг 3 ўғли дафн қилинган экан. Қутайба ибн Муслим бу жойда кофирлар (ахборотчининг айтишича “хитой”)нинг подшоҳи бўлмиш Гулунч / Киличнинг кизи Султон Энага уйланиб 3 та ўғил кўрган ва кейинчалик ўз аскарари томонидан ўлдирилгунига қадар 7 йил шу ерда яшаган экан<sup>2</sup>.

**Ҳозирги аҳволи:** Қабристоннинг ўртасида Қутайба ибн Муслимнинг қабри жойлашган бўлиб, атрофида 3 та ўғли ва 2 та номи номаълум азиз авлиёнинг қабрлари, ҳамда “Муқаддас сув” чиқадиган дарахт бор. Мазорнинг атрофларида Қутайба ибн Муслимнинг авлоди бўлмиш “хўжа”лар яшашади. Мазор яқинида “Хўжам мазори”, “Қирғиз мазори”, “Ўзбек мазори”, “Қашғар мазори”, “Қорақолпоқ мазори” ҳамда “Мундуз мазори” деб аталувчи мазорлар мавжуд.

Шу билан бирга қўшни кишлоқларда Қутайба ибн Муслимга боғлиқ бир неча мазорлар ҳам мавжуд. Мазкур Сўпи кишлоғида “Шаҳид мазори (Гулунчи мазор, Мазор бува)” жойлашган. Мазорнинг тўлиқ

<sup>1</sup> Қутайба ибн Муслим мазори ҳақида илгарин муаллиф томонидан маъруза ўқилган ва мақола тайёрланган. Kawahara Y., *Tazkira of Qutayba ibn Muslim and his Mazar in the Ferghana Valley*, International Conference “Mazars” in Ferghana and Xinjiang, November 26-27 2005, Conference room, 4th floor Ogura building, Suidobashi, Tokyo; Kawahara Y., *The Mazar of Qutayba ibn Muslim: A Study of the Oral Tradition and Historical Documents*, Sawada Minoru (ed.) *Islamic Sacred Places in Central Asia: The Ferghana Valley and Kashghar Region* (Silk Roadology 28, Bulletin of the Research Center for Silk Roadology), Nara: Research Center for Silk Roadology, The Nara International Foundation, 2007, pp.49-65, (in Japanese, forthcoming).

<sup>2</sup> Информант: Абдулхамид Махсум ҳожи Сирожиддинов (1922 й.т. мазкур кишлоқда яшайди).



исми номаълум бўлсада, аммо у ҳақда маҳаллий аҳоли орасида, Қутайба ибн Муслимнинг қўриқчиси бўлганлиги тўғрисида ривоятлар мавжуд. Бу жойда илгари қалъа мавжуд бўлган. Мазкур тумандаги Қўнд қишлоғида эса, Қутайба ибн Муслимнинг хотини бўлмиш “Султон Эна”нинг мазори мавжуд. Ривоятга кўра Султон Эна мусулмон аёл сифатида Қутайба ибн Муслимга турмушга чиқади. Қутайба ибн Муслим ўлдирилгач душманлари қўлига асир тушмаслик учун қоя орасига гойиб бўлган. Мазкур тумандаги Чашма қишлоғидаги “Чашма бува мазори” ва Хўжаобод тумани Ёр қишлоғидаги “Қамбар ота мазори”ни ҳам маҳаллий аҳоли томонидан шаҳид бўлган Қутайба ибн Муслимнинг аскарлари билан боғлиқ эканлиги ривоят қилинади.

**Тарихий манбаларда мазор ҳақида:** X асрда яшаб ўтган тарихчи Наршахийнинг “Бухоро тарихи” номли асарида: “Қутайбанинг қабри Фарғонада машҳур бўлиб, у “Работи Саҳанг” деган жойда “Кох” деб аталадиган бир қишлоқда ўрнатилган. Вилоятлардан одамлар зиёрат учун хамиша у ерга бориб турадилар” деган маълумотлар келтирилган<sup>3</sup>. Шунингдек XIV асрда яшаб ўтган тарихчи Жамол Қарший ўзининг “Мулҳакот ас-сурах” китобида Қутайба ибн Муслимнинг қабри Қилич қишлоғида жойлашганлигини таъкидлаб ўтади<sup>4</sup>. Академик В.В. Бартольд ўз мақоласида мазкур икки тарихчининг ёзган топонимларини қиёслаштириб, Наршахийнинг ёзган “Кох” сўзининг “Қилич” сўзини адашиб кўчирган форма эканлигини тахмин қилади<sup>5</sup>. Этнограф А.К. Писарчик эса, 1946 йили Қутайба ибн Муслимнинг мазорини ўрганиш бўйича илмий тадқиқот ишларини олиб борган<sup>6</sup>.

## Б. Ҳужжатлар

Топилган ҳужжатларнинг эгаси Насруллоҳон Ҳасанов (1938 й.т. Охунбобоев шаҳарчасида яшайди) дир. Буларнинг ота-боболари узок йил давомида ушбу мазорда шайхлик қилиб келган бўлиб, мазорга тегишли ҳужжатлар эса авлоддан-авлодга мерос тарзида топширилиб, шу тарзда сақлаб келинган экан. Уларнинг ахборотига кўра аجدодлари Накшбандий тариқатининг шайхларидан бўлишган. Шундай экан бу мазорда аввалги замонда Накшбандия тариқати вакиллари фаолият кўрсатишган деган тахминга келишимиз мумкин.

**WT-QM-01:** 238.5 x 27.5см.

Қуйидагича 2 та ҳужжатдан иборат ўрама ҳолида сақланган узун ҳужжат.

А. Қутайба ибн Муслимнинг тазкираси. Бош қисми сақланмаган.

Б. 1271йил<sup>7</sup> Ражаб ойи / 1855 йил Март-Апрел ойларида битилган саййидлар насабномасини

<sup>3</sup> *Description topographique et historique de Boukhara par Mohammed Nerchakhy suivie de textes relatifs à la Transoxanie*, texte persan publié par Charles Schefer, Reprint of the Edition Paris 1892, Frankfurt am Main, 1993, p.57; “Работи Саҳанг” топоними “Бобур-нома” китобида ҳам келтирилган, Zahir al-Din Muhammad Babur, *Babur-Nama (Vaqayi)*, ed. by Eiji Mano, Kyoto, 1995, pp. 108, 110.

<sup>4</sup> Абу-л-Фадл ибн Муҳаммад Джамал ад-Дин Қарши, Мулҳакот ас-сурах, (пере. с персидского Р.Ш. Шарафутдиновой), *Материалы по истории Средней и Центральной Азии X-XIX вв.*, Ташкент, 1988, стр.122.

<sup>5</sup> Barthold, W.-[Spuler, B.], *Farghāna, EI2*.

<sup>6</sup> Писарчик, А. К., Некоторые данные по исторической топографии городов Ферганы, *Сборник статей посвященных искусству таджикского народа*, Сталинабад, 1956, стр.171-174.

<sup>7</sup> Аммо 1261 деб ёзилиб, кейинчалик 1271га ўзгартирилган ёки унинг тескари қилганига ўхшайди. Баъзи қозиларнинг муҳрларида 1270 ва 1271 йиллар санаси кўринганлиги сабабдан ҳамда Маллахон ҳукм сурган йиллари тўфайли 1271 йил ёзилганлигига ишонч ҳосил қилдик.

ифодаловчи шажарада Шоҳ Қутайба ва унинг авлодлари бўлиб, жамъи 28 авлодга мансуб 45 кишининг шажараси келтирилган. Шажаранинг ўнг томонида Қўқон хони Маллахон (1858-1862 й.х.)нинг муҳри, пастги қисмида козиларнинг 38 та муҳрлари босилган.

**WT-QM-02:** 750.4 x 31.5см.

Қуйидагича 6 та ҳужжатдан иборат ўрама ҳолида сақланган узун ҳужжат.

А. Қутайба ибн Муслимнинг тазкираси. Тўлиқ. WT-QM-01нинг ҳужжат А билан бир хил.

Б. 1274 йил Рабиулаввал ойи / 1857 йил Октябрь-Ноябр ойларида битилган саййидлар насабини ифодаловчи шажарада Шоҳ Қутайба ва унинг авлодларидан жамъи 27 авлодга мансуб 32 кишининг шажараси келтирилган. 9 та муҳр босилган.

В. Фатво 1: Қутайба ибн Муслим авлодларининг саййид-насаб шажараси исботланганлиги учун уларни хирождан озод қилиш ҳақида берилган қарор. 13 та муҳр босилган.

Г. Фатво 2 (нусха): Саййидларни ҳурмат қилиш кераклиги ҳақида берилган қарор.

Д. Фатво 3: Саййид-насаб бўлмиш Қутайба ибн Муслимнинг авлодлари бошқа одамларга нисбатан афзал эканлиги ҳақидаги қарор. 1 та муҳр босилган.

Е. Фатво 4: Мозорда яшовчи Қутайба ибн Муслимнинг авлодлари саййидлар наслидан бўлиб, мозорда қилинган садақатларини улардан олиб қолиш мумкин бўлмаганлиги ҳақида берилган қарор. 7 та муҳр босилган.

**WT-QM-03:** 587 x 26см.

Қуйидагича 4 та ҳужжатдан иборат ўрама ҳолида сақланган узун ҳужжат.

А. 1293 йил Рабиулаввал ойи / 1876 йил Май-Июн ойларида битилган шажарадан 1312 йил Жумодилаввал ойи / 1894 йил Октябрь-Ноябр ойларида қўчирилган саййид-насаб бўлмиш Қутайба ибн Муслимнинг авлодларидан фақат 4 авлодга мансуб 10 кишининг шажараси. 4 та муҳр босилган.

Б. Фатво 1: WT-QM-02-В билан бир хил. 9 та муҳр босилган.

В. Фатво 2 (нусха): WT-QM-02-Г билан бир хил.

Г. Фатво 3: Мозорда яшовчи Қутайба ибн Муслимнинг авлодлари Саримсоқ Хожа Эшон, Исмоил Хожа Эшон ва Хол Хожа, Хон Хожа ва Исмоил Хожанинг авлодлари мозорда қилинган садақатларни олишга ҳақли эканлиги ҳақидаги қарор. 2 та муҳр босилган.

**WT-QM-04:** 35.6 x 21.9см.

1283 йил Рамазон ойи / 1867 йил Январ-Феврал ойларида мозор мутаваллийлари яъни Исмоил Хожа Эшон, Хон Хожа Эшон, Юнус Хожа Эшон ва Саримсоқ Хожа Эшонга Қўқон хони Худоёрхон (1845-1858, 1862-1863, 1865-1875 й.х.) томонидан солинадиган божлардан озод қилиш ҳақидаги ёрлик.

## **Қораёзи бобо мазорида топилган ҳужжатлар**

### **А. Қораёзи бобо мазори**

**Манзили:** Ўзбекистон Республикаси Фарғона вилояти Ўзбекистон тумани Бешкапа қишлоғида жойлашган.

**Келиб чиқиши:** Қораёзи бобо асл исми Асадулло бўлиб, Саййид Баттол Ғозийнинг ўғли бўлар экан.

Улар ҳақида на тарихий манбалардан ва на дала тадқиқотлардан маълумот ола олмадик. 1859 йилда битилган WT-QB-01да ёзилган шажарада Қораёзи бобонинг 28нчи авлодининг номига ёзилган бўлиб, унга кўра ушбу мазорда дафн этилган шахс исломиятнинг энг илк замонида яшаган бўлиши керак.

Туркиядан то Ўрта Осиёгача Саййид Баттол Ғозий деган бир авлиё машҳур бўлган. Ривоятларга қараганда, у макр ва хийла билан Византия Императоридан Константинополь (ҳозирги Стамбул)нинг ярмини олган экан. Маълумотларга кўра, Саййид Баттол Ғозийнинг қабри Туркиянинг Эскишаҳрида жойлашган бўлиб, ушбу мазорга XX асрнинг бошларида ҳам Ўрта Осиёдан зиёратчилар тўхтовсиз келиб турган<sup>8</sup>. Шуни назарда тутсақ Қораёзи бобонинг отаси бўлмиш Саййид Баттол Ғозий ушбу машҳур шахс сифатида тасаввур этилган бўлиши мумкин.

**Ҳозирги аҳволи:** Мазорда “Мўй-и муборак” деб аталувчи пайгамбар Мухаммаднинг сочи солинган кути бор<sup>9</sup>. Қабри эса, жуда катта ва узунлиги тахминан 9 метрча бор. Мазор ичида ховуз мавжуд. Маҳаллий аҳолининг айтишича, “Қораёзи бобо” сўзининг келиб чиқиши “Қора тошли дашт” сўзи билан боғлиқ экан. Мазорда Қораёзи бобонинг авлодлари шайхлик қилиб келганлар.

Мазор атрофидаги қишлоқларда Қораёзи бобонинг биродарлар бўлмиш бир неча мазорлар мавжуд. Мазкур тумандаги Окёзи қишлоғида “Окёзи бува мазори”, Дашт маҳалла қишлоғида “Сарнёзи бува мазори”, ҳамда Эшон бува қабристонида “Пешток бува мазори”<sup>10</sup> мавжуд бўлиб, ривоятларга қараганда, уларнинг ҳаммалари Саййид Баттол Ғозийнинг ўғиллари, яъни Қораёзи бобонинг биродарлари бўлганлар.

**Тарихий манбаларда мазор ҳақида:** Тарихий манбаларга кўра Қўқон хони Олимхон (1799-1810 й.х.)нинг ўғли Оталиқбек 1843 йил Қораёзи бобо мазорида ўлдирилганлиги учун мазор номи ҳам тилга олинган<sup>11</sup>.

## Б. Ҳужжатлар

Буерда таништириётган 3 та ҳужжатнинг эгаси, она томонидан мазордаги шайхларнинг авлоди бўлмиш Халимаҳон Маъруфхўжаева (1948 й.т., бу қишлоқда яшовчи)дир. Улар бу ҳужжатларни ўз онасидан мерос тарзида олган экан. Онаси эса, ўзининг отасидан олган экан. Уларнинг ахборотларига қараганда бу хонадоннинг аجدолари XVI асрда Накшбандия тарикатининг йирик вакили бўлган Лутфулло Чустий (1571 й.в.)нинг авлоди бўлар экан. Шундай экан Қораёзи бобо мазоридаги шайхлар Чустий шайхлар билан алоқадор бўлган деган тахминга келишимиз мумкин бўлсада, бироқ бу ҳақда ҳозирча аниқ бир нарса айтиш қийин.

<sup>8</sup> Снесарев, Г.П., *Хорезмские легенды как источник по истории религиозных культов Средней Азии*, Москва, 1983, стр.178-180.

<sup>9</sup> Фаргона водийсида “Мўй-и муборак” деб аталувчи бир нечата мазор мавжуд. Масалан Фаргона вилояти Ўзбекистон тумани Овчи қишлоғида “Мўй-и муборак” мазор мавжуд. Марғилон шаҳри Хўжа магиз маҳалласида эса, “Ҳасти Маъоз мазори” ичида “Мўй-и муборак” мазор мавжуд.

<sup>10</sup> Бу лақабнинг келиб чиқиши номаълум.

<sup>11</sup> Mīrzā ‘Alim Mushrif, *Ansāb al-salāfin wa tawārīkh al-khawāqin*, Ўзбекистон Республикаси Фанлар Академияси Абу Райхон Беруний номидаги Шарқшунослик институти, инв.№1314, л.616; ‘Awaz Muḥammad, *Tuhfat al-tawārīkh-i khāni*, Россия Федерацияси Фанлар Академияси Шарқшунослик институти Санкт-Петербург бўлими, инв.№С440, л.2486.

**WT-QB-01: 49.5 x 31.5см.**

1275 йил Жумодилохира ойи / 1859 йил Январ-Феврал ойларида Саййид Баттол Ғозийнинг ўгли Асадулло (лақаблари “Қораёзи бобо”)нинг авлодларидан Муҳаммад Оминхон ва Дониёрхон учун битилиб, исботланган саййид-насаб бўлмиш шажара. Ҳаммаси бўлиб, 28 авлодга мансуб 42 киши ёзилган. 32 та муҳр босилган.

**WT-QB-02: 34.5 x 43.5см.**

Фатво. Асадулло (лақаблари “Қораёзи бобо”)нинг авлодларидан Асаматулло Хожа, Ҳайдарали Хожа, Ғозий Хожа, Ота Хожа, Ҳамза Хожа, Саййид Хожа, Вали Хожа, Бобо Хожа, Шарофат Бону ва Абдулло Хожаларнинг мазорга келтириладиган садақатларни олишига мумкин эканлиги ҳақида қарор.

Битилган йил ёзилмаган. Босилган муҳрларнинг ичида WT-QB-01даги билан бир хил муҳрлар мавжуд бўлсада, баъзиларда 1289, 1290, 1293 ёки 1294 йиллар (1874-1878 йиллар) ўқилади. Шундай бўлса, WT-QB-01 ёзилгандан тахминан 15 йилдан кейин, яъни Россия Империяси даврида ёзилган бўлса керак. Аммо бу фатвода ёзилган шахслар WT-QB-01да ёзилган шахслар билан тўғри келмайди. Шунинг учун WT-QB-01да ёзилган шахсларнинг қайсидир бир кишининг авлодлари бўлиш мумкин. 28 та муҳр босилган.

**WT-QB-03: 181 x 16см.**

Битилган йил ёзилмаган. Ҳар қабила бўйича фикристдир. Мозорнинг шайхлари қўлида мазорга алоқадор бошқа ҳужжатлар билан бирга сақланиб келганлигига қараганда, бу фикристни сўфи тариқатининг шайх даромад олиш учун ёзган муридларнинг рўйхати бўлса керак. О.А. Сухареванинг маълумотига кўра, ҳар йил кузда ҳосил йигини тутагандан сўнг эшонлар ўз муридлари яшайдиган қишлоқларга бориб, ҳосил ва меваларни ҳамда жониворларни олиб кетганлар. Ҳатто эшонларнинг бу иш учун тузилган махсус дафтарлари мавжуд бўлиб, эшонларнинг шу ҳаракати “ов” деб аталган<sup>12</sup>. Ушбу ҳужжат ҳам ана шу дафтарлардан бири бўлса керак.

Фикрист мазмуни кўйидагидек. Юсуф-Али? (уруғ) Тортуғли-Жалоер (жамоъа) 72 киши, Қудиш-Олчин (жамоъа) 36 киши, Фонжиголи-Олчин (жамоъа) 35 киши, Яланг-Ос (уруғ) 77 киши, Фонжиголи-Минг (жамоъа) 13 киши, Қонгли-Қаюшқонли (жамоъа) 20 киши, Жамки Дурман- Қўш Тамголи (жамоъа-и уруғ) 11 киши, Ой тув (жамоъа)-Қўш Тамголи (уруғ) 32 киши, Ой тув-Жублочи (жамоъа) 20 киши, Жублочи (жамоъа) 16 киши ва Шодмон билан урушган Болголи-Жалоер 22 киши ва Солин-марқа (жамоъа) 15 киши.

Бу фикридаги Қудиш-Олчин ва Фонжиголи-Олчиннинг рўйхатида “Эшон Кучакхон Хожа ибн Ниёзхон Хожанинг муридлари” деб ёзилган. Эшон Кучакхон Хожанинг номи WT-QB-01даги шажарада тилга олинган, аммо унинг отасининг исми Азизхон бўлганлигидан бу бошқа Эшон Кучакхон Хожа эканлиги аниқдир. Ниёзхон Хожанинг исми ҳам WT-QB-01да тилга олинган. Шажарада унинг ўгли Наврўзхон деб ёзилган бўлсада, Наврўзхондан яна бошқа Эшон Кучакхон Хожа номли ўғили бўлган бўлиш мумкин. Нима бўлганда ҳам Қораёзи бобо мазоридида фаолият кўрсатган шайхлар Эшон Кучакхон Хожанинг авлоди бўлиб, сўфилик тариқатининг пири бўлган ўша шайхларнинг мазкур қабилалар ичида кўп муридлари бўлганлиги ушбу ҳужжатларда ўз тасдиғини топган.

<sup>12</sup> Сухарева, О. А., *Ислам в Узбекистане*, Ташкент, 1960, стр.64.

قوش تامغىلىق (جامائەنى نۇرۇق) 11 كىشى، ئاي تۆۋ (جامائەت)-قوش تامغىلىق (نۇرۇق) 32 كىشى، ئاي تۆۋ جۇبلاچى (جامائەت) 20 كىشى، جۇبلاچى (جامائەت) 16 كىشى ۋە شادمان بىلەن نۇرۇشقان بالغالى جالاير 22 كىشى ۋە سالىن مەرقە (جامائەت) 15 كىشى.

تەزىملىكتىكى قۇدىش ئالچىن ۋە پانجىغالى ئالچىنلار «ئىشان كۆچەكخان خوجا ئىبن نىيازخان خوجىنىڭ مۇرىتلىرى» دەپ يېزىلغان. ئىشان كۆچەكخان خوجىنىڭ ئىسمى WT-QB-01دىكى نەسەبنامىدە تىلغا ئېلىنغان. ئەمما ئۇنىڭ دادىسىنىڭ ئىسمى ئەزىزخان بولغاچقا ئۇنىڭ باشقا ئىشان كۆچەكخان ئىكەنلىكى ئېنىق. نىيازخان خوجىنىڭ ئىسمىمۇ WT-QB-01 دە تىلغا ئېلىنغان. نەسەبنامىدە ئۇنىڭ ئوغلى نەۋرۇزخان خوجا دەپ يېزىلغان بولسىمۇ، نەۋرۇزخاندىن باشقا يەنە بىر ئىشان كۆچەكخان خوجا ئىسمىلىك ئوغلى بولغان بولۇشى مۇمكىن. ئىشقىلىپ، قارايازى بابا مازىرىدا پائالىيەت قىلغانلار ئىشان كۆچەكخان خوجىنىڭ ئەۋلادلىرى بولۇپ، بۇ ھۆججەت سۈپىتىم تەرىقىتىنىڭ پىرى بولغان شەيخلەرنىڭ مەزكۇر قەبىلىلەر ئىچىدە نۇرغۇن مۇرىتلىرىنىڭ بولغانلىقىنى ئىسپاتلايدۇ.



ۋاپات بولغان) نىڭ ئەۋلادلىرىمىش. مۇشۇ ئۇچۇرغا ئاساسلانغاندا قارايازى بابا مازىرىدىكى شەيخلەرنى شەيخ چۈستىغا ئالاقىدار بولۇشى مۇمكىن دەپ پەرەز قىلىشقا بولسىمۇ لېكىن كېسىپ ئېيتىش تەس.

#### WT-QB-01: 49.5 x 31.5cm

1275-يىلى جۇمادىيەل ئاخىر ئىبىي يەنى مىلادىيە 1859-يىلى يانۋار-فېۋرال ئايلىرىدا سەيىد بەتتال غازنىڭ ئوغلى ئەسەدۇللا (لەقىمى قارايازى بابا) نىڭ ئەۋلادلىرىدىن مۇھەممەد ئىمىنخان ۋە دانىيارخانلار ئۈچۈن پۈتۈلۈپ، خوجا ئەۋلادى ئىكەنلىكى ئېنىقلانغان نەسەبنامە. بۇنىڭغا جەمئىي 28 ئەۋلاتقا مەنسۇپ 42 كىشىنىڭ ئىسمى يېزىلغان. 32 تال مۆھۈر بېسىلغان.

#### WT-QB-02: 34.5 x 43.5cm

پەتۋا. سەيىد بەتتال غازنىڭ ئوغلى ئەسەدۇللا (لەقىمى قارايازى بابا) نىڭ ئەۋلادلىرىدىن ئەسەتۇللا خوجا، ھەيدەرئەلى خوجا، غازى خوجا، ئاتا خوجا، ھەمزە خوجا، سەيىد خوجا، ۋەلى خوجا، بابا خوجا، شاراپەت بانۇ ۋە ئابدۇللا خوجىلارنىڭ كىشىلەر مازارىغا ئېلىپ كەلگەن سەدىقىلەرنى ئېلىشقا ھوقۇقلۇق ئىكەنلىكى ھەققىدىكى پەتۋا.

يېزىلغان ۋاقتى يېزىلمىغان. بېسىلغان مۆھۈرلەرنىڭ ئىچىدە WT-QB-01 بىلەن ئوخشاش مۆھۈرلەر بولسىمۇ، بەزىلىرىدە 1289-، 1290-، 1293- ياكى 1294(1874-1878)-يىلى دېگەندەك يىلنامىلەر بار. شۇنىڭغا قارىغاندا، ھۆججەت WT-QB-01 يېزىلىپ، 15 يىل ئۆتكەندىن كېيىن يەنى روسىيە ئىمپېرىيىسى دەۋرىدە يېزىلغان بولسا كېرەك. ئەمما، بۇ پەتۋادا تىلغا ئېلىنغان شەخسلەر ھۆججەت WT-QB-01 دە يېزىلغان شەخسلەر بىلەن ئوخشىمايدۇ. شۇنىڭ ئۈچۈن ھۆججەت WT-QB-01 دە تىلغا ئېلىنغان شەخسلەر باشقا بىر كىشىنىڭ ئەۋلادلىرى بولۇشى مۇمكىن. 28 تال مۆھۈر بېسىلغان.

#### WT-QM-03: 181 x 16cm

پۈتۈلگەن ۋاقتى يېزىلمىغان. قەبىلىلەر بويىچە ئايرىلغان مۇندەرىجىدۇر. بۇ ھۆججەت مازار شەيخلىرىنىڭ قولىدا باشقا مازارلارغا ئائىت ھۆججەتلەر بىلەن بىرگە ساقلانغانلىقىغا قارىغاندا، بۇ مۇندەرىجىنى سوپىزىم تەرىقىتىنىڭ شەيخلىرى دارامەت ئېلىشنى نىشان قىلغان مۇرىتلارنىڭ تىزىملىكى بولسا كېرەك. ئا. ئە. سۇخارپۇننىڭ مەلۇماتىغا قارىغاندا، ھەر يىلى ھوسۇل يىغىش پەسلى تۈگىگەندە ئىشانلار ئۆز مۇرىتلىرى ياشايدىغان يېزىلارغا بېرىپ، ھوسۇل ۋە مېۋىلەرنى ھەمدە باشقا جانۋارلارنى ئېلىپ كېتىدىكەن. ئىشانلارنىڭ مۇشۇ ئىش ئۈچۈن تۈزۈلگەن مەخسۇس دەپتەرلىرىمۇ بولۇپ، ئىشانلارنىڭ بۇ ھەرىكىتى «ئوۋ» دەپ ئاتالغان<sup>12</sup>. بۇ ھۆججەتمۇ شۇ دەپتەرلەرنىڭ بىرى بولسا كېرەك.

مۇندەرىجە مەزمۇنى تۆۋەندىكىچە: يۈسۈپ ئالى(ئورۇق)؟ تارتۇغلى جالايىر(جامائەت) 72 كىشى، قۇددىش- ئالچىن (جامائەت) 36 كىشى، پانجىغالى- ئالچىن (جامائەت) 35 كىشى، يالاڭ- ئاس (ئورۇق) 77 كىشى، انجىغالى- مىڭ (جامائەت) 13 كىشى، قاڭلى قايشقانلى (جامائەت) 20 كىشى، جەمكى دۈرمەن

<sup>12</sup> Сухарева, О. А., *Ислам в Узбекистане*, Ташкент, 1960, стр.64.

مەشھۇر. رىۋايەتلەرگە قارىغاندا ئۇ ھىيلە بىلەن ۋىزانتىيە ئىمپېراتورىدىن كونستانتىنوپول (ھازىرقى ئىستامبۇل) نىڭ يېرىمىنى ئالغانىكەن. مەلۇماتلارغا قارىغاندا، سەيپىد بەتتال غازنىڭ قەبرىسى تۈركىيىنىڭ ئەسكىشەھەر شەھىرىگە جايلاشقان. بۇ مازارغا 20-ئەسىرنىڭ باشلىرىدىمۇ ئوتتۇرا ئاسىيادىن زىيارەتچىلەر ئۈزۈلمەي كېلىپ تۇرغان<sup>8</sup>. مانا مۇشۇنىڭدىن قارىغاندا، كىشىلەر مۇشۇ قەبرىدە ياتقان شەخسنى قارايازى بابانىڭ دادىسى دەپ ھېسابلانغان سەيپىد بەتتال غازنىڭ ئۆزى دەپ تەسەۋۋۇر قىلغان بولۇشى مۇمكىن.

ھازىرقى ئەھۋالى: مازاردا «مويى مۇبارەك» (تەۋەزرۇك چاچ) دەپ ئاتىلىدىغان مۇھەممەت پەيغەمبەرنىڭ چېچى سېلىنغان قۇتا بار<sup>9</sup>. قەبرە ناھايىتى چوڭ، ئۇزۇنلۇقى تەخمىنەن توققۇز مېتىرچە كېلىدۇ. مازار ئىچىدە ھاۋۇز بار. يەرلىك خەلقنىڭ ئېيتىشىچە، «قارايازى بابا» سۆزى «قارا تاشلىق دەشت» دېگەن مەنىدە ئىكەن. مازارغا قارايازى بابانىڭ ئەۋلادلىرى شەيخلىق قىلىپ كەلگەن.

مازارنىڭ ئەتراپىدىكى يېزىلاردا قارايازى بابانىڭ قېرىنداشلىرى بولغان بىر نەچچە كىشىنىڭ مازىرى بار. مەزكۇر ناھىيىدىكى ئاقيازى يېزىسىدا «ئاقيازى بوۋا مازىرى»، دەشت مەھەللە يېزىسىدا «سارىيازى بوۋا مازىرى» ھەمدە ئىشان بوۋا قەبرىستانلىقىدا «پەشتاق بوۋا مازىرى»<sup>10</sup> مەۋجۇت بولۇپ، رىۋايەتلەرگە قارىغاندا، بۇلارنىڭ ھەممىسى سەيپىد بەتتال غازنىڭ ئوغۇللىرى يەنى قارايازى بابانىڭ قېرىنداشلىرى ئىكەن.

مازارغا ئائىت تارىخىي مەنبەلەر: تارىخىي مەنبەلەرگە قارىغاندا، قوقان خانى ئالمىخان (1799-1810-يىللاردا ھۆكۈم سۈرگەن) ئوغلى ئاتالىقبەك 1843-يىلى مۇشۇ يەردە ئۆلتۈرۈلگەنلىكى ئۈچۈن مازار ناممۇ تىلغا ئېلىنغان<sup>11</sup>.

## ب. ھۆججەتلەر

بۇ يەردە تونۇشتۇرۇۋاتقان ئۈچ پارچە ھۆججەتنىڭ ئىگىسى، ئانا تەرەپتىن مازاردىكى شەيخلەرنىڭ ئەۋلادى بولغان ھەلىمەخان مەرۇپ خوجايېۋا (1948-يىلى تۇغۇلغان، مۇشۇ يېزىدا ياشايدۇ) دۇر. ئۇنىڭغا بۇ ھۆججەتلەر ئۆز ئانىسىدىن مىراس قالغانىكەن. ئانىسىغا بولسا دادىسىدىن قالغانىكەن. بۇ ئائىلىنىڭ ئەجداتلىرى 16-ئەسىردە نەقىشەندىيە تەرىقىتىنىڭ چوڭ شەيخى بولغان لۇتپۇللا چۈستى (1571-يىلى

<sup>8</sup> Снесарев, Г.П., *Хорезмские легенды как источник по истории религиозных культов Средней Азии*, Москва, 1983, стр.178-180.

<sup>9</sup> پەرغانە ۋادىسىدا «مويى مۇبارەك» دەپ ئاتىلىدىغان قەبرىدىن بىر نەچچىسى بار. مەسلەن پەرغانە ۋىلايىتى ئۆزبېكىستان ناھىيىسى ئۈچۈ يېزىسىدا «مويى مۇبارەك» مازىرى مەۋجۇت. مەرغلان شەھرى خوجا مەگىز مەھەللىسىدە بولسا «ھەستى مەئاز مازىرى» ئىچىدە «مويى مۇبارەك» مازىرى مەۋجۇت.

<sup>10</sup> بۇ لەقەمنىڭ كېلىپ چىقىشى ئېنىق ئەمەس.

<sup>11</sup> Mīrẓā 'Ālim Mushrif, *Ansāb al-salātin wa tawārīkh al-khawāqīn*, Institute of Oriental Studies of the Academy of Science of the Republic of Uzbekistan, Inv.No. 1314, l. 61b; Awaz Muḥammad, *Tuhfat al-tawārīkh-i khānī*, St.Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences, Inv.No. S440, l. 248b.

قىلىنغان سەدىقلىرىنى ئۇلاردىن ئېلىۋېلىشقا بولمايدىغانلىقى ھەققىدىكى پەتۋا. 7 تال مۆھۈر بېسىلغان.

#### WT-QM-03: 587 x 26cm

تۆۋەندىكى تۆت تال ھۆججەتتىن تەركىپ تاپقان يۆگەلمە ھالەتتە ساقلانغان ئۇزۇن ھۆججەت.

a. ھىجرىيە 1293-يىلى رەببىيەل ئەۋۋەل ئېيى يەنى مىلادىيە 1867-يىلى ماي، ئىيۇن ئايلىرىدا تۈزۈلگەن نەسەبنامىدىن ھىجرىيە 1312-يىلى جۇمادىيەل ئەۋۋەل ئېيى يەنى مىلادىيە 1894-يىلى ئۆكتەبىر، نويابىر ئايلىرىدا كۆچۈرۈلگەن، خوجا ئەۋلادى بولمىش قۈتەيبە ئىبن مۇسلىم ئەۋلاتلىرىدىن تۆت ئەۋلاتقا مەنسۇپ 10 كىشىنىڭ نەسەبنامىسى. تۆت تال مۆھۈر بېسىلغان.

b. پەتۋا 1: WT-QM-02-c بىلەن ئوخشاش. 9 تال مۆھۈر بېسىلغان.

c. پەتۋا 2 (نۇسخا): WT-QM-02-d بىلەن ئوخشاش.

d. پەتۋا 3: مازار ئەتراپىدا ياشغۇچى قۈتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ ئەۋلادلىرى بولغان سارىمىساق خوجا ئىشان، ئىسمائىل خوجا ئىشان، خال خوجا، خان خوجا ۋە ئىسمائىل خوجىنىڭ ئەۋلادلىرى مازارغا قىلىنغان سەدىقلىرىنى ئېلىشقا ھوقۇقلۇق ئىكەنلىكى ھەققىدىكى پەتۋا. 2 تال مۆھۈر بېسىلغان.

#### WT-QM-04: 35.6 x 21.9cm

ھىجرىيە 1283-يىلى رامزان ئېيى يەنى 1867-يىلى يانۋار-فېۋرال ئايلىرىدا مازاردىكى مۆتۈۋەللىلىرى يەنى ئىسمائىل خوجا ئىشان، خان خوجا ئىشان، يۈنۈس خوجا ئىشان ۋە سارىمىساق خوجا ئىشانلارغا قوقان خانى خۇدايارخان (1845-1858، 1862-1863، 1865-1875-يىللاردا ھۆكۈم سۈرگەن) تەرىپىدىن چۈشۈرۈلگەن باجلارنى كەچۈرۈم قىلىش ھەققىدىكى يارلىق.

## 2. قارايازى بابا مازىرىدە تېپىلغان ھۆججەتلەر

### ئا. قارايازى بابا مازىرى

ئورنى: ئۆزبېكىستان جۇمھۇرىيىتى پەرغانە ۋىلايىتى ئۆزبېكىستان ناھىيىسى بەشكەپە يېزىسىغا جايلاشقان.

كېلىپ چىقىشى: قارايازى بابانىڭ ئەسلى ئىسمى ئەسەدۇللا بولۇپ، سەيىد بەتتال غازىنىڭ ئوغلى ئىكەن. بۇ ھەقتە تارىخىي مەنبەلەردىنمۇ، ئەمەلىي تەكشۈرۈش جەريانىدىمۇ ھېچقانداق مەلۇمات ئالالمىدۇق. 1859-يىلى پۈتۈلگەن WT-QB-01 دە يېزىلغان نەسەبنامىدە قارايازى بابانىڭ 28-ئەۋلادى يېزىلغانلىقىغا قارىغاندا، بۇ مازارغا دەپنە قىلىنغان كىشى ئىسلامىيەتنىڭ ئەڭ دەسلەپكى مەزگىلىدە ياشىغان كىشى بولسا كېرەك.

تۈركىيىدىن تاكى ئوتتۇرا ئاسىياغىچە بولغان ئارىلىقتا سەيىد بەتتال غازى دېگەن بىر ئەۋلىيا

## ب. ھۆججەتلەر

تېپىلغان ھۆججەتلەرنىڭ ئىگىسى نەسرۇللاخان ھەسەنوف (1938-يىلى تۇغۇلغان، ناخۇنبايىف شەھىرىنىڭ ناھالىسى) تۇر. بۇ كىشىنىڭ ئاتا-بوۋىلىرى ئۇزۇندىن بېرى مۇشۇ مازارغا شەيخلىق قىلىپ كەلگەن بولۇپ، ھۆججەتلەر بولسا ئەۋلادمۇئەۋلاد مىراس سۈپىتىدە تاپشۇرۇلۇپ، قولىدىن قولغا ئۆتۈپ ساقلىنىپ كەلگەن ئىكەن. ئۇلارنىڭ ئۆزلىرىنىڭ مەلۇماتلىرىغا قارىغاندا ئۇلارنىڭ ئەجداتلىرى نەقىشەندىيە تەرىقىتىنىڭ شەيخى بولغان ئىكەن. مانا مۇشۇ مەلۇماتقا ئاساسەن، بۇ مازاردا ئىلگىرىكى زاماندا نەقىشەندىيە تەرىقىتىنىڭ پائالىيەتلىرى بولغان بولۇشى مۇمكىن دەپ پەرەز قىلىشقا بولىدۇ.

### WT-QM-01: 238.5 x 27.5cm

تۆۋەندىكى ئىككى پارچە ھۆججەتتىن ئىبارەت ئورالما ھالەتتە ساقلانغان ئۇزۇن ھۆججەتتۇر.

- قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ تەزكىرىسى. باش قىسمى ساقلانمىغان.
- ھىجرىيە 1271-يىلى<sup>1</sup> رەجەب ئېيى (1855-يىلى مارت-ئاپرىل ئايلىرى)دا پۈتۈلگەن خوجىلار نەسەبىنى ئەكس ئەتتۈرىدىغان شەجەرىدە شاھ قۇتەيبە ۋە ئۇنىڭ ئەۋلادلىرى بولۇپ، جەمئىي 28 ئەۋلاتقا مەنسۇپ 45 كىشىنىڭ ئىسمى يېزىلغان. نەسەبنامىنىڭ ئوڭ تەرىپىگە قوقان خانى مەللەخان (1858-1862-يىللاردا ھۆكۈم سۈرگەن) نىڭ مۆھۈرى، ئاستىغا قازىلارنىڭ 38 تال مۆھۈرى بېسىلغان.

### WT-QM-02: 750.4 x 31.5cm

تۆۋەندىكى ئالتە تال ھۆججەتتىن تەركىپ تاپقان، ئورالما ھالەتتە ساقلانغان ئۇزۇن ھۆججەت.

- قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ تەزكىرىسى. تولۇق WT-QM-01 ھۆججەت ئا بىلەن ئوخشاش.
- ھىجرىيە 1274-يىلى رەبىئەل ئەۋۋەل ئېيى يەنى مىلادىيە 1857-يىلى ئۆكتەبىر، نويابىر ئايلىرىدا پۈتۈلگەن خوجىلار نەسەبىنى ئەكس ئەتتۈرگۈچى نەسەبنامىدە شاھ قۇتەيبە ۋە ئۇنىڭ ئەۋلادلىرىدىن جەمئىي 27 ئەۋلاتقا مەنسۇپ 32 كىشىنىڭ نەسەبى يېزىلغان. 9 تال مۆھۈر بېسىلغان.
- پەتۋا 1: قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم ئەۋلادلىرىنىڭ خوجا ئەۋلادى ئىكەنلىكى ئىسپاتلانغانلىقى ئۈچۈن، ئۇلارنىڭ باج-خىراجىدىن ئازات قىلىنغانلىقى ھەققىدە چىقىرىلغان پەتۋا. 13 تال مۆھۈر بېسىلغان.
- پەتۋا 2 (نۇسخا): سەيبىدلەرنى ھۈرمەت قىلىش كېرەكلىكى ھەققىدە چىقىرىلغان پەتۋا.
- پەتۋا 3: خوجا ئەۋلادى بولمىش قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم ئەۋلادلىرىنىڭ باشقا ئادەملەردىن ئۈستۈن تۇرىدىغانلىقى ھەققىدىكى پەتۋا. 1 تال مۆھۈر بېسىلغان.
- پەتۋا 4: مازاردا ياشىغۇچى قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ ئەۋلاتلىرى خوجا ئەۋلادى بولغاچقا، مازارغا

<sup>1</sup> دەسلەپتە 1261- دەپ يېزىلىپ، كېيىن 1271-يىلىغا ئۆزگەرتىلگەن ياكى بۇ يىلنامە بۇنىڭ ئەكسچە بولۇشى مۇمكىن. بەزى قازىلارنىڭ مۆھۈرلىرىدە 1270، 1271- دېگەن يىلنامىلەر كۆرۈلگەنلىكى ھەمدە مەللەخان ھۆكۈم سۈرگەن يىللار بولغانلىقى ئۈچۈن 1271-يىلى يېزىلغانلىقىغا ئىشەنچ ھاسىل قىلدۇق.

گۈلۈنچ (كىلىچ) نىڭ قىزى سۇلتان ئاناغا ئۆيلىنىپ، ئۈچ ئوغۇللۇق بولغان ۋە ئۆز ئەسكەرلىرى تەرىپىدىن ئۆلتۈرۈلگىچە يەتتە يىل بۇ يەردە ياشىغان ئىكەن.<sup>2</sup>

ھازىرقى ئەھۋالى: قەبرىستانلىقنىڭ ئوتتۇرىسىغا قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ قەبرىسى جايلاشقان بولۇپ، ئەتراپىغا ئۈچ ئوغلى ۋە ئىككى نامەلۇم كىشى دەپنە قىلىنغان، قەبرىە يېنىدا يەنە «خاسىيەتلىك سۇ» چىقىدىغان دەرەخ بار. مازار ئەتراپىدا قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ ئەۋلادى ھېسابلانغان «خوجا»لار ياشايدۇ. مازارغا يېقىن جايدا «خوجام مازىرى»، «قىرغىز مازىرى»، «ئۆزبېك مازىرى»، «كاشىغەر مازىرى»، «قاراقالپاق مازىرى» ھەمدە «مۇندۇز مازىرى» دەپ ئاتىلىدىغان مازارلار بار. قوشنا يېزىلاردىمۇ قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمغا مۇناسىۋەتلىك بىر نەچچە مازار بار. يەنە مۇشۇ سوپى يېزىسىدا «شېھىت مازىرى»(گۈلۈنچى مازار، مازار بوۋا) بار. تولۇق ئىسمى نامەلۇم بولسىمۇ، ئەمما يەرلىك خەلقنىڭ ئېيتىشىچە، ئۇ قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ مۇھاپىزەتچىلىرىنىڭ بىرسىدۇر. بۇ جايدا ئىلگىرى بىر قەلئە بولغان. مەزكۇر ناھىيىنىڭ قۇند يېزىسىدا بولسا، قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ خوتۇنى بولغان «سۇلتان ئىنە»نىڭ مازىرى بار. رىۋايەتلەرگە قارىغاندا، سۇلتان ئانا مۇسۇلمان ئانا سۈپىتىدە قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمغا ياتلىق بولغان. قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم ئۆلتۈرۈلگەندە دۈشمەنلەرنىڭ قولغا ئەسىرگە چۈشۈپ قالماستىن ئۈچۈن غار ئىچىگە غايىپ بولغان. بۇ ناھىيىنىڭ چەشمە يېزىسىدىكى «چەشمە بوۋا مازىرى» ۋە خوجاناباد ناھىيىسى يار يېزىسىدىكى «قەمبەر ئانا مازىرى»نى بولسا يەرلىك خەلق قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ شېھىت بولغان ئەسكەرلىرىنىڭ بىرى دەپ قارايدۇ.

مازارغا ئائىت تارىخىي مەنبەلەر: 10-ئەسىردە ياشىغان تارىخچى نەرشەخى ئۆزىنىڭ «بۇخارا تارىخى» ناملىق ئەسىرىدە «قۇتەيبىنىڭ قەبرىسى پەرغانىدە مەشھۇر بولۇپ، كاخ يېزىسىدىكى راباتى سەرھەك دېگەن جايغا ئورۇنلاشقان، ئادەملەر ھەر يەرلەردىن بۇ يەرگە زىيارەتكە كېلىپ تۇرىدۇ» دېگەن مەلۇماتلار بار.<sup>3</sup> 14-ئەسىردە ياشىغان جامال قارشىنىڭ «مۇلھاقاتى سۇراھ» ناملىق كىتابىدا بولسا «قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ قەبرىسى كىلىچ يېزىسىغا جايلاشقان» دەپ يېزىلغان.<sup>4</sup> ۋ. ۋ. بارتولد ئۆز ماقالىسىدا بۇ ئىككى تارىخچى تىلغا ئالغان جاي ناملىرىنى سېلىشتۇرۇپ، نەرشەخى يازغان «كاخ» سۆزىنىڭ «كىلىچ» سۆزىنىڭ خاتا يېزىلىپ قېلىشىدىن ئىبارەت ئىكەنلىكىنى پەرەز قىلىدۇ.<sup>5</sup> ئېتىنوگراف ئا. ك. پىسارچىك 1946-يىلى قۇتەيبە ئىبن مۇسلىمنىڭ مازىرى ھەققىدە ئىلمىي تەتقىقات ئىشلىرىنى ئېلىپ بارغان.<sup>6</sup>

<sup>2</sup> بۇ ئۈچۈن بەرگۈچى ئابدۇلھەمىد مەخسۇم ھاجى سىراجىددىنوف (1922-يىلى تۇغۇلغان، مۇشۇ يېزىدا ياشايدۇ).

<sup>3</sup> *Description topographique et historique de Boukhara par Mohammed Nerchakhy suivie de textes relatifs à la* p.57; *Transoxanie*, texte persan publié par Charles Schefer, Reprint of the Edition Paris 1892, Frankfurt am Main, 1993, راباتى سەرھەك نامى «بابۇرنامە» كىتابىدىمۇ تىلغا ئېلىنغان. Zahir al-Din Muhammad Babur, *Babur-Nama (Vaqayi)*, ed. by Eijzi.

Mano, Kyoto, 1995, p.108, 110.

<sup>4</sup> Абу-л-Фадл ибн Мухаммад Джамал ад-Дин Карши, Мулхакат ас-сурах, (пере. с персидского Р.Ш. Шарафутдиновой) *Материалы по истории Средней и Центральной Азии X-XIX вв.*, Ташкент, 1988, стр.122.

<sup>5</sup> Barthold, W.-[Spuler, B.], *Farghāna*, *EtZ*.

<sup>6</sup> Писарчик, А. К., Некоторые данные по исторической топографии городов Ферганы, *Сборник статей посвященных искусству таджикского народа*, Сталинабад, 1956, стр.171-174.



## پەرغانە ۋادىسىدا تېپىلغان ھۆججەتلەر

كاۋاخارا يايۇئى

بۇ كىتابتا پەرغانە ۋادىسىدا تېپىلىپ، رەسىمگە ئېلىنغان يەتتە پارچە ھۆججەتنى تونۇشتۇرىمىز. يەتتە پارچە ھۆججەتنىڭ تۆتى قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم مازىرىغا، قالغان ئۈچى قارايازى بابا مازىرىغا ئائىت ھۆججەتلەردۇر. بۇ ھۆججەتلەر «نارا يىپەك يولى تەتقىقات مەركىزى» قوللىغان «ئوتتۇرا ئاسىيادىكى ئىسلام دىنىغا ئائىت مۇقەددەس جايلار تەتقىقاتى - پەرغانە ۋادىسىنى مەركەز قىلغان ھالدا» نامىدىكى ئىلمىي تەتقىقات پىلانىغا ئاساسەن 2004-يىلى يازدا ئېلىپ بېرىلغان پەرغانە ۋادىسىدىكى ئەمەلىي تەكشۈرۈشكە تېپىلغان، ھەمدە تويوتا فوندى ياردەم بەرگەن «شىنجاڭ ۋە پەرغانىدىكى مازار ھۆججەتلىرىنى يىغىش ۋە تەتقىق قىلىش» ناملىق تەتقىقات پىلانىغا ئاساسەن 2006-يىلى ئېلىپ بېرىلغان ئەمەلىي تەكشۈرۈش جەريانىدا يىغىلغان.

### 1. قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم مازىرىدا تېپىلغان ھۆججەتلەر<sup>1</sup>

ئا. قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم مازىرى

ئورنى: ئۆزبېكىستان جۇمھۇرىيىتى ئەنجان ۋىلايىتىنىڭ جەلە قۇدۇق ناھىيىسى سوپى يېزىسى كىلىچ (كونا نامى: گۈرۈنچ) قەبرىستانلىقىغا جايلاشقان.

كېلىپ چىقىشى: يەرلىك خەلقنىڭ ئېيتىشىغا قارىغاندا، بۇ يەرگە 8-ئەسىرنىڭ باشلىرىدا ئوتتۇرا ئاسىيادىكى بېسۋالغان ئەرەب لەشكەرلىرىنىڭ قوماندانى قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم ۋە ئۇنىڭ ئۈچ ئوغلى دەپنە قىلىنغان ئىكەن. قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم بۇ جايدا كاپىرلار (رىۋايەت قىلغۇچىنىڭ ئېيتىشىچە "ختاي"لار) نىڭ پادىشاھى

<sup>1</sup> قۇتەيبە ئىبن مۇسلىم مازىرى ھەققىدە ئىلگىرى ئاپتور تەرىپىدىن لېكسىيە ئوقۇلغان ۋە ماقالە تەييارلانغان Kawahara Y., Tazkira of Qutayba ibn Muslim and his Mazar in the Ferghana Valley, International Conference "Mazars" in Ferghana and Xinjiang, November 26-27 2005, Conference room, 4th floor Ogura building, Suidobashi, Tokyo; Kawahara Y., The Mazar of Qutayba ibn Muslim: A Study of the Oral Tradition and Historical Documents, Sawada Minoru (ed.), *Islamic Sacred Places in Central Asia: The Ferghana Valley and Kashghar Region* (Silk Roadology 28, Bulletin of the Research Center for Silk Roadology), Nara: Research Center for Silk Roadology, The Nara International Foundation, 2007, pp. 49-65 (in Japanese, forthcoming).



EA04 يەر سېتىش ھۆججىتى (ھىجرى 1343 - يىل رامازان ئاينىڭ 12 - كۈنى / 6/4/1925) 36cm x 30 cm.

تۆلەك شاكر ئۆزىنىڭ ئىنچىكە ئېرىققا جايلاشقان ئىككى چارەكلىك يېرىنى نىياز شاھ شېيخقا 50 سەر پۇلغا ساتقانلىقى ھەققىدىكى خەت. ئىككى مۆھۈر. نىياز شاھ شېيخ بولسا ھۆججەت ئىگىسى يۈسۈپجان شەيخنىڭ بوۋىسى بولدى.

## 2. قومۇلدىكى مازارلار تونۇشتۇرۇلغان ئەسەر

(17 ۋاراق: QM01) 16.5cm x 11cm

«قومۇل شەھرى ئىچىدەكى ۋە تايىنەلەردەكى بارلىق بۇزۇقۇر خوجاملارنىڭ ئىسىم شەرىپلەرى بۇ تۇرۇر» دېگەن جۈملىدىن باشلانغان 17 ۋاراقلىق ماتېرىيال. باشتىكى سەككىز ۋاراققا 35 ئورۇندىن ئىبارەت بولغان قومۇل ۋىلايىتىدىكى مازارلارنىڭ ئىسمى، مازارنىڭ ئورنى، ۋە بەزى مازارلارنىڭ ئازغىنە ھېكايىسى تونۇشتۇرۇلغان. قالغان ۋاراقلاردا مازار زىيارىتىنىڭ زورۇرلۇقى ۋە ئۇسۇلى، ئوقۇلىدىغان ئايەتلەر، ئوتتۇرا ئاسىيادا ئۆتكەن ئاپپاق خوجىغىچە بولغان مەشھۇر سوپىلارغا ئوقۇلغان ھەمدۇ-سانالار يېزىلغان.

ئەسەرنىڭ يېزىلغان ۋاقتى ھەققىدە، 4-بەتتە قەيس خوجام قەبرىسىنىڭ شىڭشىڭشادىن قومۇل شەھىرىگە كۆچۈرۈپ كېلىنگەنلىكى توغرىسىدا مەلۇمات بار، شۇڭا بۇ ماتېرىيالنىڭ 1940-يىلدىن كېيىن يېزىلغانلىقىدا گۇمان يوق. دېمەك، بۇ ماتېرىيالنى كونا دېڭىلى بولمىسىمۇ، لېكىن قومۇلدىكى مازارلارغا ئائىت بۇنىڭدىن تەپسىلىيەرەك باشقا ئەسەر تېپىلمىغاچقا، بۇ ماتېرىيالنى قومۇلدىكى مازارلار تەتقىقاتى ئۈچۈن بىر قەدەر مۇھىم قىممەتكە ئىگە دەپ قاراشقا بولىدۇ.

<sup>5</sup> بۇ ئەسەردە تونۇشتۇرۇلغان مازارلارنىڭ كۆپ قىسمى تويوتا فوندىنىڭ ياردىمى بىلەن ئۆتكۈزۈلگەن نەق مەيدان تەكشۈرۈشىدە ھەققەنەن مەۋجۇتلۇقى مۇقىملاشتۇرۇلغاچقا، مۇشۇ ئەسەردىكى مەلۇماتلارنىڭ توغرىلىق دەرىجىسىنى يۇقىرى دەپ قاراشقا بولىدۇ.

<sup>6</sup> 1945-يىل 7-ئاينىڭ 4-كۈنىدىكى قەيس خوجام مازىرىنىڭ كۆچۈرۈپ كېلىنىشى توغرىسىدا، قومۇل ۋىلايەتلىك تەزكىرە كومىتېتى تۈزگەن: «قومۇل ۋىلايىتى تەزكىرىسى»، ئۈرۈمچى: شىنجاڭ ئۈنۈەر سىتېتى نەشرىياتى، 1997-يىل خەنزۇچە نەشرى، 1306-بەتكە قارال.

ئەۋلىيا» دېگەن ئەسىرىدەمۇ بۇ بىرلا ئايال سوپى شەخس سۈپىتىدە تونۇشتۇرۇلغان<sup>3</sup>. بۇ داڭلىق سوپى مىلادى 801-يىلى بەسەردە ۋاپات بولغان، قەبرىسىمۇ شۇ جايدا بولغاچقا، قومۇلدىكى مازارنى بۇ كىشىنىڭ قەبرىسى دەپ قاراش تەس. مۇشۇنداق پۈتۈنلەي مۇناسىۋەتسىز قەبرىگە مەشھۇر سوپىلارنىڭ ئىسمىنى قويۇش ئەھۋالى شىنجاڭ ۋە بەرغانەدە كۆپ كۆرۈلىدۇ. ئەزىزىم ئاغىچام مازىرىمۇ ئەسلىدە باشقا ئايال كىشىنىڭ مازىرى بولۇپ، كېيىنكى ئۇزۇن تارىخىي جەرياندا ئۆزگىرىپ يۇقىرىقى مەشھۇر ئايال سوپىنىڭ نامى بىلەن ئاتىلىپ قالغان بولسا كېرەك.

بۇ كىتابتا تونۇشتۇرماقچى بولغان تۆت پارچە ھۆججەت مۇشۇ مازارغا مۇناسىۋەتلىك ئىككى پارچە يەر خېتى بىلەن مازار شەيخىنىڭ ئىككى پارچە نەسەبنامىسىدىن ئىبارەت. مۇشۇ خەتلەرنىڭ ئىگىسى 2002-يىلى مەزكۇر مازارنىڭ شەيخى بولغان يۈسۈپجان قاسىمشاھ(2003-يىلى ۋاپات بولغان) بولۇپ، ھۆججەتتە بۇ كىشىنىڭ دادىسى بوۋىسىنىڭ ئىسمى بىلەن ئۇچرايدۇ. بۇنىڭدىن بۇ ھۆججەتلەرنى مەزكۇر مازار شەيخىنىڭ ئائىلىسىگە مۇناسىۋەتلىك ماتېرىيال دېيىشكە بولىدۇ. يەر خەتلىرى بولسا 20-ئەسىرنىڭ باشلىرىدىكى مەزكۇر مازار ئەتراپىدىكى جەمئىيەتنىڭ مەلۇم ئىقتىسادىي ئەھۋالىنى بىلىش ھەمدە قومۇلدىكى ھۆججەتلەرنىڭ ئۇسلۇبىنى چۈشىنىشتىمۇ مۇھىم تەتقىقات قىممىتىگە ئىگە. نەسەبنامىلەرنى مەزكۇر مازار ۋە مازار شەيخلىرىنىڭ قومۇلنىڭ يەرلىك جەمئىيىتىدە خېلى ئۇزۇنغىچە بىر قەدەر مۇھىم دىنىي رول ئوينىغانلىقىنى ئەكس ئەتتۈرۈپ بەرگەن مۇھىم ماتېرىيال دەپ قاراشقا بولىدۇ.

**EA01 نەسەبنامە (تۈزۈلگەن ۋاقتى نامەلۇم)، 44 x 47 cm.**

قۇل ئەلى شاھ شەيختىن باشلانغان سەككىز ئەۋلاد شەيخىنىڭ (بالا - چاقىسى بولۇپ جەمئىي 60 نەپەر كىشى) نەسەبنامىسى. ھۆججەت ئىگىسى يۈسۈپجان شەيخىنىڭ دادىسى قاسىم شاھ، بوۋىسى نىياز شاھ شەيخلىرىنىڭ ئىسمى بۇ نەسەبنامىدە 8، 7- ئەۋلاد شەيخ سۈپىتىدە يېزىلىدۇ.

**EA02 نەسەبنامە (تۈزۈلگەن ۋاقتى نامەلۇم)، 11 x 23 cm.**

قۇل ئېلى شاھ شەيخ ۋە ئۇنىڭ بالىلىرى بولۇپ جەمئىي سەككىز شەيخىنىڭ نەسەبنامىسى. ئادەم ئىسىملىرى EA03 تىكىگە ئوخشىمايدۇ.

**EA03 يەر سېتىش ھۆججىتى (ھىجرى 1318-يىلى ھەمدۈنە يىلى دۇئا ئاينىڭ 7-كۈنى / 31/10/1900)،**

31 x 21.5 cm

قارنى چوڭ ئىلياسنىڭ ئۆزىنىڭ ئىنچىكە ئېرىق ياقىسىدىكى تۆت چارەكلىك يېرىنى شەمسىيە تەرەپكە بەخشەندە قىلغانلىقى ھەققىدىكى خەت. ئۈچ مۆھۈر.

<sup>3</sup> قەبرىدىن مۇھەممەد ئەتتار «تەزكىرە تۇل ئەۋلىيا» (فۇجىنى مورىنو، ياپونچە تەرجىمىسى) توپى: كوكۇشى كانكو-كانى، 1998-يىلى. 49 - 84-بەت. قومۇلدا ئەزىزىم ئاغىچام مازىرىنىڭ تەزكىرىسى دەپ ئاتىلىدىغان بىر قول يازما ساقلىنىۋاتىدۇ. بىز ئەمىلى تەكشۈرۈشى جەريانىدا قوليازىنى كۆرۈش پۇرسىتىگە ئېرىشتۇق. بىراق ئۇنىڭ مەزمۇنى «تەزكىرە تۇل ئەۋلىيا» نىڭ مەزمۇنىغا ناھايىتى ئوخشايدۇ.

<sup>4</sup> Smith, Margaret, *Rābi'a Basri: The Mystic and Her Fellow-Saints in Islam*. New Delhi: Kitab Bhavan, 2005, p.45.

## شىنجاڭدا تېپىلغان ھۆججەتلەر

### سۇگاۋارا جۇن

بۇ كىتاپتا تونۇشتۇرماقچى بولغان شىنجاڭدىن تېپىلغان ھۆججەتلەر توۋەندىكى ئىككى خىلدىن ئىبارەت.  
1. قومۇل شەھەر ئىچىدىكى ئەزىزىم ئاغىچام مازىرىغا مۇناسىۋەتلىك ھۆججەتلەر (تۆت پارچە: EA01-04)  
2. قومۇلدىكى مازارلار تونۇشتۇرۇلغان بىر دانە ماتىرىيال (19 ۋاراق: QM01). تىرناق ئىچىدىكى نومۇر تەتقىقات جەريانىدا تۈزگۈچى تەرىپىدىن قويۇلغان.

بۇ ھۆججەت ۋە قول يازما ماتىرىيال، ھازىرغىچە تەخى تەتقىق قىلىنشى ئاز بولغان قومۇل مازارلىرى ھەققىدە، ئەتراپلىق ئۇچۇر بىلەن تەمىنلەيدىغان يېڭى ماتىرىياللار بولۇپ ھىساپلىنىدۇ. بۇ ئىككى خىل ماتىرىيال 2003-يىلى سۇگاۋارا جۇن مەسئۇل بولۇپ ئىشلىگەن توكيو چەتئەل تىلى ئۈنۈپۇرستېتى ئاسىيا-ئافرىقا تىل- مەدەنىيىتى تەتقىقات ئىنستىتۇتىنىڭ GICAS پىلانى جەريانىدا بايقىلىپ، ماتىرىيال ئىگىسىنىڭ رۇخسىتى بىلەن سۈرەتكە تارتىلغان، كېيىن تويوتا فوندىنىڭ ئىقتىسادىي ياردىمى بىلەن قايتا نەق مەيدان تەكشۈرۈشى ئۆتكۈزۈلگەن ماتىرىياللاردۇر. بۇلار ھازىرغىچە ئانچە تەتقىق قىلىنمىغان، قومۇلدىكى مازارلار توغرىسىدا كۆپرەك مەلۇمات بېرىدىغان يېڭى ماتىرىيال ھېسابلىنىدۇ.

### 1. قومۇل شەھىرىدىكى ئەزىزىم ئاغىچام مازىرىغا مۇناسىۋەتلىك ھۆججەتلەر

(تۆت پارچە: EA01-04)

ئەزىزىم ئاغىچام مازىرى قومۇل كونا (مۇسۇلمان) شەھىرىنىڭ سىرتىدىكى شەھەر ئەتراپى يېزىسىغا قاراشلىق ئەزىزىم مەھەللىسىگە جايلاشقان مازار بولۇپ، بۇ يەرگە ئەرەبىستانلىق «بىبى رابىيەئى ئەدەۋىيە ۋە لىيۇللا» دېگەن ئايال كىشى دەپنە قىلىنغان، بۇ مازارغا ھەر يىلى قۇربان ھېيتىنىڭ ھارپا ئاخشىمى ئاياللىرى كېلىپ زىيارەت قىلىدىغان ئەنئەنىۋى ئادەت بار<sup>1</sup>.

رابىيەئى ئەدەۋىيە (؟-801) تارىختىكى ئايال سويلار ئىچىدە «ئەڭ مەشھۇر» سويلارنىڭ بىرى ھېسابلىنىدۇ<sup>2</sup>، ئورتا ئاسىيادا تارقالغان داڭلىق ئەسەر فەرىدىدىن مۇھەممەد ئەتتارنىڭ «تەزكىرەتۇل

<sup>1</sup> نايىشەم نەخمەت: «قومۇل»، ئۈرۈمچى: شىنجاڭ خەلق نەشرىياتى، 1993، 244-245-بەتلەر

<sup>2</sup> Trimingham, J.S., *The Sufi Orders in Islam*. New York & Oxford: Oxford University Press, 1998, p.18.





ئابلز ئورخۇن(شىنجاڭ ئۇيغۇر ئاپتونوم رايونلۇق تەزكىرە كومىتېتى)؛ ئارسلان ئابدۇللا(شىنجاڭ ئۇنىۋېرسىتېتى فىلولوگىيە ئىنىستىتۇتى)؛ راھىلە داۋۇت(شىنجاڭ ئۇنىۋېرسىتېتى فىلولوگىيە ئىنىستىتۇتى)؛ ئەسەت سۇلايمان (شىنجاڭ ئۇنىۋېرسىتېتى فىلولوگىيە ئىنىستىتۇتى) ۋە يەرلىكتىن ھەمكارلاشقۇچى ئەلشىر تاشقۇلوف(پەرغانە ۋىلايەتلىك مەدەنىيەت گېزىتى)؛ ئىسمائىلخان مەھمۇدوف(ئۆزبېكىستان ئۈچكۆۋرۈك ناھىيە كاتتا كېنەگەس مەسچىتى)؛ زۆھرە تالىپ(قومۇل ۋىلايەتلىك قەدىمكى ئەسەرلەر، تىل-يېزىق ئىشخانىسى)لاردىن تەركىپ تاپقان. بۇ پىلان «شىنجاڭ ۋە پەرغانىدىكى مازار ھۆججەتلىرىنى تەكشۈرۈش، يىغىش ۋە تەتقىق قىلىش» دېگەن تەتقىقات نامى بىلەن تويوتا فوندىنىڭ 2005-يىللىق ئالاھىدە تەتقىقات تېمىسى بولغان «ئاسىيانىڭ چېگرا رايونلىرىدىكى ئەنئەنىۋى ھۆججەتلەرنى ساقلاش، يىغىش، تەتقىق قىلىش» پىلانىغا ئېلىنغان. كىتابنى نەشىر قىلىشتىن ئىلگىرى ئۆتكۈزۈلگەن خەلقئارا ئىلمىي مۇھاكىمە يىغىنى- «پەرغانە ۋە شىنجاڭدىكى مازارلار» 2005 -يىلى 11- ئايدا توكيو سۇندوباشدا ئۆتكۈزۈلگەن) بۇ تەتقىقات گۇرۇپپىسى ئۆتكۈزگەن تۇنجى ئىلمىي پائالىيەت بولۇپ، بۇ پائالىيەت تويوتا فوندىنىڭ بىر قىسىم ئىقتىسادىي ياردىمى بىلەن ئۆتكۈزۈلگەن.

## 5. بۇ كىتابتا تونۇشتۇرۇلغان ھۆججەتلەر توغرىسىدا

مەزكۇر كىتاب مازار ھۆججەتلىرى تەتقىقات پىلانىنىڭ ئاساسى بولغان ھۆججەت يىغىشنىڭ تۇنجى مېۋىسىدۇر. كەلگۈسى پىلانمىزدا ئەمەلىي تەكشۈرۈش ئارقىلىق، يوقىلىش ئالدىدا تۇرغان مازار ھۆججەتلىرىنى يىغىش، فاكسىمىل ھالىتىدە نەشىر قىلىش، مەزكۇر ھۆججەتلەرنى تېخىمۇ زور ھاياتىي كۈچكە ئىگە قىلىشنى باش ۋەزىپە دەپ قاراپ، قۇربىمىزنىڭ يېتىشىچە تېخىمۇ كۆپ ھۆججەتلەرنى نەشىر قىلدۇرماقچى. بۇ كىتابتا تونۇشتۇرۇلغان مازار ھۆججەتلىرىنىڭ تەپسىلىي مەزمۇنلىرى تۆۋەندىكى مەخسۇس تېمىلاردا تونۇشتۇرۇلىدۇ. بۇلارنىڭ ھەممىسى تۈزگۈچىلەر تەرىپىدىن ئەمەلىي تەكشۈرۈش جەريانىدا يىغىۋېلىنغان.

ھازىرقى ھالىتى ۋە ئۇنىڭغا ئائىت ئۇچۇرلار توغرىلىق ئومۇمىي تەتقىقات». باشلىقى: ياجما خىكونچى بىلەن بىرلىكتە.<sup>2</sup>

(2) 1998-يىلى. شىنجاڭنىڭ قەشقەر ۋىلايىتىدە ئېلىپ بېرىلغان مازار تەكشۈرۈشى. ساۋادا منورۇ، خورى سۇناۋو (شەخسىي تەتقىقات خىراجىتى بىلەن).<sup>3</sup>

(3) 2000-يىلى. شىنجاڭنىڭ خوتەن ۋىلايىتىدە ئېلىپ بېرىلغان مازار تەكشۈرۈشى. ساۋادا منورۇ، سۇگاۋارا جۇن: (ياپونىيە ھۆكۈمىتى مائارىپ مىنىستىرلىكىنىڭ ئىلمىي تەتقىقات خىراجىتى بىلەن): «ئوتتۇرا ئاسىيادىكى مەدەنىيەت ئورتاقلىقى ۋە ئىسلام تارىخى توغرىسىدا تەتقىقات». باشلىقى: شىنمەن ياسۇشى.

(4) 2005-يىلى. شىنجاڭنىڭ قومۇل ۋىلايىتىدە ئېلىپ بېرىلغان مازار تەكشۈرۈشى. سۇگاۋارا جۇن. (توكيو چەتئەل تىلى ئۇنىۋېرسىتېتى ئاسىيا-ئافرىقا تىل ۋە مەدەنىيەت تەتقىقات ئىنستىتۇتى GICAS قۇرۇلۇشى): «ئىچكى ئاسىياغا ئائىت ئۇچۇر مەنبەلىرىنى بەرپا قىلىش». باشلىقى: ناكامى تاتسۇئو.<sup>4</sup>

(5) 2005-يىلى. ئۆزبېكىستاننىڭ پەرغانە ئوبلاستى ۋە شىنجاڭنىڭ قەشقەر ۋىلايىتىدە ئېلىپ بېرىلغان مازار تەكشۈرۈشى. ساۋادا منورۇ، شىنمەن ياسۇشى، سۇگاۋارا جۇن، كاۋاخارا يايۇنى، ئاشىرىبەك مۇمىنوف، نادىرەك ئابدۇئەھمەتوۋ(نارا يىپەك يولى تەتقىقات مەركىزى «ئوتتۇرا ئاسىيادىكى ئىسلام دىنىغا ئائىت مۇقەددەس جايلار تەتقىقاتى - پەرغانە ۋادىسىنى مەركەز قىلغان ھالدا») لار بىلەن.<sup>5</sup>

بولۇپمۇ، ئەڭ ئاخىرىدا كۆرسىتىلگەن نارا يىپەك يولى تەتقىقات مەركىزىنىڭ ئىقتىسادىي ياردىمى بىلەن ئەمەلگە ئاشۇرۇلغان تەتقىقات پائالىيىتىنى قاتناشقان ئەزالارنىڭ كۆپلۈكى ۋە تەكشۈرۈش ئوبيېكتى نۇقتىسىدىن ئېلىپ ئېيتقاندىمۇ مازار ھۆججەتلىرى تەتقىقاتىدا ئەھمىيەتلىك نەتىجىلەر قولغا كەلتۈرۈلگەن بىر ھەقىقىي مازار ھۆججەتلىرى تەتقىقاتى دەپ قاراشقا بولىدۇ.

يۇقىرىقىدەك تۈرلۈك تەتقىقات پائالىيەتلىرى ئۈچۈن تەشكىللەنگەن بۇ گۇرۇپپىدا، بۇ كىتابنىڭ تۈزگۈچىلىرىدىن بىرى ھەمدە مەزكۇر تەتقىقات پىلاننىڭ باشلىقى بولغان سۇگاۋارا جۇن (توكيو چەت ئەل تىللىرى ئۇنىۋېرسىتېتى ئاسىيا-ئافرىقا تىل- مەدەنىيىتى ئىنستىتۇتى)؛ يەنە بىر تۈزگۈچىسى كاۋاخارا يايۇنى (ياپونىيە ئىلمىي تەرەققىيات جەمئىيىتى)؛ ساۋادا منورۇ (توياما ئۇنىۋېرسىتېتى)، شىنمەن ياسۇشى(چيۇئو ئۇنىۋېرسىتېتى)، سۇگاۋارا مۇتسۇمى (توكيوچەت ئەل تىللىرى ئۇنىۋېرسىتېتى)؛ ئاشۇربەك مۇمىنوف(قازاقىستان شەرقشۇناسلىق ئىنستىتۇتى)؛ نادىرەك ئابدۇ ئەھمەتوف(پەرغانە ۋىلايەتلىك مۇزېي)؛

<sup>2</sup> شىنمەن ياسۇشى، سانادا ياسۇشى، ۋاكا جىئىشىن (تۈز): «شىنجاڭ ئۇيغۇرلىرىنىڭ بازار ۋە مازارلىرى» ئىسلام مەدەنىيىتى مەجمۇئەسى 70-، توكيو: چەتئەل تىللىرى ئۇنىۋېرسىتېتى ئاسىيا-ئافرىقا تىل-مەدەنىيىتى تەتقىقات ئىنستىتۇتى، 2002(ياپونچە) -غا قاراڭ.

<sup>3</sup> ساۋادا منورۇ: «ئوردام پادىشاھنىڭ مۇقەددەس دائىرىسى توغرىسىدا» - ئىچكى ئاسىيا تەتقىقاتى 14-سان، 91-109 بەتلەر (ياپونچە)؛ ساۋادا منورۇ: «تارىم ۋادىسى ئەتراپىدىكى ئىسلامغا ئائىت تارىخىي يادىكارلىقلارنى تەكشۈرۈش دوكلاتى» - تېبۇكايا ماگاۋىن ئۇنىۋېرسىتېتى ئىنسانىيەت مەدەنىيىتى فاكۇلتېتىنىڭ يىللىق ئىلمىي ژۇرنىلى، قوشۇمچە سان، 49-70-بەتلەر(ياپونچە) گە قاراڭ.

<sup>4</sup> ساۋادا منورۇ: «تەكلىماكاننىڭ جەنۇبىي چېتىدىكى مۇقەددەس قەبرىگاھلار» - تېبۇكايا ماگاۋىن ئۇنىۋېرسىتېتى ئىنسانىيەت مەدەنىيىتى فاكۇلتېتىنىڭ يىللىق ئىلمىي ژۇرنىلى، 2-سان، 160-182-بەتلەر(ياپونچە) گە قاراڭ. سۇگاۋارا جۇن: «شەھىدەن خوتەن» - توكيو چەتئەل تىللىرى فاكۇلتېتى ئاسىيا-ئافرىقا تىل-مەدەنىيىتى تەتقىقات ئىنستىتۇتى خەۋەرلىرى 101-سان، 10-17-بەتلەر(ياپونچە) گە قاراڭ.

<sup>5</sup> ساۋادا منورۇ(تۈز): «ئوتتۇرا ئاسىيادىكى ئىسلام دىنىغا ئائىت مۇقەددەس جايلار تەتقىقاتى-پەرغانە ۋادىسى ۋە قەشقەر ۋىلايىتى» - يىپەك يولى شۇناسلىق تەتقىقاتى توپلىمى-28، نارا: نارا يىپەك يولى كۆرگەزمىسى خاتىرىلەش خەلقئارا ئالماشتۇرۇش فوندى، يىپەك يولى شۇناسلىق تەتقىقات مەركىزى، 2007، ياپونچە، نەشىردىن چىقىش ئالدىدا.

### 3. مازار ھۆججەتلىرىدىكى يېتەرسىز بېلبۇگىرافىيىلىك ئۇچۇر ۋە ئازغىنە توپلانما

قوليازما ياكى ئاددىي توختامنامە قاتارلىق يازما ماتېرىياللار ئىلگىرى سوۋېت ئىتتىپاقى بىلەن جۇڭگونىڭ ئىلمىي ئورگانلىرى تەرىپىدىن سىستېمىلىق يىغىۋېلىنىش نەتىجىسىدە ھەرقايسى ئارخىپخانلاردا مەلۇم مىقداردا ساقلانماقتا. لېكىن، مازار ھۆججەتلىرىغا مۇناسىۋەتلىك ئۇچۇرلار ۋە جامائەت ئورۇنلىرىدا ساقلانمىغان ھۆججەتلەر بەك ئاز. مازار ھۆججەتلىرىنىڭ ساقلانمىغان ئاست ئۇچۇر ھەمدە مازار ھۆججەتلىرىنىڭ مەزمۇنىغا مۇناسىۋەتلىك مەلۇمات خاراكتېرلىك ماتېرىياللار تېخىمۇ ئاز. بۇنىڭ سەۋەبىگە كەلسەك، خەلققە جىددىي كېرەكلىك بولمىغان ماتېرىياللارنىڭ ئىلمىي ئورۇنلار تەرىپىدىن يىغىۋېلىنىپ، خەلق ئورتاق قەدىرلەپ ساقلاپ كېلىۋاتقان مازار ھۆججەتلىرىنىڭ بۇ يىغىۋېلىش پىلانىنىڭ سىرتىدا قالغانلىقىدىن بولسا كېرەك.

دېمەك، ھازىر جەمئىيەتتە ساقلانمىغان مازار ھۆججەتلىرى جامائەت ئورۇنلىرىدىمۇ كۆرگىلى بولمايدىغان قىممەتلىك ماتېرىياللاردۇر. بۇ خىل خەتەرلىك ئەھۋال ئاستىدا، مازار ھۆججەتلىرىغا ئاست خەۋەرلەرنى خاتىرىلەپ تەتقىقاتقا پايدىلىنىش مۇھىتىنى يارىتىشنىڭ ئۆزى ئەڭ ناخىرقى پۇرسەت بولۇپ قالغۇسىدۇر.

### 4. مازار ھۆججەتلىرىنى يىغىش

بۇ كىتابنىڭ تۈزگۈچىلىرى باشچىلىقىدىكى يۇقىرىقىدەك ئورتاق چۈشەنچىگە ئىگە بولغان تەتقىقاتچىلار مازار ھۆججەتلىرىغا بىۋاسىتە ئالاقىدار يەرلىك خەلق بىلەن ھەمكارلىشىپ، مازار ھۆججەتلىرى بار ئورۇننى تەكشۈرۈپ تەتقىق قىلىش ئىشى بولغان مازار ھۆججەتلىرى تەتقىقات پىلانىنى قولغا ئالدى. بۇ پىلان پەرغانە ۋە شىنجاڭدىن ئىبارەت ئىككى رايوندا مازار ھۆججەتلىرىنى ساقلاش شارائىتىنى يارىتىپ، شۇ رايونلاردىكى مازارلار مەركەز قىلىنغان ئۆرپ-ئادەتلەرنى ساقلاپ داۋاملاشتۇرۇشقا ھەسسە قوشۇشنى مەقسەت قىلىدۇ. يەنە ھەر ئىككى رايوندىكى مازار ھۆججەتلىرىنى تەتقىق قىلىپ، مازارلار مەركەز قىلىنغان يەرلىك تارىخىنى قايتا بەرپا قىلىش ھەمدە ئىككى رايونغا ئورتاق مەدەنىيەت قاتلىمىنى ئېچىشقا ئۇرۇنۇپ كۆرۈشتىن ئىبارەت.

بۇ تەتقىقات پىلانىنىڭ بارلىققا كېلىشى، بىر نەچچە گۇرۇپپا ۋە شەخسلەرنىڭ ھازىرغىچە مازار ۋە «مازار ھۆججەتلىرى» تەتقىقاتى توغرىسىدا ئېلىپ بارغان تەتقىقات ۋە تەكشۈرۈشلىرى، ئۇلارنىڭ بۇ ھەقتە قولغا كەلتۈرگەن تەتقىقات نەتىجىلىرى ئاساسىدا داۋاملاشقان دېگەن نۇقتىنى بۇ جايدا ئېيتىپ ئوتۇشكە توغرا كېلىدۇ. تەتقىقات گۇرۇپپىلىرىنىڭ پائالىيەتلىرىنىڭ ئاساسلىق مەزمۇنى تۆۋەندىكىچە:

(1) 1996-يىلى. شىنجاڭنىڭ قەشقەر، تۇرپان ۋىلايەتلىرىدە ئېلىپ بېرىلغان مازار تەكشۈرۈشى. شىنمەن ياشۇشى، سانادا ياشۇشى، ۋاڭ جىيەنشىن (ياپونىيە ھۆكۈمىتى مائارىپ مىنىستىرلىكىنىڭ ئىلمىي تەتقىقات خىراجىتى): «ئىسلام دۇنياسىنىڭ باشقا مەدەنىيەتلەر بىلەن ئۇچرىشىش مېخانىزمى-ئىنسانىيەتنىڭ

مازارلارغا چوقۇنۇش ئادەتلىرى ھېلىمەم مەۋجۇت. ھەر ئىككى رايوندىكى مازار ھۆججەتلىرى يۇقىرىدا ئېيتقاندا كىشىلەر تەرىپىدىن قەدىرلىنىپ كەلگەچكە بۈگۈنگىچە ساقلىنىپ كەلگەن. بىراق، بۇ مازار ھۆججەتلىرىنىڭ كەلگۈسى ئىستىقبالىدىن سۆز ئېچىش تەس. 20-ئەسىردە يۈز بەرگەن ئىككى چوڭ ئۆزگىرىش يەنى سوۋېت ئىتتىپاقىنىڭ پارچىلىنىشى بىلەن ئوتتۇرا ئاسىيادا مۇستەقىل مىللىي دۆلەتلەرنىڭ بارلىققا كېلىشى؛ جۇڭگودىكى «مەدەنىيەت زور ئىنقىلابى» نىڭ ئاخىرلىشىشى بىلەن بارلىققا كەلگەن ئىسلاھات ۋە ئىشكىنى سىرتقا ئېچىۋېتىش ھەرىكىتىدىن كېيىن، ھەر ئىككى رايوندىكى ئەنئەنىۋى مەدەنىيەت قايتا جانلىنىشقا ۋە ئىككى رايون ئوتتۇرىسىدىكى مەدەنىيەت ئالاقىسى ئەسلىگە كېلىشكە يۈزلەنمەكتە. بىراق، يەنە بىر تەرەپتىن قارىغاندا، يۇقىرىقى ئەھۋاللارنىڭ دەرىجىسى ئوخشاش بولمىسىمۇ، دىندىن يىراقلىشىش ئەھۋالى ناھايىتى تېز بولماقتا. بۇ خىل ئەھۋال ئەنئەنىۋى دوکۇمېنتلارغا خەتەرلىك ئاقىۋەت ئېلىپ كەلمەكتە.

پەرغانە رايونىدا، سوۋېت ئىتتىپاقى پارچىلىنىپ بەش مۇستەقىل دۆلەت بارلىققا كەلگەن ھازىرقى شارائىتتا، پۈتكۈل مەملىكەت بويىچە ئەنئەنىۋى مەدەنىيەت ۋە تارىخىنى قايتا تونۇشنىڭ مۇھىملىقى تەكىتلىنىۋاتقان بولسىمۇ، لېكىن تارىخىي ماتېرىياللارغا كۆڭۈل بۆلۈش تازا ياخشى ئەمەس. مۇشۇنىڭغا ئوخشاش، يېقىنقى زاماندىكى ئىسلام دىنىي ئېتىقادى قايتا جانلىنىپ، مازارلارغا قىزىقىش كۈنسېرى ئاۋاتلىشىۋاتقان بولسىمۇ، لېكىن خەلقنىڭ مازار ھۆججەتلىرىغا تۇتقان پوزىتسىيىسىدە ئېغىر ئېگىز-پەسلىك بار بولۇپ، ياشلارنىڭ مازار ھۆججەتلىرىغا بولغان چۈشەنچىسى ناھايىتى تۆۋەن.

شىنجاڭدا بولسا، جۇڭگونىڭ يېقىنقى مەزگىللەردىكى دۆلەت پىلانى بولغان «غەربىي رايوننى كەڭ كۆلەمدە ئېچىش» پىلانىنىڭ تەسىرى بىلەن نوپۇسنىڭ سۈنئىي كۆپىيىشى ھەددىدىن زىيادە تېزلىشىپ، ئىجتىمائىي مەدەنىيەتتە تۈپلۈك ئۆزگىرىش دولقۇنى پەيدا بولۇپ، ئەنئەنىۋى ئۇيغۇر مەدەنىيىتى يىمىرىلىۋاتىدۇ، دېسەكمۇ ئارتۇق كەتمەيدۇ. مۇشۇنداق ئەھۋالدا بۇ رايوندا كۆپ ئۇچرايدىغان دىنىي قۇرۇلۇشلارنىڭ كۈندىن كۈنگە ۋەيران بولۇشقا قاراپ يۈزلىنىۋاتقانلىقىنى كۆرۈۋېلىشقا بولىدۇ. مەسىلەن: يېقىنقى يىللاردىكى ئەھۋالنى، جۈملىدىن ئىشكىنى سىرتقا ئېچىۋېتىش، ساياھەتچىلىكنى تەرەققىي قىلدۇرۇش مەقسىتىدە مازارلارنى ساياھەت ئورنى قىلىپ بېكىتىش ئەھۋالىنى بۇنىڭغا مىسال قىلىش كۆرسىتىشكە بولىدۇ. مازار قۇرۇلۇشى، خەلقنىڭ مازار تاۋاب قىلىش پائالىيەتلىرى ھازىرقى ساياھەتچىلەرنىڭ زىيارەت ئوبېكتى بولۇپ قالماقتا. شۇنىڭ بىلەن يەرلىك جەمئىيەتنىڭ مازارلارنى ئەنئەنىۋى باشقۇرۇش ئۇسۇلى ھۆكۈمەت تەرەپنىڭ باشقۇرۇش ئۇسۇلىغا قاراپ ئۆزگەرمەكتە. مۇشۇنداق دىندىن ياتلىشىش يۈزلىنىشى پۈتكۈل شىنجاڭغا ئومۇملاشماقتا.

دېمەك، پەرغانە ۋە شىنجاڭدىن ئىبارەت ئىككى رايوندا ئەنئەنىۋى مەدەنىيەتكە بىرسى مۇستەقىل دۆلەت مەيدانىدا تۇرۇپ مۇئامىلە قىلىۋاتقان، شىنجاڭدا كۈچلۈك جۇڭگو مەدەنىيىتىنىڭ سىڭىپ كىرىشى ۋە ئاقما نوپۇسنىڭ ھەدەپ ئېقىپ كىرىشى بىلەن ئەنئەنىۋى مەدەنىيەت يىمىرىلىۋاتقان قارمۇ قارشى ۋەزىيەتتىمۇ مازار ھۆججەتلىرى يەنىلا يوقىلىش خەتىرىگە دۇچ كەلمەكتە. مۇشۇ نۇقتىدىن قارىغاندا ھەر ئىككى رايوندا مازار ھۆججەتلىرىنىڭ تەقدىرى ئوخشاش. مۇنداق ۋەزىيەتتە مازار ھۆججەتلىرىنى يىغىپ ساقلاش— ئىككى رايوننىڭ ئەنئەنىۋى مەدەنىيىتىنى ساقلاش، ئەنئەنىۋى يەرلىك جەمئىيەت ئەھۋالىنى چۈشىنىشتە جىددىي قىلمىسا بولمايدىغان تەخىرىسىز ۋەزىپىدۇر.



بۇ خەتلەر پەرغانىدىكى ۋەلى ئەۋلادلىرىغا شۇ چاغدىكى ھاكىمىيەت تەرىپىدىن بېرىلگەن باجدىن كەچۈرۈم قىلىنغانلىق قاتارلىق ئالاھىدە ئىمتىياز خەتلىرىنى ئۆز ئىچىگە ئالىدۇ. يۇقىرىدىكى 3- تۈر ۋە مۇشۇ 4- تۈردىن مازارلارنىڭ جەمئىيەتتىكى سىياسىي ئورنىنى بىلگىلى بولىدۇ.

## 5. ۋەخپە نامەلەر

ۋەخپە نامەلەر مازار ۋە مازارغا قاراشلىق مەسجىت، مەدرىسىلەرگە قىلىنغان ۋەخپەلەرگە ئائىت گۇۋاھلىق خەتلىرىنى ئۆز ئىچىگە ئالىدۇ. بۇلار يەرلىك خەلق بىلەن مازار ئوتتۇرىسىدىكى ئىقتىسادىي مۇناسىۋەتلەر ۋە باشقا كونكرېت مۇناسىۋەتلەرنى چۈشىنىشتىكى مۇھىم ماتېرىيال ھېسابلىنىدۇ.

## 6. ئەرز، دەۋا - دەستۇر ھۆججەتلىرى

بۇلار شەيخ تەيىنلەش ماجراسىغا ئائىت ئەرز، پەتىۋا- ھۆكۈملەرنى ئۆز ئىچىگە ئالغان ھۆججەتلەر بولۇپ، مازارنىڭ جەمئىيەتكە كەلتۈرىدىغان پايدا-زىيىنىنى تەپسىلىي بىلىشتىكى مۇھىم ماتېرىيال.

## 7. مۇقەددەس جايلارنى زىيارەت قىلىش كىتابى

مازارلارنى زىيارەت قىلغۇچىلار ئۈچۈن تەييارلانغان ئەسەر. مازارنىڭ ئىسمى، دەپنە قىلىنغان كىشىنىڭ ئىسمى، ئورنى قاتارلىق ئاساسىي مەلۇماتلارغا يەنە مازارلارغا مۇناسىۋەتلىك تارىخ، ئەپسانىلەر، شۇ مازارنى زىيارەت قىلىشنىڭ ئەھمىيىتى، زىيارەت قىلىشتىكى پەرھىزلەر قوشۇمچە قىلىنغان ماتېرىياللار.

يۇقىرىقىلاردىن باشقا مازار ئەتراپىدىكى مازارلارغا زىچ مۇناسىۋەتلىك بولغان توختام خەتلىرى، يەر سېتىش، سېتىۋېلىش، ئىجارە خېتى، ئۆتۈنۈپ بېرىش خېتى، مىراس، ۋەكىللىك خېتى قاتارلىقلارنىمۇ كەڭ مەنىدىن ئېيتقاندا مازار ھۆججەتلىرى دەپ ھېسابلاشقا بولىدۇ. بۇ ھۆججەتلەر مازارلارنىڭ شۇ جەمئىيەتتىكى ماددىي ۋە مەنەۋىي فۇنكسىيىسىنى يۇقىرى كۆتۈرۈشتە مۇھىم رول ئوينايدىغان جانلىق ماتېرىيال ھېسابلىنىدۇ. بۇ خىل ھۆججەتلەر ھازىرقى رېئال ئەھمىيىتىدىن سىرت، ئىلمىي جەھەتتىن ئېيتقاندا يەنە مازارلارنىڭ كېلىپ چىقىش تارىخى، جەمئىيەتتە ئويناپ كەلگەن رولى قاتارلىق ئۇچۇرلارنى ئۆز ئىچىگە ئالىدۇ.

## 2. خەتەرلىك ئەھۋال ئاستىدىكى مازار ھۆججەتلىرى

ئالاي تاغلىرىنىڭ ئىككى يېقىغا جايلاشقان شىنجاڭ ۋە پەرغانە رايونىدا مازارلار كۆپ بولۇپ، خەلقنىڭ

مازار ھۆججەتلىرى مازارلارنى ساقلاپ كەلگەن شەيخلەرنىڭ ھەققىيلىكى(مازارلاردا ياتقان ۋەلىلەرنىڭ بىۋاسىتە تۇغقانلىرى ياكى مۇرىتلىرى)نى ئىسپاتلايدىغان ھۆججەتلەر؛ مازار قۇرۇلۇشى، كۆلىمى ھەققىدە مەلۇمات بېرىلگەن ھۆججەتلەر؛ مازار ۋە قېسىمىگە مۇناسىۋەتلىك ياكى مازارنىڭ كېلىپ چىقىش تارىخىغا مۇناسىۋەتلىك مەلۇماتلارنى ئۆز ئىچىگە ئالىدۇ. بۇ ھۆججەتلەرنىڭ بىر قىسمى 17-18- ئەسىرلەردە يېزىلغان. قالغانلىرىنىڭ كۆپىنچىسى 19-20-ئەسىرلەردە يېزىلغان.

ھۆججەتلەر يېزىلغان دەۋرلىرىگە قاراپ، پارىسى ۋە تۈركىي تىللاردا يېزىلغان بولسىمۇ لېكىن بەزىدە ئەرەبچە جۈملىلەر ئارىلاش كەلگەن ھۆججەتلەرمۇ ئۇچرايدۇ. كېيىنكى دەۋرلەردە رۇسچە ۋە خەنزۇچە قوشۇلۇپ يېزىلغان ھۆججەتلەرمۇ ئۇچرايدۇ.

مازار ھۆججەتلىرىنىڭ مەزمۇنىدىن قارىغاندا، ھۆججەتلەرنىڭ تۈرلىرى تۆۋەندىكىچە:

### 1. نەسەبنامە، شەجەرە ياكى جورۇمخاي

ھۆججەتلەر ئارىسىدا مۇھەممەت پەيغەمبەر بىلەن ھۆججەتنىڭ ئىگىسى ئوتتۇرىسىدىكى قانداشلىق مۇناسىۋەتنى بىلدۈرىدىغان نەسەبنامىلەر بار. گەرچە مازارلاردا ياتقان بىر قىسىم ۋەلىلەر ئىسلامىيەتتىن ئىلگىرىكى كىشىلەر بولسىمۇ، ئەمما ئۇلارنىڭ نەسەبى مۇھەممەت پەيغەمبەرگە باغلاپ قويۇلغان. نەسەبنامىلەر شەكىل جەھەتتە دەرەخ شەكىلدە شاخلىتىپ ۋە يىلتىز تارتقۇزۇپ بايان قىلىش ئۇسۇلى ۋە ئاددىي بايان قىلىش ئۇسۇلىدىن ئىبارەت ئىككى خىل شەكىلگە ئىگە. نەسەبنامىلەر ئاساسەن تۈرمىلەك شەكىلدە يۆگەلگەن بولۇپ، بەزىلىرىنىڭ ئۇزۇنلۇقى 10مېتىردىن ئاشىدۇ.

### 2. تەزكىرىلەر

دەپنە قىلىنغان ۋەلىلەر ۋە ئۇلارنىڭ ئاتا- بوۋىلىرىغا ئائىت ئەپسانە -رېۋايەتلەرنى ئۆز ئىچىگە ئالىدۇ. تەزكىرىلەردە مازاردا ياتقان ئاساسلىق شەخسنىڭ كارامەتلىرى، دىنىي پائالىيەتلىرى ئەتراپلىق تونۇشتۇرۇلىدۇ، تەزكىرىلەرنىڭ يەنە مازارنى ساقلىغۇچى شەخسلەر ۋە ئۇلارنىڭ ئەۋلادلىرىنىڭ جەمئىيەتتىكى دىنىي ئىمتىيازىنى يۇقىرى كۆتۈرۈش رولى بار.

### 3. شەيخلىككە تەيىنلەنگەنلىك خېتى

پەرغانىدە شەيخلەرنىڭ كۆپىنچىسى شۇ دەۋردىكى ھاكىمىيەت تەرىپىدىن بەلگىلەنگەن .

### 4. ئالاھىدە ئىمتىياز بېرىلگەنلىك خەتلىرى

## مازار ھۆججەتلىرى تەتقىقاتىغا كىرىش

سۇگاۋارا جۇن

### 1. مازار ھۆججەتلىرى

مازار (ئىسلامنىڭ مۇقەددەس جايلىرى) ئىسلام ۋەلىلىرىنىڭ ئېتىقادى نىشان قىلىنغان ئىسلامىي ئېتىقاد ۋە كېسەل داۋالاش، بالا تىلەش قاتارلىق رېئال مەنپەئەتنى ئاساس قىلغان ئاممىۋى ئېتىقاد بىر گەۋدە قىلىنغان قۇرۇلما بولۇپ، ئۇزاق تارىخىي جەرياندا مەنىۋى ئوزۇقلۇق رولىنى ئويناپ كەلگەن. شۇنىڭ بىلەن بىر ۋاقىتتا مازارلار، تاۋاپ ۋە تىلاۋەت مەقسىتىدە كەلگەن ئۆزىنىڭ تار تۇرمۇش دائىرىسىدىن ھالقىغان كەڭ جامائەتنىڭ ئۇچرىشىش ئورنى بولۇش سۈپىتى بىلەنمۇ، جەمئىيەتتە مۇھىم ئورۇنلۇق ۋەزىپىسىنى ئۆتەپ كەلگەن<sup>1</sup>.

بۇ كىتابتا تۈزگۈچىلەر تەرىپىدىن ئىشلىتىلگەن «مازار ھۆججەتلىرى» دېگەن بۇ ئاتالغۇ كىشىلەر ئەۋلادتىن ئەۋلادقا ساقلاپ كەلگەن، مازارنىڭ كېلىپ چىقىش تارىخى، مازارلارنىڭ قوغدىلىش ئەھۋالى، باشقۇرۇلۇشى، دىنىي مۇراسىملارنىڭ ئۆتكۈزۈلۈشى قاتارلىقلارغا مۇناسىۋەتلىك ھۆججەتلەرنى كۆرسىتىدىغان ئاتالغۇدۇر. مازارلار جەمئىيەتتە ئالاھىدە رول ئويناپ كەلگەنلىكى ئۈچۈن بۇ ھۆججەتلەر شۇ مازارلارغا بىۋاسىتە مۇناسىۋەتلىك كىشىلەرنىڭ قولىدا تاھازىرغىچە ساقلىنىپ كەلگەن. ھۆججەتلەرنىڭ سانى، ساقلىنىش ئەھۋالى، مەزمۇنلىرىمۇ ھەرقايسى جايلاردا ئوخشىمايدۇ. بولۇپمۇ بۇ كىتابتا تونۇشتۇرماقچى بولغان پەرغانە ۋە شىجاڭدىن تېپىلغان ھۆججەتلەر ئوتتۇرىسىدىكى پەرق بەك چوڭ.

<sup>1</sup> مازارنىڭ جەمئىيەتتىكى فۇنكسىيىسى ۋە تارىختا ئويناپ كەلگەن رولى توغرىسىدا: شىنمەن ياسۇشى، سانادا ياسۇشى، ۋاڭ جىيەنشىن (تۈز) «شىنجاڭ ئۇيغۇرلىرىنىڭ بازار ۋە مازارلىرى» (ئىسلام مەدەنىيىتى مەجمۇئەسى 70)، توكيو: توكيو چەتئەل تىللىرى ئۈنۈمىيىتى ئاسىيا-ئافرىقا تىل-مەدەنىيىتى تەتقىقات ئىنستىتۇتى، 2002، ياپونچە؛ راھىلە داۋۇت «ئۇيغۇر مازارلىرى»، ئۈرۈمچى: شىنجاڭ خەلق نەشرىياتى، 2002-يىلى نەشرىگە قاراڭ.



حیت خلعت جنت اور از ننگ رقل قمر حیت آق محمد بابی

دولت آدینه جوڑہ سرتق لیبہر قحیت

جماعہ پالمن روم

عوز خدیو شاد او علی بابا نو نافرما بقان بوقان خدیو با ایش نظرہ عرا خدیو قبا نیمبر  
اد علی قمر شاد اولیا کجا انا لفق نازیا آئی یقیا

عشورابی قلہ محمد بای حاجی مراد تاش شینخ الیز باہر

حیت خلت جنت اور از شکر قلہ قرہ حیت اق محمد بای

عشورابی ملا جو مان خال نظر بای البشر نظر بای تنای بای

سنگی بای اقدیار شتک ہم سے شادمان دین اور شکا ہمال

بال غالی جلا پیر ایتم بای البشر بردر شیخ اہل قباقی بای ہمال

عشورابی قلہ محمد بای حاجی مراد تاش شینخ الیز باہر

حیت خلت جنت اور از شکر قلہ قرہ حیت اق محمد بای



موتھین بیک آن بای جگہ کے خلیا بای حافظ شریو تہ بای حسن بای

حسین بای رحمن قلی بای جماعہ جوہ لاجی خالد آرا بای اوغلی دہم فظ

اوغلی قدم حافظ افتد بار بای بای میرزا سنگم اوغلی حسین بای س

شادمان جوہ لاجی اوغلی تور دی قلی قربان بای حافظ امیر نظر بای افتد نظر

مشور بای ملا جو مان خال نظر بای امیر نظر بای تٹائی بای

سینگی بای افتد یار مشتک ہم سے شادمان دین اور شکا ہمال

بال عالی جلا میرا شیم بای امیر بدر شیخ ریل قلی بای ہاں بای

مشور نامی واد مج نامی، حاجت داد ہاں شہزادہ

بیگ نظر ایس کیلدا بای محمد آلی عبد القادری سرحد بای ضو جہ نظر

کو صبر بای محمد نظر ضدای بای الیز با سہر مہادور اہر نظر جماعہ خان

جنالی مینک نور با تور دوتہ بای عشور بای الش محمد ضدای بزرگن

جو جہ بای ای بابش بای عویز بیدر ضدای بیدی ننگر بیدی خانی

بنلو ملو ال نور و رقل سوزنی جماعہ قانگی قیدوش قانلی دانیا رفظ

بیل محمد بای اسن محمد تغای محمد بالنتہ بای لادینہ محمد فریال بای ای محمد

نور ت ارتق محمد علی محمد دیار خوش حال بای خال مراد روزر بای

بیدی یار جافظ افتد بیدر بای خال محمد حال محمد وفابای ادینہ ش

جمالی اور و غر محمد دور مدد قوشہ تمغالی ضدای نظر رفظ فر محمد رفظ

سافولات مابى ولى پېك سرلى بابى الشىء محمد حافظ اوده مالى هر

اورازعالى خال بابى قادر بردى جيت بابى اوراز بابى خدا بردى

جيين تفاسى عرب بابى شکر بر دبابى بار محمد خال محمد نور محمد اوراز بابى

عوبير بيل الشىء قل بابى محمود بابى نولى بابى کوجر بابى اسلام قل بابى

نور ذر بابى نور محمد قربان بابى خال قل بابى نیاز قل بابى نذير قل بابى

نانک محمد تاش محمد بيگ محمد نیاز قل ارال بابى على بابى نور دبابى

ايو بابى ايش کيل بيرغاق بلنجى بابى قرصو بابى اوده بابى خداى قل بابى

ايش محمد قربان بابى نظر بابى بازار قل اتاليق خداى قل اتاليق بوزه خود

جيين بهادور ارال بابى نیاز قل بابى جوبه لاجى صابنت اندر بابى ايرين

بيگ نظر ايش کيل دبابى محمد امى عبدالقده بابى سرجه بابى خوجه نظر

قرمان فولات انینگ اوغلی خوجم قل نیاز قل بیگ ایش پولات یاول  
اوغلی عبداللہ بابی قوتلوق بابی بو یاغی تنگری بردی جو لاق بازار  
آدینه بابی حیت قل بابی انینگ بابی ایش محمد انینگ اوغلی

خدای بردی بابی انینگ اوغلی الجین بابی قرمان بابی آدینه خلفه انینگ  
اوغلی مینگی بابی انینگ نورد در بابی یادگار بابی اوغلی خال بابی انینگ اوغلی

نور بابی حاج بابی برات سجادور دوس محمد بابی بابی پولات بابی  
تیمور قراق انینگ اوغلی برات ایش محمد خال بابی شنگلی خوجم برات برد

مرات ایش مراد آوروغلی بلنگ ایش ایتر بابی دوس بابی

نوروز بابی خدای بردی بابی عبداللہ بردی نظر بابی ایتر قل بابی

امان بابی اوتہ کن صاتیب الدی صدیر بابی نذیر بابی نفس بابی





صوفی نامی از ۲۴ اوروغی سجاد تاروغلی جلا میر خدای پردی با

توسون بای صوفی ایریس بای حسن بای اوغلی منکلی قل بای تھان

پرات اشکی قریش بای عوین صوفی بار محمد بای قربان بای جغت خط

ایر نظر بای عشور قل خواصی فر اول بیکی اجت قر اول بیکی جیل

نانک لیر بای آن بای ایش بر در بای بار محمد بای خدای قل بای خدای

تاکر پردی بای ایش محمد بای دوسوم بای اوراز بای اوراز بای

عوین بای حسن بای رجب بای ایر نظر بای ایریس قل خال نظر

خوجه کیلری ایریس محمد قربان بای خدای قل بازار بای بورت بای

بالته بای پاشتن بای خال قل بای ایش نامی بای عشور بای سار

نبار قل بای خال محمد بالته بای اوزارک اقد نظر خال نظر خال بای

ایش مراد پر محمد خدای برد بای عوین بای عیت محمد دولت محمد اس

ایش محمد عشور قل علی بدل ستمن بنیت منکلی اوراق بای

قل محمد انا لبق نبار حکاری اورون بای محمدی عشور قوت با













# و سلم المهدی انما و کتبه منی این تفسیر مولانا حسین و اعظم

و در آیتی آنکه حضرت رسول اکرم صلی الله علیه و سلم فرمودند که هر کوی بیایم با علم

میخواند اجابت نمودم بدینیکه من در میان شما دو امر عظیم است که در

یکی از دیکوی بزرگ قرآن و اول سخن بعد از نماز آن دو هر کوی بگوید

در عایت حق آن دو امر است که در عایت حق آن دو امر است که در عایت حق آن دو امر است

شده در لاجز کنزین رسیده

روحه الاحباب الیه صلی الله علیه و سلم  
و در آیتی آنکه حضرت رسول اکرم صلی الله علیه و سلم فرمودند که هر کوی بیایم با علم  
میخواند اجابت نمودم بدینیکه من در میان شما دو امر عظیم است که در  
یکی از دیکوی بزرگ قرآن و اول سخن بعد از نماز آن دو هر کوی بگوید  
در عایت حق آن دو امر است که در عایت حق آن دو امر است که در عایت حق آن دو امر است

بسم الله الرحمن الرحیم  
الحمد لله رب العالمین  
والصلاة والسلام على من لا نبي بعده  
والله اعلم بالصواب

استند به حقیقه ثابت الیه او لا حضرت عاکرم الله وجهه بوده مع هذا از جمله شیخ الشافعی بحضرت امام شافعی  
طیبه من از فایض الانوار نوره العظیم رضوان الله تعالی علیه و علاقه داران قدوم الایام الالهیه انکسار اباعن  
بطنا بعد طین از بسط طین ماضویه و حکم جلیه فیما عالی در ادبی ایشان بوده و در تدریس او و تدریس او عطفه علیه نام زده شده  
از ابتدا احوال تا اینک هم از خود او عطفه علیه نام زده شده  
اولی الایام الالهیه موجود است و در اینک هم از خود او عطفه علیه نام زده شده  
اولی الایام الالهیه موجود است و در اینک هم از خود او عطفه علیه نام زده شده  
اولی الایام الالهیه موجود است و در اینک هم از خود او عطفه علیه نام زده شده





بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

فَاكْفُرْ بِالْبَدَنِ بِاسْمِ اللَّهِ عَلَيْهِ صَلَواتُهُ

شرف ابداوات

وفي الدعوات لا يجوز ذوالايمان من الاشباس عليهم السلام وادعوا اليه

رضوان الله تعالى عليهم جميعين واولاد رسول الله عليه السلام واذادعوا وجهه واذادعوا

والتان رورديته واما لهم بشهادة وشاره على رسول الله عليه السلام واذادعوا فقولوا

النبى عليه السلام صدق وهو يكون كما قاله اما حق باير لهما والمؤمنين لا يقولوا

انه من آل الله دون آل الله واما لجمه فقول من مات مؤمنا فهو مجتهد ومن مات كافرا

فمؤمنا

فمؤمنا

و شرف النبوه آورده كه حضرت رسول صلى الله عليه وسلم فاطمه اذان با زمانم كودم كه وى

و دوست داشتگان از دوزخ جدا گشته اند لان نعم افضل الغايه معنى المطوية  
شرف ابداوات

بسم الله الرحمن الرحيم

الحديث الى فرشتان والهداية والنافع والهادى بابان ان الله حرم صدقة كل

واك محمد فانما هى اوساح العايس و عومهم منها بين النعمه شرف ابداوات

اللهم ربنا انى فى الاكساف اللهم صل على محمد وعلى آله واجله

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

18

19

من حبس الناس وعوضهم منها

20

بسم الله الرحمن الرحيم

في شرح الامام محمد بن الرضا رحمه الله عليه السلام على قوله تعالى عن الفقه والعقوبة  
 الاول انك لا تعرفه وقال فيهم انهم اهل الاطراف واهل الافكار ونحو ذلك هو الفقه والعقوبة  
 لا يزالون يتكلمون بهن وارجو ان يكون لان كسوف العلوي كسوف من بيننا مسلم الله عليه وسلم وروى في التفسير  
 ول بعد الامامة استراحت له اهل فضل وكسوف من بيننا مسلم الله عليه وسلم وروى في التفسير  
 وعلو كبره اهل بود غير ما وكسوف من فضل كبره كسوف من بيننا مسلم الله عليه وسلم  
 در اهل جن در جن و جايد و جايد و جيم علوي در جيم قبائل من بيننا مسلم الله عليه وسلم

در جيم

عليه السلام فضل و باب علمها و جايها و ايات با ايات فضائل اهل بيت آل محمد و در باب  
 و در اهل بيت رسول خدا و اهل بيت آل محمد و در باب علمها و جايها و ايات با ايات فضائل اهل بيت آل محمد  
 مذکور است بلکه محل ظهور اين در ايات از خود کمال رسوله عليه السلام و اولاد

نسخه

سراج

شرف اهل بيت محمد و آل محمد

بسم الله الرحمن الرحيم

الحمد لله الاول في اركان الدين الحسين بن علي بن ابي طالب و اولادهم من نساء  
 ان نبينا ان الله سبحانه و تبارك و تعالي و اولادهم من نساء الحسين بن علي بن ابي طالب و اولادهم من نساء الحسين بن علي بن ابي طالب

فان كل من اهل بيت محمد و آل محمد

بادو اگر این منزه تر کنی جواب ندند و این عاقبت است و قول است و لا یبارک و لا یزداد و در حدیث

انما یکم الاهی گویند و نه انکه این آیه که یکم یعنی دارد است که این بقطر

سرفیک لشکر پیدا یعنی گرفتن خدای تعالی سخت با بال سرفیک حال کن یا قال <sup>فی</sup>

حال کن ترا که فرود آید در باغمان این ایشانست پیش ما شرم سازند و بی یا چنانچه درون

ماز میگوید در پیرو ما از تعظیم یا چنانچه بیرون آید که میسختی درون ما نیز کن عیاد با الله  
شرف ابدان

بانت در شوم بنظم ربونی مانتون و صامت رضی الله عنهما حال مد ببار و عالمی و بی

مریم و قال مد عالمی و فصلنا هم علی غیر من خلق تعسیر المصنعی فصلنا هم با جهنم لم یؤلفین

و لیسین یا بی عالمی مد عندهم که اگر عندهم قول عالمی و من ذریه و او و بی و او و بی و او و بی و او و بی

و هارون و کذا انت غیر الحسین و ذکر با نومی و علی لایه بی که معوم و علی ان زینت من قبل

الام ۱۴۱ انه جعل من ذریه نوح علیه السلام و هو لایه بالام و نه و اجنت و جرح من انکر ان

اولاد العالمه اولاد رسول مد علی علیه السلام قول رسول الله صل عام کتوف شرف ابدان <sup>که عزت</sup>

فرشع الامم غیر الدین الرئی مجزاه علی ان کس کلیم علی ربه و اب عن الغفوا و غیر هم که لک و غیر هم

عزیز

۱۴

بانی

۱۵

عزیز

و از او به بل بنی الحلاله لادن با وجود <sup>خس</sup> شرف ایشات <sup>شرف ایشات</sup>

الجدیت الاول فرمشارق و الملاح و شرف هجوة و الادرو و مانج الابیر و غیره که فی تاریخ کرم

و متفقین کن با مد و عمره و فان سکیم چنهما لن ینبوا لعلی شرف ایشات

الجدیت الکتب فرکتان الامین مات علی بنی آل محمد مات کافر لولا ان مات علی بنی آل

جایوم القیامه کتب بن یونس من بکر الله الا ان مات علی بنی آل محمد لم یتم احد کلمته <sup>شرف ایشات</sup>

باب سیم ذریات اولاد رسول صلی الله علیه و سلم قال الله تعالی محمد و آل محمد و اولادهم

القربی الایه ای ذوالقربی یعنی مقدر که ده شده اند بر همه مردم و یکدیگر که مقتدا می دینند

فی مکنت و یقده من علی سائر الناس لانهم اسوه ای مقده <sup>و المذنب</sup>

و یقده من علی سائر الناس ترجیحاً القربیه الی سائر الناس فیهم قرابتی و فزندی مصطبر <sup>کرم</sup>

بسم الله الرحمن الرحیم

و علم و تعوی در صحت استیا حاتم است احمد لعل اما امام ابو القاسم <sup>رحمته الله</sup> لکنه غیر فرمایه علی بن ابی طالب

از ان کفایت که در عاز کونید ای بار خدا یا بر اولاد محمد درود کوی هر چه عاز استکبار

کن بر کن و نمودر بجا و دولت و مال و مملکت شوند و اگر بر کن بودند برینند لعنت بر کنان

الابن الاموات على جبال محمد ماتت يا ابنا الاموات على جبال محمد ماتت سمية الاموات

ال محمد بن زلف الى الجنة كما تنزل الغرس التين وجبال الاموات على جبال محمد ماتت سمية الاموات

الاموات على جبال محمد جعل الله تقابره عزرا لا تكثر الرضعة شرف ابدا العسما

قال بهال الله سي انه يسلم طوبى لمن مات في جبال بيت اولي القعدة شرف ابدا

العمال والاب اذا رافذوا وجبوا على ابدا والحقوا المستعيبين فعلى الامم على امرهم بالاعظم

صلى الله عليه وسلم والعم وغيره من جنسي بالتموير للبعج والوصح عيط العمان

وزعموا السران فضيلة لا بابفاخرة الابناء كروستور الحاقق وقال السرح المتقدمة والبدرة

واما صل خلفا الال على ترتيب محله فنه فبعد هم اولاد رسولنا صلى الله عليه وسلم على كاهن الامم

باتفاق اولاد ابا القاسم من رسول الله عليه وسلم وشرف اولاد خلفا فقه جلفوا وقال بعضهم لعقولون

شرف ابدا العسما قال النبي صلى الله عليه وسلم انما ابدا العسما قالوا ابوهم جميعا

قال النبي عليه السلام كل مولود له على ابيه حرام لكن ابواه يهودانه ونصرانه او مجسانه فانه اهل ابيهم

قال النبي عليه السلام وجبوا له ان لا يترككم منكم فاجوبى جليلت ووجوب ابدا بيتي محي شرف ابدا العسما

وفي اعلام الله بخلق البشر ان من كان من قبلي حب رسول الله صلى الله عليه وسلم لا يذم من قبل الله

وعلى من ان الحسن والحسين اولاد علي بن ابي طالب رضي الله عنهما واولاد علي بن ابي طالب واولاد علي بن ابي طالب

قال النبي عليه السلام انما اولاد علي بن ابي طالب اولاد علي بن ابي طالب واولاد علي بن ابي طالب

انجوم ابدا العسما قال النبي عليه السلام انما اولاد علي بن ابي طالب اولاد علي بن ابي طالب

شرف ابدا

9

اذا اخذوا وظلموا

10

11

وجبوا له ان لا يترككم منكم

ولاية

انجوم ابدا العسما











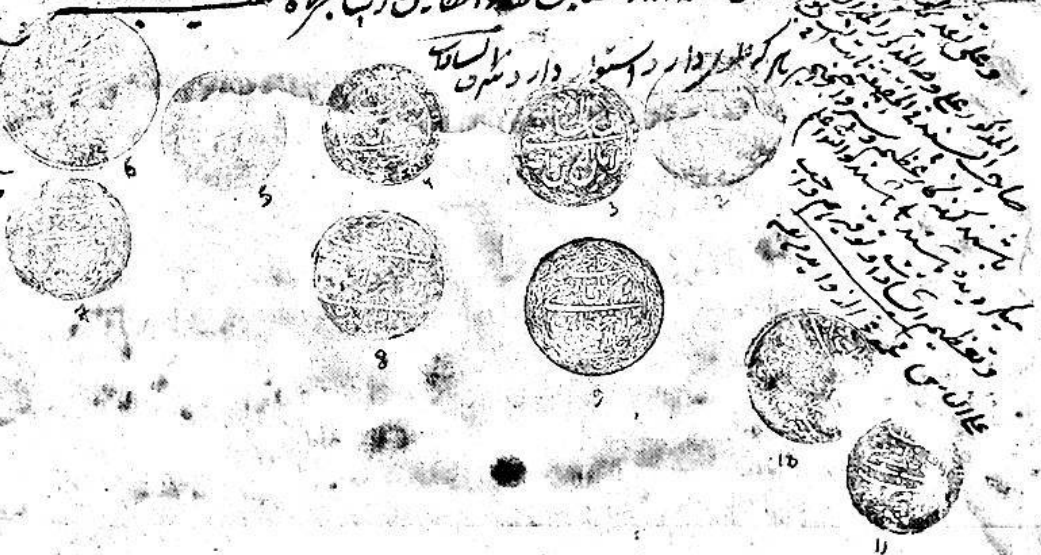
اهل بيت فرسانا و قد اجمع الائمة و الائمة على انهم بعضهم كانت فيهم  
 الاساس شجرة الفراسين هم و كل عصر اروة فخلق و سادات الفرس كيف اولاد  
 بنينا على علم محمد و لا يحقوا بمواسم و يرضى برضاهم و غضب غضبهم  
 فتدبرانية و فصل اولاد فاطمة على اولاد ابي بكر و عمر و عثمان من غير ان  
 عنهم اخوة الطاهرة و الذرية الطيبة اكد اذ مهلب الله عنهم و ظهرهم تطهير  
 سجع امانا او اجب على الائمة و يخرج الفقيه او مكو و هم من اهل  
 يخرج و هم القبول زام رخصه و لا يجوز ان يخرج من العو  
 سيد هداية و لا يجوز ان يخرج و لا يجوز ان يخرج من العو و القرينة  
 خاتمة و لو قال السيد عجل الطعن ثبت نسبا كجد سكرن السادة  
 و من قال اننا سيد فقال الاخر كسنت فهو اثم و يجب بموتة الفساق  
 و ان كسب خود اعلموا لو قيل ان كسنت اسوار و ايند سكرن السادة  
 و من مات على نقض آل محمد ما كان ذرا من مات على نقض آل محمد شتم و تحية  
 لثقت و فيما فيه خون الكفر و جرم بالنتوة و تجديدهم و انكساج اجيال و سواد  
 العو فضل من العالم و ان كان اميالا من اولاد اهل الله و س ان يكون  
 الله صل الله عليه و سلم فضل و اشرف من المخلوقات و كذلك اولاده و كان فيهم  
 فادري ما فيه و انكساج فضل على جميع القبيلة و اشرف رسولنا صل الله و س  
 محظوظ به لا يجوز لاصل العالم او لغيره ان يمس في حق حبيب الله و س  
 و الله شرف السادات اولاد مصطفى صل الله عليه و س ابن رسول خوانند  
 سكرن السادات و لو قال اننا سيد و قال الاخر كسنت سيد فهو اثم و يجب بموتة  
 انكساج و انكساج اشرف السادات هم كه خود و اعلموا لو قيل انكساج اسوار  
 و انكساج اشرف السادات و الله اعلم بالصواب

الحسين  
 ابن  
 الدين

اهل

بوده باشد و در هر مکانی که حق تعالی بخواهد بر او کرامت  
 واقعات منجلی عالم معلوم او لعل و نور قاصد آیه الاحزاب کفر  
 الخطیحه قویه بدیته کانت او قدیمه لامور الدنیا کالو شیقة لکرمه اولاد  
 الاخرة کتبه اکتوات ارا عیلة و ما کنک اس فیما سنهم کجایز کبیر  
 کما کنک لغرض الفک اسجل قائم اس اهدین لان حکم القاطنی بنفذها هر  
 و ما طفا قاضیخان و القضاة لعلی ما کنک لدر رسول الله صلی  
 علیه و سلم الی یومنا هذا من غیر تکبر و کان کن بالهک کخطابة شیخ اسبا  
 الاخر صد ابجلس العلماء لابن ادریس علی علم عم اولاد علی سادات اندک اولاد  
 ایشان عین عرفان و عبادت ایشان کف و کفر است که سادات اولاد  
 و بجه اعیان عالمند از حرمت و کرامت ایشان از این جهت که خواج  
 و زمین گفته اند انصارین شیخ الطائین ربنا شجرة طهیه

العلماء  
 و کتبه ادریس  
 و علیه بنو  
 تاج الاسما



و کتبه ادریس  
 و علیه بنو  
 تاج الاسما

و علی قدر  
 صاحب المذکر  
 و کتبه ادریس  
 و علیه بنو  
 تاج الاسما

4.  
 جب ایادت فضل العبادات و بغضهم عظم استیا کفیه و ما کاجب  
 اول لب فرماید و خدا صبح الاله و الاله کما کما بعضه کما کما کما کما



والوالد قطع الولد تعلم تعظيم الوالد وحقه بحقير الوالد شانه و...  
 صحاح النسب بر جميع مسلماني الامم واحترام ايشان واجب بر اول  
 عليهم السلام اگر مواد لادی القابلین شدو الطالمین لی و بجز آیه که  
 اتنا یرید الله لینهب عنکم الکرهین بن بیت و بظهر کم تطهیر ادا الله  
 و علم بالصدور

# ما قولهم لا اله الا الله

در همین سلسله که جماعه سادات کام از انجمن اولاد

الاحترام حضرت امام شافعی علیه السلام که ابنا عن مطهر عمواطین  
 ماضیه در نزد حکام موفو و محترم بود و در شجره طیبیه علویه با سلسله نسب ایشان  
 متصل میگردید چنانچه با تفسیر و شرح نسبیه که مکتوب شد قضایه استرام  
 و حکام ادلی الاحترام خوانتم خود بار در این نسبت فرموده اند که الحال  
 در ایدایش است **حکمت مطهره** غراب بنیوی و غیرها القاد

و شجره مذکوره بر تفسیر و محبت شریعی بوده عزت و احترام و تکریم  
 سادات مذکورین، کافه نام لازم باشد و امانت و استحقاق انجمن  
 موجب خیران اید با سلسله و نیز ایشان مصرف خراج باشند و وجب  
 باشد بر من له الولاية که خواجه از ضرایب ایشان را باری که از حد حکم است  
 بوده باشد و در مکالمه حق تعالی است

چونند عند انکار بودن تا اوده شده  
 کسب السیر ایضا المفسر حکم کرده شده صحیح الیه اولاد بودن آنها حکم صحیح حاشیه  
 نخبه مانند کتوب این سند ثواب انکار و سوره اولاد و فرزندان و جانی مصلحت کوز ثابت  
 شده و نیت غیر بجهت قضا و الا و حکم ذور الاجتهاد نیت یافته و اجماع صحیح  
 خواهد بود مذکور نسبت اولاد خود ضایع شود و کویله اعادة در تا ورج ماحمد اول اول  
 ۱۲ ساله انرا از سعه و از دی بود که از بالای شیوه آنها امتساح گرفته بینه  
 ۱۵۹۶ و اوده به از باده نوشته ضمایع کرده که در کتب کتب و الودع



انقلوا اليك عن ابي عبد الله عليه السلام  
 الحقا الا شدة و بعد هم اولاد رسول صلا الله عليه و سلم ثم اولادهم عليهم السلام  
 لان من علم الله لا فضل الا بمفاخرة الانبياء زاهدي و عتبه اولاد

2.



بوضار ارباب دین و دولت و بزرگان تقاضا و ملت خفی و پسر میادگی  
 از کسانان خواجگان متوطنان امام شاه قلیله مزار فایض الانوار جباری  
 خواجگان و دوسف صاحبان این و اسما خواجه این و اسما خواجه این  
 مذکورند پس همانند سر مساق اینان چه کما ملین و نشانی خوار  
 و فرزند خوار و از سر خوار اینان یک پسر صد اعما خوار  
 و از نشانی خوار مذکور یک پسر شال خوار و از فرزند خوار مذکور دو پسر  
 ابوالخوار و دیسون خوار اینان مذکورند در صدر رسیده صحیح است  
 اولاد حضرت رسول اکرم صلی الله علیه و آله من شمس جانی سند عالی و نوحه  
 سر عدالت مذکورند مطلق بدان باعث این تسویه نوب الیک و سوره اخلاصی که  
 اینست که نامهای ابا و اجداد بزرگ ماضی و سادات ما تقدیم زمانه است که  
 تسبیح باین حدیث نبوی صلی الله علیه و آله وسلم *الولد خیر الوالد* تقطع *الولد* استلما  
 الوالد بنیاد سائر آنها مقدم کرده است بر ضایر حکم عطا و قضاة ذوالاکرام  
 و علماء اسلام عاملون و علامتا بر سایر خوارها مستورند و گفته میاد که در تاریخ  
 ماه ربیع الاول ۹۳۳ هـ این دو عهد نمودند و در کتابت شد نسیب عالی نام  
 برده شده که در کتب درستی و قاضی ملا صالح الخوانساری در حلیه صفی کوثر در املا میرزا  
 و در عین صفت خوار و ولد ملا شمس بر کد این معدل و مقبول الشهادت بودند  
 چونکه عندانی رسیده نام آورده شده که از کتب ملا زحر و ملا حسن و ملا حسن و ملا حسن



حضرت عظام الكدور ومع ذلك از جمله شیخ المسایح حضرت امام شانه قطبه مرزا باغبی الاول  
 نوره الرحمان رضوان حدیقا عنهم کما ان سبنا تام وعلاقه دار از قدیم الایام الی  
 بند الهکام ابا وجد ابنا بعد بلین از سلطان ماضویه و حکم علیه بودند نذورات و هدایا و  
 ان عطیه علیه نام زد شده از از وجهین مذکورین از ابتدا مجال تا اینکام اخذ نموده  
 کرده اند ~~سند مطهر غفر بنوی صیاد الله علیه وسلم~~  
 علی شایعها الصلوة والتجهه در منصوره رسد و ولایت بابک مراد صاحب السند  
 مذکور که نذورات مذکوره را در هر شهری و در هر بلده فی انی مکان موجود یا بنده اخذ  
 بجوای خود با کیفیت شرط صرف و خرج نمایند و علی تقدیر الاخذ و تعرف الاخذی علی ما  
 بیلا سند کسری منع نموده ما اخذ از استه داد نموده اخذ نماید اسطفا  
 و علی تقدیر التسخیر والهدای علی اسند المذكور و به المراقب حوخته سند صاحب السند  
 فی الحقیقه ثابت بوده بابک کنگه عظم و اسرا و از حجیم جمیع سید بابک  
 اسطفا سور و توفیر نمود و رسد و باشد واحد علم



النذورات المخصوصة فیها  
 فان مات منتقل الی ولده و ولد  
 ولده بطریق الارث جوامعها

بجز آنکه در این اسطفا او نایب علی عمل من اعمال اله نبویه و هو منصور علیه و الاخر  
 بیس نه یه شی من اسند فصاحب السند اولی و من تعرف علیه بدون اسند فمستقل  
 الاولی والایق فی نذورات مقبره اولیا الاولاد  
 ولا يجوز اخذها الا من تعرف فیها مع وجود اولاد المذكور حتی یسوغ سلوادان  
 بمنقوه الاخذی عن التصرف فی نذوراتها فی حیطه والنذورات الهیئة فی مشایخ صاحب  
 السند فی مقبره الاولیا و المتقدمة بطنها بعد بلین و لهم الاخذ النذورات المذكور  
 و تعرف فیها مع وجود اولاد المذكور حتی یسوغ سلوادان

النذورات التي باوت الناس بها  
 مما قبوا الاکسباخ کما ان  
 يعرف علیه مع انبوب و لا  
 بعضا علی بعض الارباع و  
 عمده الاحکام

و من ارباب نمودم بد ایند که من درین شامه دو اعظم میگذازم یک از دیگری بزرگ است  
 قرآن و اول بند من بعد از آن من با آن دو هر یک سکن خواهند کرد و در حق حقوق آنها کونه  
 خواهد بود که آن دو هر یک یکدیگر خواهند شد در لب جوش کوزه من رسند **در اول باب**

13.

**بسم الله الرحمن الرحيم**  
**الحمد لله الذي جعل في خلقه حكمة**  
**و جعل في القرآن حكمة**

خواجگان مشوطة حضرت امام شاه قطبیه مزارها بغیر الانور صحیح النسب در اول حضرت  
 اکرم صلی الله علیه و آله بودند ظلمت الشمس جانی هستند و شجره این مذکور تا طی سبب آن  
 افضل از عالم و از خلوتها و از جمیع سایر انفس با سببند **در اول باب**  
 و ائمه **ع**

14.

العلوی فضل من العالم وان كان امثالاً من اولاد الرسول صلی الله علیه و آله و سلم افضل و اول  
 من المخلوقات و اولادها لکان الاجل فیها و اعلوی فضل من جمیع القیام

بقره  
 لا یؤخر لوجه العالم  
 الا لیس فی الامر  
 الا لیس فی الامر  
 الا لیس فی الامر

**بسم الله الرحمن الرحيم**  
**الحمد لله الذي جعل في خلقه حكمة**  
**و جعل في القرآن حكمة**

15.

خواجگان باکنان مشوطةان قریه امام شاه قطبیه صحیح النسب از اولاد  
 حضرت عظام الله ...



در شرف النبوة آورده که حضرت رسول صلی الله علیه و سلم فاطمه از ان باز نام آوردم  
و دو بیت و اشتکان از دوزخ جدا گشته اند لان اعظم فضل و اعظم مغرب لفظونه سرور است

الحديث الرابع في الشارق والهداية والناصح والهادي ابانما نفع ان الله صوم فاطمه

محمد فاطمه من روح الناس و هو صوم منهنما من النعم  
شرفات ادا

الحديث الثامن في الكاشف اللهم صل على محمد و عائلته و اذ اجوز و ذرية كصيت و عا ال ابراهيم

انما حبيبه محمد شرفات ادا و في شرفه الاسام في باربعه و تقدم اولاد

بهره لاشي و جلوس فيه ايضا في با الحس و اعظم اسم اولاد رسول صلی الله علیه و سلم و بعرفه و احکم

و بحسبم في تدبيره و تقدم على نفسه في كل شان في تشيخ امام فخر الدين فخر الله عنهم لا يجوز

لا يجوز الاسم و اشرفه ان مجلس في الله الامي و اهل بيته لان ائمة ذالك

در پنجام الفتاوى و دلالة امته من مولا با جلاله مخلوق من فاته كذا اوله العلوية من جارية غير

او بنحج لا يدخل ملك مولا با ولا يجوز ربيعه كرامة و شرفا لعله محمد رسول الله صلی الله علیه و سلم

دلايت في هذا الحكم اجد من ائمة الفتاوى القابلية ولد اهلوه من جارية غير حاصلا لا يخل في

مولا با ولا يجوز بيده فرج جانب الابا عمت با جده محمد رسول الله صلی الله علیه و سلم و لا ال اكه

و صاحب جمعین شرف ادا

اعوذ بالله من الشيطان الرجيم ولا يستوي محنة ولا اسية بموا بوشيت و يما و بد در مجازات

و مكافات و در تفسيره و وطن بن عین مذکور شده که حسنه دوستی آل محمد صلی الله علیه و سلم

و الكها و اعما و سائید و شمره استن از ایشان  
تفیر مولا حسین و علم

در و ابی انکه حضرت حضرت رسول اکرم صلی الله علیه و سلم فرموده اند که مرا کو یا علم بالا بخوانند

و من اجابت نمودم بد اند که من در دن اینه علم

8.

9.

10.

11.

12.



ومن ذرية داود سليمان واليوب ويوسف وموسى وهارون وكذلك نجح الحسين وذكرنا وكثير من  
الائمة حتى كرمهم ليس على ان ائمتنا شئت من قبل لام ايضا انه جليل من ذرية نوح عليه السلام وهو  
الابلام وهذا اوجب حجاج حين انكر ان يكون اولاد الفاطم اولاد رسول الله صلى الله عليه وسلم

دليل الله على عام كحرف شرف

تو شرف الاله فخر ان الله انش كل عام بقية مراتب عند الفقه وتفرم كذا لاول شرف  
الاشرف والعالم في عرفهم طراف اللطراف في خط الاطراف بخذ ذلك هو الفقه واطول لا يزال تبارك  
واجرا العصالان شرف الكون في نبينا صلى الله وسلم وشرف الفخر ذل بعيم الاجتبا  
فضل كيرم بر جند عالم وذا بد باشد اگر عجز بود فرزندش با عجز كفو بود وعلو را كجرا حتى بود غير با  
كفوقه فضل كير عالم نوديك لعبره وبتبيله خود ما من است بنى اس در اس و جن و جا يك  
در جا يك حجام علو و جميع قبيل فاضل است شرف رسولنا صلى الله عليه وسلم فضل در باب سما و صفا  
چنانچه آيات و اشهاد فضائل نازل است لعون مايم نيز در سا ايشان و آيات و افاضل است لعون  
ولكن در زام و نجاة ، سبحان لفض صبح و حديث صحاح ذكر منيت بلكه مجمل طراح اش را  
رعابا ت فرموده است كما قال رسولنا صلى الله عليه وسلم ان اولاد الصالحين الله الطاهرين

شرف الادات

الحديث الاول في الكرامات الحسين فاضلان في الدنيا والاخرة وابرهما غير منها وفيه ايضا  
بنيا من آل ابي ابيم عليه السلام شرف الادات  
وذا الله استودر الحقايق لا يجوز ذوال الايمان من الالباب عليهم السلام واثرة المكرة زوال  
الله كما عليهم اجمعين واولاد رسولنا صلى الله عليه وسلم واذ اصد واجه و ابن بدر و صد ابن صية  
وامتاعهم بالشهادة و ايشاره على رسولنا صلى الله عليه وسلم واذ اصد فيقول النبي صلى الله  
عليه و هو يكون كما قال امانى حن بيا الصحابة والمؤمنين لا يقول لاصد بعينه انه من آل الجنة  
او من اهل النار واما في قول من مات مؤمنا فهو في الجنة ومن مات كافرا فهو في النار



وفيه الدورهم على الورق فمعلم بل لا يفني اولاد رسول صلي الله عليه وسلم حجت الله برطق زركه تحقيق اية  
 وكد كما اقول لا اسئلكم على اجرا الا المودة في القربى قول الله عز وجل من بعد ما بعثناهم من قبلك من قبلك  
 معتمدا على ما اوتوا من عند ربهم ان الله لا يهدي القوم الظالمين ان الله لا يهدي القوم الظالمين  
 ويحل عنتهم من ذنوبهم التي كانوا يمارسون ان الله لا يهدي القوم الظالمين  
 الحديث الاول من الاكثاف الا من مات على جبال محمد مات على جبال الامن مات على جبال الامن مات على جبال الامن  
 الايمان الامن مات على جبال محمد مات على جبال الامن مات على جبال الامن مات على جبال الامن مات  
 على جبال محمد ترف المجلد كما ترف العرس الميت زوجها الامن على جبال الامن مات على جبال الامن  
 مات على جبال محمد بل الله تبارك وتعالى مزار ملائكة الرحمة شرف اب داود موصى

قال رسول الله صلي الله عليه وسلم طوبى لمن مات في جبال اهل البيت او صل بجبله شرف اب داود  
 العادل اذا اذنا فداو حملوا على اب داود والعلو والام من باهم باهم تقطع  
 صلي الله عليه وسلم واهل بيته وعبره لمن يحسنه بالتغزيب والبلخ والوجع  
 وفيه ما لم يزل فضله لا يافضه الانبياء وفيه ما يستحقه من وجوه الشرح والنعمة والنبات  
 واهل خلفه الرابع على ترتيب محلا فيه بعدهم اولاد رسول صلي الله عليه وسلم على كل واحد من الاله با اتفاق اولاد  
 لقوم من رسول الله صلي الله عليه وسلم وشرف اولاد خلفه فقد خلفوا قال بعضهم لفضلوا بنهم

شرف اب داود موصى

قال النبي صلى الله عليه وسلم كل مولود يولد على الفطرة الا يهودا او نصرانيا او مجسما  
 قال النبي صلى الله عليه وسلم اجاب الله لاهل بيته من بعدهم فاجابوا لاهل بيته من بعدهم فاجابوا لاهل بيته من بعدهم  
 وفي اسلام الله معصية شيخ اشيع فممكن في قابه حب رسول الله صلي الله عليه وسلم لا يله  
 من حبت اولاده شرف اب داود وعينه الفرحان الحسن واهل اولاد فاهم من الله عنفا  
 اولادها اولادها فكل اولاد رسول الله صلي الله عليه وسلم قال النبي صلى الله عليه وسلم ان اهل البيت  
 واهل بيته اهل الارض فاذا ذهب نجوم لاهل البيت فيموتون وادور ويبك اهل بيته

الارض يومدون شرف اب داود موصى

الحديث الاول في الشارح والماسحة : ان ...









خاتم حمه بار در آن فرموده اند که الحال در ایدی این است که  
 مطهره غرا و بنویسند و همها الف صلوة و تحیه شجره مذکوره بمصوم علی بن علی  
 بوده عزت و احترام تو قدر اکرام سادات مذکورین که نام لارم با هم  
 و امانت در استحقاق این جماعه موحرران اند ما که وزیران  
 مصروف خارج باشند و واجب است بدین الولاية که خراج از حضرت  
 باین گذارند **الطبخ** بوده باشد و در  
 مکن در حق بیگ مال برین طبع از مکه کانه و اتفاقا من قال العالم عو لیم او

لعدو مطور قاصدا بیه الا حقا کفر شی الله الخ طح حرة قویة منته کایون عمه لاوران  
 کالونبة اعتر اولو لاوران حرة اذک لایع و ما ملک الس و صمیح بجان  
 کون حج بک لعدو الصک السحاح اب الس لان عم الله سعد طرا و اطاقه بیجان  
 و انصاف من کالس لدر سوال منه س الله مع الامانه ان من علیه کالس کالس کالس  
 سح اساه حمر الاح لعدو لعدو العلاء لعدو لعدو لعدو اولاد  
 سادات اند که ولاد این عین عرفان عداوت این محض کفر و کفر است که سادات  
 نوزده اعیا عالمند از حمر کس از ریش از این که حرام گوین گفته اند انصاف



اداره شهادت تمام است اشرافاً لعلها لعلته حکم کرده شد صحیح است و اولاد بودن نام بوده شد

کمان مذکورین را بایشان مذکورین حکماً صحیحاً شرعاً این بود صورت واقع که بدین

نظم تمیز یافت بجز من العدل ان القاد  
انفساً شرعاً با اعلان افضل الخلق بعد نبينا اللطيف و قبله

الخلقاء الاشدون و بقیم اولاد رسول صلی الله علیه و سلم غم اولاد هم عظیم  
لان مقام افضل الانبياء و رابع دعوتهم الولد خير من الوالد  
الولد استلم معتم الولد و تحقره تحقر الوالد نشاء در آنچه صحیح است  
بر جمیع مسلمانان اکرام و حریم ایشان واجب است بفرقی که علیهم السلام اکرام  
اولاد الصالحین و الطالحین و غیره ایامی که می آید بر خداوند است  
ابیت و بظهور تمطیراً و الله اعلم بالصواب ۱۲۲۰

بسم الله الرحمن الرحيم  
الحمد لله رب العالمين  
والصلاة والسلام على سيدنا محمد  
والآله الطيبين الطاهرين  
الذين هم اصحابنا  
والمؤمنين و المؤمنات  
والمسلمين و المسلمات  
الذين هم اولادنا  
والمسلمين و المسلمات  
الذين هم اولادنا

در سینه که جمیع سادات اکرام از اجتهاد او  
الاجرام حضرت امام شاه قطیبه رضی الله عنه که با عن صید مطهر عواطف طین  
ماضیه در نزد حکام موقر و محترم بوده بکبره طیبیه علویه سلسله نسب ایشان  
میگردید جناب آن بختیون نسب که مکتوب شد قضاه اسلام و حکام اولاد اکرام



3



# هذه هي أسماؤهم

ابوالاعلیٰ عظیم و صاحب الحج و اکرم اعدا الملین الزمان و شیخ خو قین له در اعا  
 ایک و ضابطہ الممالک و طرث الاسلام من المہا کاتبک مع البغاة و حاکم الغزاة بغیاش  
 ابن استودا الین معین ابن لاسلام و امیدین ابوالفوارس حضرت امیر شہان  
 مسلم بن عمر بن علی بن ابوالحیاء بہ رایتہ الاسلام و ارتفعت ابو جہر فی روضتہ الاعضا  
 و احوذ فالعدل منہ بحکمہ مننتہ و اظم منہ بحبل القہر مشہ و داوانہ صاحب التاج و  
 الایم و واجب الغر و العظیم منہ سید عبد اللہ الملقب بنہ فحل ہوس قد برنہ ابنہ ہدایا  
 حضرت شاہ ادریس علی و ابنہ معارف ہست کا ہی شاہ قاسم ابوزاری ابنہ شاہ  
 قاسم عسکر و ابنہ امیر سید شاہ الفار و ابنہ امیر سید شاہ رشید و ابنہ امیر سید  
 شاہ قاسم میر و ابنہ بدر اللہ و الہ بن الکا امیر سید مذاب کلی بودہ و ابنہ الحضور  
 من اللہ بعبقیر الکبری و لم یمنلہ من الاولی و الایم حضرت من الایم قد ہن کتہ و ابنہ  
 محمد و ابنہ امیر سید اسما و ابنہ امیر سید محیی ابنہ و جید الزمان فرید الدوران شاہ  
 اسحاق علی و ابنہ شاہ امیر سید صلاح الدین و ابنہ شاہ امیر سید فضل و ابنہ امیر سید  
 صالح و ابنہ شاہ امیر سید و ابنہ شاہ امیر سید عبد اللہ و ابنہ شاہ امیر سید علی  
 و ابنہ شاہ امیر سید عابد شاہ و شاہ امیر سید کتہ شاہ و از عابد شاہ فوز مذی بودہ شاہ  
 ابوعباس و ابنہ امیر سید و ابنہ امیر سید و ابنہ امیر سید و ابنہ امیر سید



بروی سپاسگزاران اندام کاشوده بطاعت داد یکسر آیند و تبرج سعادت  
 غرور و روش ملت بهیاسی مخصوص و کوشش لاقصور مقبدم رسانید و بعد  
 انقضای مدت مدید و عهد بعید بنا بر سعادت جاسپدان آزمان و نمازگزاران  
 اندوران با تمام صد و در حیرت از آن شهنشاه جهان کج بن اسودام با بر سر  
 ابن عبد الملک که خلیفه آن ایام بود سلبه کلج آمده بدج شهادت رسانید و محمد  
 مطهر و مرقه معبر او در آن مقام لازم الاحترام است و نیز او بیشتر کج و از آن  
 دین نیا به اولاد او اجناد در آن شهر مانده قرآ بعد قون بطاعت بعد لطن الی یومنا  
 نداد سر فرافضی آنار منبع الانوار تون در زید خوان الوان طعم و آب شیر  
 بزار آن و هفتان و واردان و صادران مکبتر اند سلطن لمعقار و خداین  
 معدلت آنار کج مذوی الاحترام و ولایه صاحب اجتم هم عصر و زمان مقبلمان  
 بقعه شرف را با حکم و اربانید جهان مطاع عام مطیع خودها سپر افروز در مین  
 کی خلاقی سر بلند و ممتاز کرد آید هر کلام بقدر افاضل و معتقد خودند و در اول  
 بساکن آنجا میسرند جز انشم الله خیر الحیاة

لهنرمی ۱۲۰۵



ایشان سعی مشکوره و جهد موفور مبذول داشته از هند قوم بانهت  
اینج تقوم درین صحنه قیام نمودند و آن اینست که جناب سلطنت بنای از اول  
عربستان از بابل دند پدرش مسلم بن عمرو که بقول صاحب جمه یک از اطفال  
محمد زین العابدین رضی الله عنهما علیهم اجمعین بود باعث بر تشریف قوم سچات اوم  
جناب مملکت ماوراءالنهر این بود که در زمان خلافت ولید بن عبدالملک در آنجا  
بمارت و حکومت بلاد خراسان منصوب نامور کرده شدت پسیر با  
بستقلال عام بعد از او بنظیر امور ملک مکتب و ترتیب مامورین و دولت  
نمود و در آوان حکومت خود مردمان همیشه با دجا سوسه با از احوالات هر گز  
دارر بمالک ماوراءالنهر و سپه تا از اوضاع و اطوار حکم انجا خبر دار کرده  
سپانن خطه بخارا و سمرقند کثرت اثر کشید و بقوه بازوی شهنشاهت

و بتایید حضرت مالک الملک هدیه بعد از جنگ جبال بسیار و بس از عهد مراحم  
قبیل قال بشیما بقید ضبط و تسخیر کشید و ولایت اورا بتیبه و خجند و اندجان  
اوش و اوزک و کبک و خجند و کاسان تا حدود ممالک مغولستان منضمه  
ممالک و سر خلافت گردانیده و جمیع تجانه ها و تشکله ها و کنایس را منهدم کرد  
بجای آنها بجن و خوانق و مدارس بنا فرمود و شهر کلج که در الملک کج  
بود در سلطنت خود نموده مامن قامت و محل مامت نموده ابواب و در

و امام شاطبه بن مسلم بن عمر بن علی بن ابوطالب بسیاری از صحابه عنوان الله علیهم السلام  
دشت بود و تهری و مروی و خراسان و سجستان و طبرستان و خراسان و خراسان و خراسان  
و اوز چند و سود کند و رونق و باراب و اطرار و کاخ و اخیسکت و کاتب و بلاغون  
تاجد و مغولیت کتا و مانند اینها مگر ابا رکت کرده اند نخستین مسجدیکه در شهر بخارا بنا  
کرده اند مسجد خواجہ امام زاید صفارت رحمة الله علیه نخستین مسجدیکه در شهر غرقند بنا کرده اند  
سعید بن عثمان رضی الله عنه نخستین مسجدیکه در واز و چین است و در واز مسجد کلرا  
و در حصا مسجد امین این مسجد را حضرت امام شاطبه بنا کرده اند و هر شهریکه میگذرد  
مسجد و مزار ابا رکت کرده اند و این مسجد بود آنچه از کتب معتبر چون روضه صفای  
و بعضی اصلاح و غیره مآثر شده و آنچه از ابا رکت در کتب کما در این شهر مذکور است که هر دو  
و همین خبر نوح شوکت نقاد و صاحبین سلاله الافطهرین باخبار مردان عدول  
اسموا و دید درین صحیفه برداخته میشود تا نسبت سابقه را تا کیدی انشیه  
و مولاد موده لاجه را تا سپه نمیدر ژرد و از آنجا که فاطمه سی مطهر هر یک از خود  
کان فرزندان آن کی شان تحقیق این علی نسبت بان عالی مرتبه تعلق آمیخت  
و هر کدم از اولاد عالمیقدار که در اطراف مدفن آن بزرگوار بقبریه کلج میکنند  
تا بیغی همت را بخدمت فقا و کسین بعضی فیض نال و لطف کامل مردی مشتاق  
بگذارش عطیه سینه و موهبت و نکارش فضل بسیل و حیان جزلی از  
و نه بد منت بختبند بی فیت بروج برفقون آن و الا جناب خیر المآب  
و مغفرت مزخا استند خوانند که شجره کهنه و ذوق عتیقه و تبه الاندر است  
این از نو مجد و کشته تجدید تعمیر از معمار تصویر علاج تنویر یا بدین تامل  
ارشا بسع مشک و حمد مرفو مندان داشته از نزهت ممانت

حضرت سیدنا ایام ساه قطیبه کو کلابی اندک اسام تدس ره اغریز الحمد لله جملہ علم اشیا  
 من فضل السعادات و سر موتهم من حسن العباداتی و جعله احبته اولاد نبیه و صفه راس کما  
 و عدل المشرفات و الاممکة بسع استجابا و استکوة و اسام علی رسول محمد الودایت  
 و علی له و صحابا و ازواجه الطیب الطاهرین برای سافیه و عقول فیه اولی الالباب و حکم ذوی  
 الاقدار و خواص نبی آدم که مکتوم بکرم آیت کریمه که **وَلَقَدْ كَرَّمْنَا بَنِي آدَمَ**  
**خَشَاهُ وَنَزَّلْنَا آتَانَا فِي احْسَنِ تَقْوِيمٍ** و  
 کشته اند و اصلی لی یوم القیامه روی قبیلہ آوردن فریضه است خواجه امام زاهد فخر الله  
 رحمة الله معرفت قبله اور سبست کردانید ازین آیت کریمه **قَوْلُهُمْ كَمَا وَمَا**  
**خَلَقْتُ الْجِنَّ وَالْإِنْسَ إِلَّا لِيَعْبُدُونِ** مراد از اول این آیت است  
 مرنا کر ویدکان را بگردیدن و کردیدگان را بر پرستش پرستش مؤمنان نماز و سبست نماز  
 روی قبیلہ آوردن فریضه است هم آیت و هم بخیر و هم باجماع امت آیت این است  
**قَوْلُهُمْ كَمَا وَمِنْ حَيْثُ خَرَجْتُ قَوْلِي وَجِئْتُكَ بِشَطْرِ الْمَسْجِدِ الْمَكِيِّ**  
**وَحَيْثُ مَا كُنْتُمْ فَوَلُّوا وُجُوهَكُمْ شَطْرَهُ** قال النبی علیه السلام طهرک الله  
 و استقبال القبلة و قل الله کبر سنله حاضران را روی عین کعبه آوردن فریضه بقول  
 امام فخر رحمة الله قبله میباشد و نه غربت و تمسک بدین حدیث میکند قال النبی  
 اسلام القبلة بین المشرق و المغرب علیا رحمهم الله گفته اند که رسول صلی الله علیه و سلم این  
 حدیث را در حق این نیه و اهل عراق فرموده است از برای آنکه مدینه بجانب رهت کعبه است  
 چون از آنجا روی کعبه آرد بر قبه میباشد شرق و مغرب و این آنکه حدیث دیگر فرموده است که  
 قال النبی صلی الله علیه و سلم القبلة لاهل مدینه و اهل العراق بین المشرق و المغرب و در سبست  
 جواب بار صحابه رضوان الله علیهم جمعین بنا کرده اند سعد بن عثمان رضی الله عنهما

القرآن الكريم  
 سورة النبی آیت ۵۸

القرآن الكريم  
 سورة النبی آیت ۵۸

القرآن الكريم  
 سورة البقرة آیت ۱۴۴





بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

عَنْ أَبِي بَرزَةَ عَنِ النَّبِيِّ

صَلَّى

هَذِهِ تِلْكَ مِنْ أَسْبَابِ الْمِيرَةِ الشَّيْبَانِ الْقَطِيبِ بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

الْحَمْدُ لِلَّهِ فَضْلًا عَلَى بَعْضِ الْجَبِّ وَقَدَّرَ لِلنَّاسِ قَدْرًا وَمَنْزِلَةً عَلَى مَقَدَرٍ

رَفَعْتُمْ بِالنَّبِّ وَجَعَلَهُ فِخْرًا لِلْأَوْلَادِ عَلَى مَرُورِ الْأَحْقَابِ ذَكَرْتُ تَوَارِثَةَ الْأَعْقَابِ بِالْحَقِّ

وَلَمْ يَكُنْ عَلَى رَسُولِهِ مِحْطٌ بِالْأَسْرَارِ وَمُضِلٌّ لِلْأَنْبِيَاءِ عَلَيْهِمُ السَّلَامُ وَعَلَى آلِهِ

وَصَحَابِهِ خَلَاصَةً السَّلَامِ تَحْفَظُ دَائِمَةً إِلَى يَوْمِ الْقِيَامِ نَظْمٌ صَدَقَ بِهِ إِرَانُ أَوْفَرِيغَانِ

بِرَقْدِهِمْ هَرَفَرُ زَيْدَانِ أَوْ نَكَرُ زَيْدَادِ هَمِي يَأْزُرُ زَيْدٌ بِي مِرَاجِ آبِ كُلِّ بَنِي

شَخِ كُلِّ هَمِي جَاكِرُ وَيَدِي هَمِي كُلِّ بَنِي نَحْمَلُ هَرَجَاكِرُ جَوْشِدِ هَمِي كُلِّ بَنِي

زُرْ نَعْرَبُ زَيْدِ خَوْشِي دَرُ بَنِي هَمِي جَوْشِدِ زَيْدِ هَمِي زَيْدِ هَمِي جَوْشِدِ زَيْدِ هَمِي جَوْشِدِ زَيْدِ هَمِي جَوْشِدِ

عَلَى الْعِلْمِ وَقَدَّرَ لِقَاءَهُ إِلَى يَوْمِ الْقِيَامِ بِقَابِ حَسْبِ الْأَسْرِ وَقَبَاؤِ الْفَسْرِ وَالشُّكْلِ نَبَاؤِ

بِالسَّلَامِ وَالسَّلَامِ وَالسَّلَامِ وَالسَّلَامِ وَالسَّلَامِ وَالسَّلَامِ وَالسَّلَامِ وَالسَّلَامِ وَالسَّلَامِ وَالسَّلَامِ







در آن شهر مانده قرنا بعد قرن بطنا بعد بطن لایو منابذ ادریس مزار فیض آثار منبع الانوار توطن و در  
 خون الوان طوم و شمشیر بزرگ آن و پیا نزان و واردان و صادران میکتند سلاطین  
 عالیقدر و خوانین معدت آثار حکام ذور الاحرام و ولایة صاحب حشمت هر عصر و زمان میمانند  
 بقعه شریفه را با حکام و پیا نند همانمطاع عالم مطیع خود پیا نند و در میان پیا نند  
 ضلایق سر بند و ممتاز گردانیده هر کدام بقدر اخص و اعتقاد خصوص مذورات و صدقات پیا نند

در آن شهر مانده

هاتک اسامی در فروع

الولی الاعظم و صاحب بجد و اکرم اعدل سلاطین الزمان اشجع خواجین الدوران فظالم ملک  
 وضابط الممالک حارث الاسلام من الممالک قاص البغاة و حامی الغزاة غیاث اهل الملل الذی  
 معین اهل الاسلام و اسپهان ابو الفوارس حضرت شاه قطیبه ابن سلم قدس الله سره  
 علت بر رایة الاسلام و ارفع و احضری روضه الاعضان و الجود فالعوان من الممالک  
 منتشر و ظلم منه یجیل القهر مشد و ابنة صاحب النج و ولد بهیم و و ارجع و انظم  
 مهر عبید الله الملقب شاه مغل پوش قهر سره و ابنة هایت بنا هر حضرت شاه ادب و  
 و ابنة معارف و ستمگاشاه قاسم انوار و ابنة شاه قاسم و ابنة شاه انصار و  
 شاه شمس ابنة شاه قاسم میر و ابنة بر المله و الدن لای که امر مذاب بکون  
 و ابنة الفخوری و ابنة قطیبه الکبری و لم یکنه من الاولاد و اولاد فرح سره من انبیا قدس سره  
 و ابنة مهر مهندس و ابنة مهر اسعد



خلافت و لید ابن عبدالملک در خلافت شام بامارت و حکومت بلاد خراسان منصوب  
و مأمور گردیده مدت پذیرده سال بک استقلال تمام بعد از ادا به تنظیم امور مملکت ملت و تربیت  
همه دین و دولت قیام نمود و در آواں حکومت خود مردمان بشمار و جاوسان از اجوائ  
هر بلاد خبردار را بمالک و وراثت فرستاده از اوضاع و اطوار حکام آنجا خبردار گردیده  
بر سپهکنان خطه بخارا و سمرقند شکر نصرت اثر کشیده بقوت بازوی شهبانیت و صراحت  
و بناید حضرت مالک الملک حدیث بعد از جنگ جدال بسیار و پس از تمهید مراسم قبله قال  
پشمار بقید ضبط و سبج کشیده ولایت و راتبه و خجند و اندجان و اووش و اوزکندکنار  
و اسپیک و کاپین تاصد و ممالک مغولستان پیش نموده ضمیر ممالک محوسه خلافت گردانید  
و جمیع تجانه ها و تشکده ها و کنایس منهدم گردانیده بجای آسناپ جد و خوانق و مدارس بنا فرمود  
و شهر کلج کردار الملک امیر کفار بود در سلطنت خود نموده مامن اقامت و محل امانت نموده اوج  
و آسپان بر روی مسکنان اندیا کرشوده بطاعت و ادب کشید و بترویج شریعت غرور و  
ملت بیخاستی محض و کوشش ملاقصور تقدیم رسانید و بعد از انقضائت مدید و عهد بعد بنا بر  
حاصل آن زمان غمنازان اندوران با تمام صد و چویمه از آن شنست جهان و کعب بن هود نام  
پس همان عهد الملک خلیفه آن ایام بود جمله کلج آمده بدرجه شهادت رسانید و مشاهد  
و مرقد مغربه او در آن مقام لازم الاتهام است و نیز او تیرگیه و از آن شاه دین پناه اولاد و  
در آن شهر مانده قرنا بعد قرن بطنا بعد بطن لایونما پدید آمدن فرقیه آثار منوالان از آن طریقه



رهت میکردند و کرده ایشان بعد از بوده است آنچه از کتب مقبره و چون در وقت  
و بجز مصالح و غیره با مرثیه که در آنجا از آنجا و بخورد که در آنجا در آنجا  
در چه دولت و در این اختر بزج شوکت فاقه اصلا بل بیان سلاسل  
باخبار مردمان عدول مسعود که درین صحنه پیدا شده مرشدان است سابقه را  
تا کیدی توکت غیب و موالات نمود و لایق را مناسب و کلمه کرد و از آنجا  
حافظه مصر مطالب بر هر یک از خواجگان و فرزندان آن عالمان بمحقق است  
نسبت با آن عالمان و سادۀ تعلیق نام داشت و هر کدام از اولاد آن علما که  
در اطراف مدفن آن بزرگوار تقویت کالج مسکن ساخته که پیشینجه است را بخندت  
فقرا و سائین محضر قضیر شائل و لطف کامل مصروف می داشت بکذا از آن عظیم  
و بهیبت عیال و کفایت و فضل سبیل و همان فریل از دهنده به منت و شند  
بجستند بر و به بختی آن والا جناب خیر الایب دعا و مغفرت می خواستند  
خواستند که شجره کهنه و وثقه عتیقه قریبه الا نذر اسنت ایشان از نو مجرد  
گشته تجدید تعمیر از معمار تصویب علامه تئویر یا بدست آنها نشان سر مشهور  
و بعد موافق میند و داشته از سندییم بانفخ این نوع تقویم در آنجا تمام مشهور  
و آن است که جناب سلطنت پناهی از ولایت عیبتان از باهل بودند پدرش مسلم  
بن عمر و او که بقول صاحب ترجمه یکی از احفاد امام محمد زین العابدین رضی الله عنهما  
بود باعث برشته یف قدوم سعادت لزوم جناب و بملکت تا ورائه این بود که در زمان



روی بعین کعبه آوردن فرموده است بقول امام شافعی رحمه الله علیه میان مشرق  
 و مغرب تمسک بن حدیث می کند قال انسی علیه السلام اتقبله بین المشرق والمغرب  
 علما و جمهم الله گفته اند که رسول اصلی الله صلی الله علیه و سلم این حدیث را در حق این نبی  
 و اهل عراق فرموده است از برای آنکه حدیث بجانب است کعبه است جو از اینجا  
 روی کعبه آری قبله می باشد شرق مغرب شود دلیل آنکه حدیث دیگر فرموده  
 قال انسی صلی الله علیه و سلم اتقبله لایلا لمدینه و اهل العراق ما بین المشرق و المغرب  
 مرویت که محراب حاراجا به عنوان الله کاعلیهم جمعین بنا کرده اند  
 سعید بن عثمانی فرموده امام حضرت قطیب بن مسلم بن حضرت سعید بن عثمانی  
 بن ابوی بابی از صحابه عنوان الله کاعلیهم جمعین و بنا بر روی  
 و مروی و حسن بن علی و نوزد و بخارا و ترقند و فرغانه چنانکه او شن اوز  
 و بود کند و رونق و باران اطرا و کاشغور و خبکت و کابان و کابان  
 ما حدود مغربستان و بنده اینند محراب باران است کرده اند نخستین  
 مسجد کیه در شهر بخارا بنا کرده اند مسجد خواص امام زاهد صفار است رحمه الله  
 نخستین مسجد کیه در شهر ترقند بنا کرده اند سعید بن عثمانی رحمه الله  
 مسجد کیه در دروازه چمن است در دروازه مسجد کلان و در حصن مسجد امین  
 مسجد بار حضرت امام سید قطیب بنا کرده اند و در شهر کیه مسجد کیه  
 مسجد کیه در دروازه چمن است در دروازه مسجد کلان و در حصن مسجد امین





## 2. فەلگانا بېنىنىنى مازىل قىمىتى

2. Documents discovered in Ferghana Valley

2. Фарғона вадийسىدا توپىلغان ھىججەتلەر

2. پەرىغانە ۋادىسىدە تېپىلغان ھۆججەتلەر

هنک صحیفے سے یاد قلیسا صالح لاری اللہ  
تعالے نیک رحمتے یا غور دیکان بولور اولوچ  
ایشان بوتور اول بودرود شریفان  
اوقوب آندین کین اوتوسون

QM01-33



کہیں، سورہ بیسی نے اوقوب تمام پلنگان  
 دینا کہیں اولوغ ایشان نے اوقوب دعا  
 تاسا جمع پنجم اولیاء مشایخ پر  
 او عتاد جہان نیک یوزید بارلیق  
 کشتے لار بوکشتے دین راضی بولوب  
 تانکلا قیامت کونی شفاعت  
 قیلور بوکشتے غم بو اولوغ ذات لاری  
 وسیلہ قیلخان سبب دین اللہ  
 تعالیٰ نیک رحمت باغور دلیل بودور  
 ذکراً الصالحین تَنْزِلُ الرَّحْمَةَ

QM01-32

حق طعام کافہ اہل ایمان جمیع  
 المؤمنین والمؤمنات والمسلمین  
 والمسلمات الاحیاء منهم والاموات  
 انک مجیب الدعوات ورافع الدرج  
 جات ومنزل البرکات ودافع البلیات  
 ویات فی الحاجات برحمتک الرحیم  
 فاتح آیت الکرسی اخلاص مع پنج  
 رہتا بطریق نیاز ختم کردائیم ہو  
 صغیر کے یعنی کجک آرزو دعا لاری بیان  
 قلدوق کرکشی نماز با عدد دین

QM01-31

فاتحہ آیت الکرسی اخصاص مع پنج  
 کتاب بطریقہ بیان ختم کردانیم جمیع  
 کتابیا عالیم متعلم اور روتی توفیقان  
 مسافر مجاور نارسیدہ و رسیدہ  
 قل وازاد ہم غہ بود عابیلان دعا قلیغای  
 بارواح پاک پدران قادران و اقربان  
 معلمان و متعلمان حقی حقداران  
 و جمیع مجاوران و مسافران و غریب  
 و غریبان عیتم و یتیمان نارسیدہ  
 و رسیدہ و بندہ و آزاد حق اسلام

QM01-30

و حضرت خوجه براء الحق والدين تقبندى  
 شاه مكرم نور الله فرقد صم اولاد ايشان  
 و حضرت خوجه موسى خان ديهيدى و حضرت  
 محمد خوجه حضرت خوجه اومى قرنى  
 خوجه حضرت خوجه احمد ياسوى  
 حضرت بايزيد بسطامى قدوة  
 العارفين و سيد المشتاقين محبوب  
 رب العالمين ميرزا دسكيرا خوجه  
 آفاق هداية الله عز و خندان ياران مجبان  
 ايشان عدد استعانت ميطلبيم

QM01-29

ذید ابن ثابتؓ عایشہ صدیقہ ابو  
موسیٰ اشعریؓ قحاذ ابن جبلیؓ  
رضوان اللہ تعالیٰ علیہم اجمعین  
فاتحہ آیت الکرسی اخلاص مع پنج ربنا  
بطریقہ نیاز ختم کردائیم اولیاء الار  
حقیقہ ادعا قیلغای بار و اح پاک  
حضرت مشایخ خان و بزرگواران  
خوجہ گان عالیشان قدسی اللہ  
سرہ العزیز حضرت مخدوم  
اعظم حضرت غوث الاعظم

QM01-28



امام شافعی امام مالک امام احمد حنبلہ  
بارواح پاک علی النخوصی حضرت  
شیخ عطار ولی حضرت مولانا جلال الدین  
رومی حضرت شیخ شمس تبریزی  
حضرت شاہ قاسم انوار حضرت شیخ  
سعدی رضوان اللہ تعالیٰ علیہم  
اجمعیین بارواح صفت خلفاء  
الراشدین عبداللہ ابن عمر عبداللہ  
ابن مسعود عبداللہ ابن عباس

QM01-27

وعمر الفاروق وعثمان بن التورين  
 وعلي المرتضى رضوان الله تعالى عليهم  
 اجمعين بارواح پاک خدیجہ کبریا  
 وفاطمہ زهراء وعایشہ صدیقہ حضرت  
 امام حسن رضا و امام حسین شہیدان  
 وشت کربلا رضوان الله تعالى عليهم  
 اجمعين بارواح پاک وجميع اصحاب  
 بار کبار والمهاجرين والانصار  
 بارواح پاک حضرت امام اعظم

QM01-26

رضاء اللہ تعالیٰ عنہ پتھران ما تقدم  
 علی الخصوصی بارواح پاک حضرت سیدی  
 کائنات و خلاصہ شفیع موجودات  
 رسول الثقلین و نبی الحرفین شفاعت  
 خواہ روز جزا پست فنا عنہ حضرت  
 پتھران محمد مصطفیٰ صلی اللہ علیہ وسلم  
 ابن عبد اللہ ابن عبد المطلب ابن  
 عبد المہاشیم ابن عبد المنافی و جہار یار  
 با صفا عنہ حضرت ابابکر صدیق

QM01-25

الصِّيِّ مِنْ جَمِيعِ الْبَلَايَا وَالْأَمْرَاضِ وَصَلَّى اللهُ  
 عَلَى خَيْرِ خَلْقِهِ مُحَمَّدٍ وَآلِهِ وَأَصْحَابِهِ أَجْمَعِينَ  
 هر بنده نیک الله تعالی غمه کنیک بر حاجتی بود نور  
 بود حاجت لاریم روا بولون قیلغان عمل  
 لاریم مقبول بولون دیب ربنا آیتانی  
 ربنا تقبلنن او قوب دعا قیلغانی آندین  
 کین فاتحه آیت الکرسی اخلاصی پنج ربنا  
 هر دعا دین کین او قوب دعا قیلون هم حاجت  
 لاری روا مشکل لاری آسان عمل لاری مقبول بود نور  
 پیغمبر لاری او چون بود عانی او قوغای

QM01-24

بر لختیک و بار لختیک اریق ذاتیک  
 و توفسان تو قوز آطیک و یک بر صفاتیک  
 حتی حرفتی الهی احد اصل ملکا  
 پادشاه پر کرد کار عالم کلام ربان و تنزیل  
 آسمان و نانه دو جهانی بخشیدم مدد  
 استعانت طلبیدم اللهم ربنا اتنا  
 فی الدنیا حسنة و فی الآخرة حسنة  
 و قنا عذاب النار ربنا تقبل منا  
 انک انت السميع العليم اللهم  
 احفظنا یا فیاض یا فیاض یا فیاض

QM01-23



خدا او جون عبادت قیلا یدیبه اللہ تعالیٰ  
 دوست لاریڻے دوست تو سحاق دور وینے  
 «دشمن لاریڻے دشمن تو سحاق دور دلیل  
 پردور قال الفقیه ابو الیث السمری  
 قندی افضل الأعمال صالات الایماء  
 ومعادات الأعداء الرکبۃ دعا قیلو  
 خدا یولید بود عانی او توب دعا قیلغای  
 الحمد لله الحمد لله رب العالمین  
 دیب اوج مره درود او توب دعا نیک اخیریدہ  
 ہم اوج مره درود او توب دعا یاندوغای  
 إلهی احدا صمداً مکما عبوداً مسجوداً

QM01-22

که فایده برور وقتی که اوزون زمان  
اولوغ لار نیک خدمت ده بولوب  
بوسوز لار نیک تقدیر قلدیم بهم  
خوش کلدی بوسوز امام صفار  
نیک بخار سیدانسیه لطف دور  
اولیاء لار نیک اخیری حضرت شاه  
مشرب اولیاء بیلان صوفی اللہ یار  
دور اندین کین اولیاء لار بار فزندان  
دور سیر کیم اللہ تعالیٰ امر لار نیج برجا  
کلتور سیر کیم اولیاء دور هر شیخ

QM01-21

اكر انداق بو فاسا برعوش تفرق دين  
 نمة فائده بولور ایدی رسول علیه السلام  
 اول قه حال لاریدا خبری یوق ایدی  
 وقتیکه بو معنی نه بیلدی انیکه عندک  
 سینی الله و انیکه نزلتکم عن زیارة  
 القبور الا فزوروا یا معنی سه بودور  
 یعنی بولدو فکه سیرلار نه نهی قیلدیم  
 قبره لار نه زیارت قلیش دین  
 الحال ایستامکه زیارت قلیکن لار

QM01-20

کرام لار سورا د پلار حضرت رسول اللہ فرمان  
 لادی وقتیکہ جمعہ کچھ سے مؤمنان لار نیک  
 روح لاری حضرت رب العزت تعالیٰ  
 دین اجازت تیلاب بود نیاغہ بشنبہ  
 ارشہ سے ہر روح اوزی نیک جسد  
 لاری نیک برا ہریدہ نورور پینہ ہر روایت  
 وہ تن کہ کورور دیب دور نور تنجی  
 آسماندا افتاب نیک نوریا تمام عالم  
 غم روشن بولغان غم او خشمہ و روح  
 عالم دیکلی تن لار کہ روشن لیک ہرور

QM01-19

ایکنجی حدیث نہی قیلدیم من سیز لار نہی  
 اہل قبور لار نہی زیارت قیلش آیار یارت  
 قلیکیز لار او جو نہی حدیث حدیث  
 قدس دور اللہ تعالیٰ بے کام و بے زبان  
 ایقان حدیث دور معنی سے ایقادور  
 اللہ تعالیٰ من دلی سنوق لار نیک تاشیدا  
 من وینہ قبره سے جورہ کانلار نیک یانیدا  
 من دیکان بولور فی اولیاء عشایح لار نیک  
 توفاسی نے زیارت قیماق نیک فایدہ  
 سی بار مو یایوق مو دیب اصحاب

QM01-18



ویاںدوروب توتتا اوز نفسنی زہی  
 ایشلار دین فی بتحقیق اول کتہ نیک جای  
 جنت دیکان بولور ایالک نعتبد دیکان  
 آیت نیک معنی سے بندہ چلیق قیلامن سکا  
 یار مند چلیق ایستایمن سن دین دیکان  
 بولور اولقی حدیث نیک معنی سے وقتیکہ  
 حیران بولسا فلکیز لارا امر لارده یعنی ہم ایش  
 لارده فی یار مند چلیق طلب فلکیز  
 لارا ایل قبور لار دین وینہ قرانلادی علیہ السلام

QM01-17

حضرت آدم علیہ السلام نیک حضرت  
 حواء انام نیک پاک روح لاری تو شکان  
 شی کوروب بو حدیث مشرفی نه فرمان  
 لاب دور اذا تحیرتم فی الامور فاستعنوا  
 من اهل القبور و دیگر فرموده از ذکر نیکم  
 عن زیارة القبور الا فزوروا لان  
 الله تعالى یقول انا عند المنکسرة قلوبهم  
 والندرتة قبورهم واقامن خافی  
 دیکان آیت نیک معنی سی و اما کتیکه قورق  
 سا پروردگار تعالی نیک مقام ده قورق سا

QM01-16

اللَّهُ تَعَالَى نَبِيكَ وَأَمَّا مَنْ خَافَ مَقَامَ رَبِّهِ  
 وَنَهَى النَّفْسَ عَنِ الْهَوَىٰ ۗ فَإِنَّ الْجَنَّةَ  
 هِيَ الْمَأْوَىٰ دِيكَانِ قَوْلِيغَه صَدَقِ دَل  
 عَمَلِ قَلْبِ اَوْزِ نَفْسِ كَمَا اِيكَابُولغَانِ  
 دُوسْتَانِ حَقِّ لَارِ دُورِ اِنَا اِنَا سِي نِي  
 زِيَارَتِ قَلْبِشِ وَاجِبِ دُورِ اَوْلِيَاءِ حَشَائِخِ  
 لَارِي زِيَارَتِ قَلْبِشِ مَسْتَحْبِ دُورِ اَمَّا اللّٰهُ  
 تَعَالَى نَبِيكَ اِيَّاكَ تَعْبُدُ وَاِيَّاكَ تَسْتَعِينُ ۗ<sup>و ط</sup>  
 دِيكَانِ قَوْلِيغَه حَضْرَتِ رَسُوْلِ اللّٰهِ نَبِيِّ تَلِيْبِ  
 دُورِ اَمَّا مَا هِ مَحْرَمِ اِي نَبِيكَ اَوْ نُوْبِحِي كَجَمْعِ

QM01-15

ایک اولیاء ہری شہر فیذا جو ہم پنے ہری  
 نگار فایفاق جو ہم دور لار بو قومول  
 اطر افیدا جمع قرق برابر سکر عیال اون  
 ایک ولے تو قوز صوفی اون او غلمان لاری  
 بیان ہمیش اولیاء قومول خلیق لاری پنے باذن  
 اللہ مددگار دور ہر کیم غم اللہ تعالیٰ توفیق  
 برہ بو اولیاء لاری دعا برائت شب قدیر  
 ایک عید کچھ لاری ازینہ دویشنبہ اختتام لاری  
 ہر پینشہ عمل قیلنجان کونلار دہ پاک روح لاری پنے  
 فاتحہ او قوب دعا قیلون بوذات لار

QM01-14

علم الرحمت خیر باد و سلام تورت مرید  
 لاری برلہ بوذات علم نیک ایک سے دو آرا  
 توروک داکمی بزرگوار لار نیک اسم لاری  
 آتی کو مبارک بزرگوار نیک اسم لاری سید اللہ  
 غازی ایک سے عیال اسم لاری بہ یہ صدیقہ  
 بہ یہ خدیجہ دو لار نرین کیر داکمی درخت  
 لبق غول داغی ایک اولیائیک بری نیک  
 اسم خوجہ عبداللہ انصاری نہ ہری  
 شیخ عبداللہ غازی ہار کول پولید

QM01-13



اغاچام دورلار غایب بزرگوار نیک  
 اسم حضرت پادشاهیم نیک تمورخان  
 اولوغ چایلاری اولوغ یولداغی بزرگوار  
 نیک اسم لاری خوجه بیتم خوجم دور  
 اوغلان یولاق دینگی بزرگوار نیک اسم  
 لاری حضرت محمد یحیی ایلی صوفی لاری  
 ببله اسلندت شهر بدین صوفی لاری  
 نیک اسم بیری حسن ینه بیری حسین  
 دورلار یالغوز توپون داکمی بزرگوار  
 لار نیک اسم لاری حضرت سلطان

QM01-12

مولانا سعد الدین عزیز کا سانہ قری  
 حاج لبق بزرگوار نیک اسم لاری  
 سلطان ستوق بخرخان غاوی  
 ینہ بری خوجہ اعدار ولے ینہ بری خوجہ  
 اسماعیل زاہد ینہ بری عرش الدین  
 اوغلانلاری خوجہ حسن ینہ بری خوجہ  
 حسین و شیخ احمد غزالے ینہ برلاری  
 سلطان اعلیٰ عارفین ینہ بری خوجہ  
 محمد سید ینہ برلاری خوجہ حضور  
 ینہ بری خدا یار شیخ ینہ بری بی بی مریم

QM01-11

شېو در اسم لاری ملا عبد العليم خوجم  
ينه بري خوجه اسماعيل خوجم نظر  
باقی سدير نيك ايشك الديدغي و ل نيك  
اسم نامعلوم زور دين شيخ نيك ادي  
نيك قبله طرفيه اغاجا لاريم بار بولر  
نيك اسم لاری هم نامعلوم طوزنان  
پوليداغی خوجم نيك اسم لاری حضرت  
سعيد لوک آتا قرا توبده شهر  
اوستونداکمی بزرگوار نيك اسم لاری

QM01-10

آغا جام التے اوغلان لاری بیان دور  
 لافجوق نیک کرمه شهر اجمید یکی  
 بزرگوار لاری نیک اسم لاری خود لقب  
 ینہ بری ابوالنصر الدین ینہ بری سلطان  
 بابا داجین اعظم آتا اوغلان لاری  
 فقیہ محمد دیرلار بہستان بزرگوار حضرت  
 اولوغ حضرت پادشاہیم نیک دادالاری  
 حضرت مرید جلیل کاشقر دین  
 کلپ بچندیل درسی اتقان  
 اولوغ جای لاری دور شهر دستوندگی

QM01-9

توغاچی دا اوج ایریر عیال تورست  
بزرگوار بار کوجت لیک بزرگوار نیک  
اسم قیصر رومی ینه بری گل جهری  
عمر ینیم ینه بری حضرت سلطان  
کوردک لوک آتا ینه بری حضرت عبد  
الملک آتا دور جاقماق بولاقداغی  
بزرگوار نیک اسم لاری حضرت  
شیخ سیدی آتا دور نورغون  
لشکر لاری پله الحال فرمان دور جاققانغو  
بزرگوار نیک اسم عزیز گل خان

QM01-8



اور داخی مسجد نیک اوستون یا نیدا  
 ولے لار بار اسم لاری نام معلوم توہی  
 اور دانیک کونچقیش طرفیدہ برولے  
 بار نیک ہم اسم نام معلوم یارتکورہ  
 دہ قور غوی اغا جہ لاریم بار ایکن  
 بو شچہ کتہ ایکن لاکہ نام معلوم چہ مار باغ  
 داشیکلینک شہر دین الیب جققان  
 خو جم نیک اسم لاری قیس خو جم دور  
 بو ذات بول اسم اولادی سید دور  
 ہم اولیالار دین اولوغ ذات دور

QM01-7

اغالار دور سوم قارشه داعی یزر کوار  
اوج کیش دور اسم لاری اوسس اغالار ابراهیم  
ادیم دیرلار بری فنهان دور شیش پیماسی  
استانه یزر کوار نیک اسم لاری عبد  
العلیم دور اتا بابا لار نیک دیکان سوزیکه  
قرانخاندا بو اولیئا هم دین الکار کلپ  
قمول خلقنه ایمانغه دعوت قلب  
کچک بلا لرغه بردان ایگه دان چکده  
بریب لا اله الا الله دنکلار دیب سر حلقه  
بولغان ذات دور قمول شر ایچده

QM01-6

بوغاسیدور آلتونلوق داغی ولے لار  
 نیک اسم لاری پنج نامه ولے دور اصلا  
 بشی کتخ دین عبارت مشور یقاسی  
 داغی ولے عشور قلندر دیب آتاب  
 دور یریم اولیا دور لکر بزرگوار ایشی  
 دور اسم لاری حضرت سلطان  
 قیام الدین آتاپینه بری غیاث الدین  
 آتادیرلار بوغاز بزرگوار نیک اسم  
 لاری حضرت سلطان کوک توغلوغ  
 کورونلوک آتادور لکر بزرگوار نیک

QM01-5

قَلْبَانِ اَوْلُوغِ جَايِدِ وِرْ صَوْفِ لَارِي نِيك  
اسْمِ لَارِي بَرِي تَوْشِ مَوْنِكُو زِ صَوْفِ  
بِنِه بَرِي تُوَكِ بَاشِ صَوْفِ دِيرَ لَارِ قِزِ  
بِه بِه عَزِي زِي مِ نِيكِ اسْمِ لَارِي بِه بِه  
رَابِعِيَه بِه بِه عَدِ وِي تِه دُورِ سَوَابَشِه  
دَاغِي وَلِيّ اللّهِ نِيكِ اسْمِ لَارِي خَوْجِه  
اَحْمَدِ وَلِيّ اللّهِ دُورِ بُوَايِكِي وَلِ اَغَا  
بُو بَاقِ دُورِ جَوْنِكِ كُو مَبَا زِ دَاغِي وَلِ  
نِيكِ اسْمِ لَارِي پَرِي اَحْمَدِ وَلِ دُورِ

QM01-4

تولد قیلخان جای اون سکزیل توردا  
 تمولتد دعا گو یلوق قلب حنون  
 شریفی نه جاری قلب آندین اوراد  
 قشچیه او توب ذکر جهرتہ سورہ پسن  
 تعلیم قیلخان اولوغ جای دور سو باش  
 داغی قدم جای لاریده ہم اولتورنوب  
 صوفی لاریدین ایک صوفی نه تعیین  
 قلب مرفوع قلم قلب التون عهد  
 لارینی پاسیب بزیب دعا گو یلوق

QM01-3



ایلیغ بزرگوار نیک اسم لاری حضرت

سلطان کموش کوروک لوک آنا

غائب بزرگوار نیک اسم لاری مولانا

حسن آنا خوجه مسجد بزرگوار

نیک اسم لاری حضرت میر اعظم

شاه آنا سران بزرگوار دیکان

حضرت اولوغ حضرت پادشاهم

کاشقر دین کلیب اولتور و غلوق

بولوب حضرت سید افاق خوجم

QM01-2

قہول شہرا بجد کی و تابع لاری کی  
بار لیق بز کوار خو جم لاریک اسم  
شہر لاری بو ترو۔ الیک بز کوار خو جم  
ہم نیک سر حلقہ سے دورینہ پر روایت  
استانہ خو جم دیب دور الیک خو جم نیک  
اسم شہر لاری حضرت سلطان  
عزیز اللہ ینہ پر روایت دہ ینس عم  
۴۶ در لار تو غلوں بز کوار نیک اسم  
لاری حضرت سلطان سید بلخ آتا

QM01-1

با اول خطی بود که فتیوی محبت ایام غار حوض و دیده تاریخ غور برینک حج بوز قریب اوج ده  
 تا خویسار ما در مضامین شکر ایام ایکی سگ کون یعنی خطای حساب بر این گونیک کت او جو  
 بیله او جو بی ای نیکان ایکی کون من کیم تو لک شکر در من تنم ساق عظیم بر حساب  
 لا عقالیق و متجدد اناق اقرارش عن تبدیکه انجید اریق و او جو نیک نام شانا لوت کر  
 بر باره ایکی کوریک میراث بریم اساتیب جور و غدا ای ازید ایریم نیک نیشیا  
 بو یوب بو بریم نیک شیخی من نیازش شیخ سید کنی لاشیب بو ایکی کوریک برینک میراث  
 بش بر دین ایکی بر بازار اوله تو خدیغ نیا زش شیخ ساق اساتیب برودیم شول کون بر بو ایلیک  
 بزار اوله بر بو ایلیک کوریک و ب ابدی من شاکیر از ایلیکم کوریک باقی تا به شور و ب اولیم شول کون برین باشلاب  
 بو ایکی کوریک میراث برینک ایلیکم دین سید تعقیب نیازش شیخ غم ملک میراث بودی شول کون برین کون  
 من یا منیک ایله اولاد برین برتر برکشه جنیب بو برین ساق اتمان و سید دعوائی قلیغود کون بو ایلیک  
 قلیغان دعوائی بر شریک نیک ایلیک یا قلیغود کون ساق بو ایلیک ساق  
 مهر و کرم لارینه با ستور و ب تلیم بر کلان خط و شیخ بو برینک معلوم لوق چهار حدی بو قفقاری طریقی  
 قمارنه جو لک جویم نیازش کی قله طرف غول آرقین هم شور  
 کونجه قیش طرف نیازش شیخ نیک برکی تو بر طرف  
 بر در کلانیک و تقییری بو ایلیک ملاحه سور کراق باقی دهستان  
 ذیح یسول تو شیخی سول ایچا لور شاملا روزی تران ش شیخ لار شاملا دورلا



ذکر پیر و صادق و بیاید و رنا طوق ملامتار حضورید ا مخفی نامد کو قالمغا یکیم تاریخ شم بر یک ایچ یوز  
 الان سپیند دهنده و نه یل یعنی خطای سپید و انما شوی نیک یکیت  
 جش بنی مدعی آئی نیکیت بر کون منیکم قارن چونک الیاس و دوسن تین  
 ساق عقیم حیل الام اعضالیق و قتیما انداق اقرار صحی قیلدیکه انجیکه ایز  
 نیک ساسی پارچه و اتمام دین میراث قالغان بر پارچه تورست کوریکیت  
 یوز صحیح قیلدیم بوز نیک معلوم لوق جبار حید و اولی شمال طرفه چونک ایچ  
 لیک ایچ ایچیم نیکه کی کو بختیت طرفه انعام سبور که نیکه کی قبله طرفه اریق تو بن طرفه  
 بوز کوار نیک و قفقیر حضار انجیلین ایش که کواه لار کس و محسب نیاز میت



محبت قر شیح جاروق دهنون  
 ایچام مکه سبور که نیاز میت او س  
 عیال کس و خوبه میت شیح تو خوشن دین  
 آقباق و نیاز ش لار ش امید و لار







1. 新編のヤサ

1. Documents discovered

1. Complete text

1. Complete text

## 1. 新疆のマザール文書

1. Documents discovered in Xinjiang

1. Синьцзянда топилган ҳужжатлар

1. شىنجاڭدا تېپىلغان ھۆججەتلەر

影印

Facsimile

ΦΑΚΣΙΜΙΛ

影印



شىنجاڭ ۋە پەرغانىدا تېپىلغان  
مازار ھۆججەتلىرى  
(فاكسىمىل)

Синьцзян ва Фарғонада топилган  
*Мозор ҳужжатлари*  
(Факсимиле)

Токио чет тиллари ئۇنىۋېرسىتېتى  
ناسىيا-ئافرىقا تىل-مەدەنىيىتى تەتقىقات ئىنستىتوتى 2006



AA Токио чет тиллари университети,  
Осиё-Африка тил-маданияти тадқиқот институти 2006

1.

نۆزگۈچلەر:  
سۇگاۋارا جۇن  
كاۋاخارا يايوئى

Тузувчилар:

СУГАВАРА Жун  
КАВАХАРА Яёи